奈良県臨床衛生検査技師会誌

まほろば

Vol. 22.
通巻99号
2008年10月

NARA AMT

社団法人　奈良県臨床衛生検査技師会

目　　次

			頁
1	会長挨拶	山本慶和	1
2	奈臨技総会報告		
	平成19年度第２回総会開催		3
	平成19年度（社）奈良県臨床衛生検査技師会 第２回総会議事録		4
3	各部局だより		6
4	検査研究部門・分野だより		12
5	各種委員会だより		18
6	奈臨技総会報告		
	平成20年度第１回総会開催		22
	平成20年度（社）奈良県臨床衛生検査技師会 第１回総会議事録		23
7	奈臨技学会報告		26
	第25回奈良県医学検査学会開催		
	一般演題・要望演題		
	シンポジウム		
	ランチョンセミナー		
	論文	中村知世	35
8	先輩からのメッセージ		
		高橋浩	37
		丹羽欣正	38
9	表彰	宮西節子	39
10	平成20年度一般・新人研修会	田中恵美	40
11	日臨技医学検査学会　札幌	木下真紀	41
12	研修会参加記	高倉ゆか	43
13	公開講演会		
	報告	長谷川章	44
	参加記	片岡直樹	47
14	生涯教育講演会	片岡直樹	49

頁

15　橿原健康と福祉の祭典
　報告　安田匡文 …… 50
　参加記　柴田美智子 …… 51

16　なら糖尿病デー2007
　報告　安田匡文 …… 52
　参加記　岸本比呂子 …… 53

17　ボーリング大会
　報告　橋詰千代子 …… 54
　参加記　瀬川義朗 …… 55

18　アウトドアー同好会
　報告　橋詰千代子 …… 57
　アウトドアー参加記　三木里奈子 …… 58
　アウトドアー参加記　石川豊 …… 59

19　スキー同好会
　スキー参加記　岡田雅幸 …… 60

20　旅行記
　尾瀬を旅して　吉田崇 …… 62

21　会員だより
　管球式オーディオ・パワー・アンプ自作への　増谷喬之 …… 66
　ジャムづくり　川越善子 …… 67
　お国自慢　工藤研志 …… 68

22　新人紹介 …… 70

23　御恵贈御礼 …… 72

24　編集後記 …… 74

25　奈良県臨床衛生検査技師会会員名簿 …… 75

会　長　挨　拶

会長　山本　慶和

平成20・21年奈臨技会長に就任して

平成20・21年度の奈臨技の理事が選出され半年になろうとしている。会長、副会長など多くの役員が入れ替わり、何か変化があるかと注視していただいているだろうか。新役員による方針を打ち出せるまで私を含めまだそのような認識に至っていないのが現状である。役員会でそのような認識が続くようであれば、毎年行われる行事をこなしていくだけに陥ってしまう。それだけは避けたいとない智恵を絞っている。

役員会の方針ではないが、少し新しい動きを述べる。１つは地域保健事業部の管轄で「中高年のための特定健診検査入門」作成委員会を設置した。これは高部氏（近大奈良病院）が音頭を取り、特定健診に関するパンフレット的なものを作成し県民に読んでいただき、特定健診について理解を深めていただこうとするものである。大いに期待したいところである。

２つ目は平成22年に第50回近畿医学検査学会を奈良県が担当することになった。定例より早い回りであるが、第50回という節目の学会であり充実したものにしたい。４年前（滋賀県の学会）より検査医学会近畿支部総会と同時開催、さらに一昨年からは衛生検査所協会近畿支部学術研究会が加わり、近畿地区の検査に関係する団体が一堂に会する学会に変貌してきている。そのために畑中氏（天理よろづ相談所病院）に学会担当理事を引き受けていただいた。これまでの医学検査学会（日臨技は未だにそうであるが）は技師会員内の発表にとどまり甘さがある、技師、検査専門医、検査業界企業、他関係者が忌憚のない質疑、討論の中で"もまれ"レベルを上げていきたい。そのために魅力ある企画、今後の方向性を示す企画を担当理事に提案してもらいたいし、会員の皆さんには多くの研究発表（このことを強調したいという内容）を持って参加してもらい、学会を大いに盛り上げていただきたい。

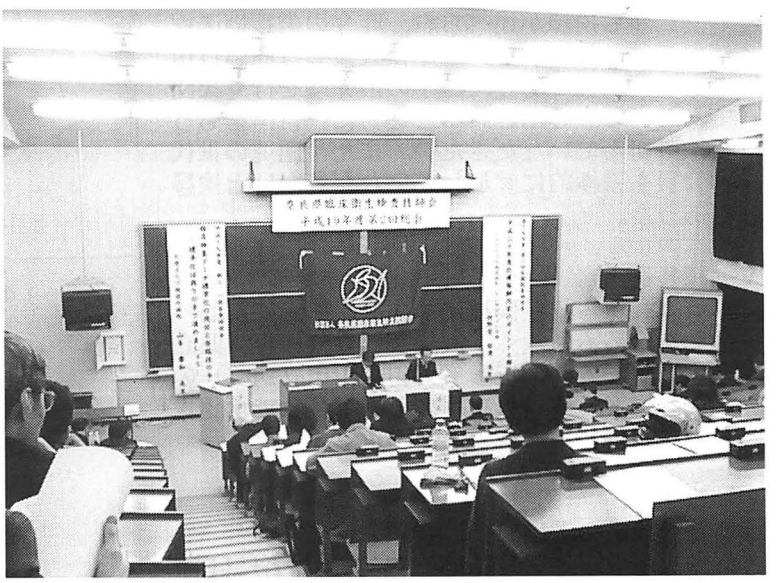
３つ目は臨床検査データの標準化である。この活動はかなり浸透して来ているのではないかと思っているがいかがでしょうか。今年は許容誤差限界を設定し、それを超えた施設に標準化への是正処置について聞取り調査をさせていただいている。これはそれぞれの施設において標準化への取組みを具体的に促し後押しになるものと考えている。各施設で是正処置の成果が上がることを期待したいし、技師会として後押し・協力を惜しまないつもりである。ただし、標準化が目的ではない、標準化によってデータベースが構築できる環境が整うことである。このデータベースを元に統計的・疫学的に数値化されたものが診断、病勢判断、治療効果などに利用されることが期待される。また、こうした所に食込んでいただきたい。

何か新役員会が推し進めるものを提案できるように話し合いを進めていきたい、大きなものでなく持続性のあるものを考えたい。

奈臨技総会報告

平成19年度　奈臨技　第２回（平成19年度予算）総会開催報告

平成19年３月15日（土）午後４時45分から奈良県社会福祉総合センターにおいて平成19年度 第２回（平成20年度予算）総会が開催されました。当日の出席者は委任状を含め357名と過半数を超える出席がありました。丹羽副会長の開会宣言後、倉本会長挨拶。来賓挨拶として、当会顧問の松尾収二先生（天理よろづ相談所病院）から挨拶をいただきました。森分和也（県立奈良病院）、西岡正彦（大和高田市立病院）の２氏により議事進行され、平成20年度事業計画、平成20年度予算案の説明があり、承認されました。その他、提出議題、質問等はなく審議事項はすべて終了したことが宣言されました。詳細は議事録を参照してください。



平成19年度　（社）奈良県臨床衛生検査技師会　第２回総会議事録

開催日時：平成20年３月15日（土）
　　16時45分から17時30分まで
場　　所：奈良県立医科大学　第一臨床講義室
会 員 数：523名（３月15日現在）
出 席 者：357名
　　（当日出席者69名、委任状による出席者288名）
欠 席 者：166名

Ⅰ　仮議長挨拶
北川事務局総務部長から議長選出が完了するまで仮議長を担当する旨、挨拶があった。

Ⅱ　開会の辞
丹羽副会長が、平成19年度社団法人奈良県臨床衛生検査技師会第２回総会を開催する旨、宣告した。

Ⅲ　会長挨拶
倉本会長から、一般・新人会員研修会、生涯研修会に引き続いての総会出席に対するお礼、さらに総会に出席された名誉顧問の高橋浩先生、顧問の松尾収二先生へのお礼が述べられた。また、奈臨技の取組みとして、公益法人制度改革にむけて当会も正しい改革ができるよう組織法規部を中心に勉強会・研修会を開催していく旨、述べられた。さらに、平成20年４月より実施されるメタボリックシンドローム検診により、データの標準化・共有化が求められており、精度管理推進委員会により実施してきた奈臨技サーベイとともに、データ標準化事業の推進に努力する旨、述べられた。最後に、平成20年度の予算について、活発に審議がされるよう要請があった。

Ⅳ　来賓挨拶
当会顧問の松尾収二先生（天理よろづ相談所病院）から挨拶が述べられ、昨今の厳しい医療情勢ではありますが、臨床検査技師は高い技術をもった職種であり、医学の最先端を行く集団であると敬意を示されるとともに、自信をもって取り組んでいただきたい。また、団塊の世代の会員も積極的に参加していただきたいと挨拶があった。

Ⅴ　議長選出
仮議長から議長候補について出席者に自薦、他薦を求めるも無く、仮議長が森分和也（県立奈良病院）、西岡正彦（大和高田市立病院）の２氏を提案、過半数を超える拍手多数で承認され、議長就任の挨拶の後、議事に入った。

Ⅵ　議事
１．総会役員の選出
議長から総会役員候補について出席者に自薦、他薦を求めるも無く、事務局から下記の提案があり、過半数を超える拍手多数を持って承認された。

〔議事運営委員（兼資格審査委員）〕
高橋のぶ子（奈良県保健環境研究センター）
山田浩二　（県立奈良病院）
仁井　忠　（奈良社会保険病院）
松本景司　（県立五條病院）
〔書記〕
吉田和弘　（済生会奈良病院）
今田千鶴　（町立吉野病院）
〔議事録署名人〕
上島孝啓　（西の京病院）
森本和子　（町立大淀病院）

２．総会成立の宣言
高橋のぶ子資格審査委員長から、本日の出席者数357名（出席者69名、委任状出席者288名）で正会員数（523名）の過半数を超える為、総会が成立するとの宣言があった。

３．議案審議
１）第１号議案：平成20年度事業計画
議長から、平成20年度事業計画案について、一括報告後に承認を求めるとの説明後、下記の担当理事から議案書に基づき説明があった。
（１）総括：倉本会長
議案書の総括の補足として、平成20年度は19年度同様に県民の健康維持増進の発信源となり社会に貢献できる団体として取り組んでいきたい。また、後期高齢者医療についても平等な医療ができるように他団体と協力して県および厚生労働省に働きかけていきたいと述べられた。平成20年度事業計画案の詳細については各部局より説明がある旨、述べられた。
（２）事務局総務部：北川理事
議案書に基づき要旨を説明し補足として、今年度は役員の改選の年であり、活動に支障のないように引き継ぎを行うことと、会員の協力支援と理解を依頼した。また、日臨技の倫理綱領の内容に即して、当会も県民の医療および公衆衛生の向上に貢献できるよう活発な会活動を目指し取り組みたいと述べられた。
（３）事務局経理部：藤本理事
議案書に基づき要旨の説明があり、補足として、新たな公益法人制度会計基準を意識して新会計処理を見直していく旨、説明があった。
（４）学術部：今田理事
議案書に基づき要旨の説明があった。補足として、精度管理調査推進事業では特定検診を視野に入れた項目を取り入れ、データ標準化事業と協調して実施していく旨、説明があった。
（５）渉外部：長谷川理事
議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。
（６）地域保険事業部：安田理事
議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。
（７）組織法規部：石本理事

議案書に基づき要旨の説明があり、補足として新たな公益法人制度を意識した定款の内容を見直す必要がある旨、説明があった。

(8)福利厚生部：小林理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(9)広報部：新木理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(10)地区担当部：高橋理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

以上、各部局の事業経過について説明を受けたのち、議長から第１号議案について質問、意見を求めたところ、質問は無く、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

2）第２号議案：平成20年度予算案

平成20年度予算案：藤本理事

議案書に基づき予算案の説明があった。追加事項特になし。

以上、平成20年度予算案について説明を受けたのち、議長から第２号議案について質問、意見を求めたところ、質問は無く、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

3）第３号議案：平成20・21年度役員改選について

島田全康 選挙管理委員長から、下記の平成20・21年度社団法人奈良県臨床衛生検査技師会の役員候補者と、経緯の報告があった。平成19年12月１日選挙を公示。平成19年12月１日から平成19年12月15日までを立候補届出期間としたが、期間中の届出者は１名であり、役員推薦委員会に不足分の推薦を依頼し、役員推薦委員会から定数に至る役員候補者の推薦を受けた旨の説明があった。

〔理事候補者〕

梅木　弥生	奈良県立奈良病院
延命　孝也	奈良県立奈良病院
宗川　義嗣	奈良県立三室病院
枡尾　茂	奈良県立三室病院
久保　修一	近畿大学医学部奈良病院
長谷川　章	高の原中央病院
安田　匡文	阪奈中央病院
山本　慶和	天理よろづ相談所病院
林田　雅彦	天理よろづ相談所病院
北川　孝道	天理よろづ相談所病院
畑中　徳子	天理よろづ相談所病院
後藤　きよみ	天理医学技術学校
藤本　一満	自宅会員（ファルコバイオシステムズ）
山下　幹男	奈良県立医科大学附属病院
倉本　智津子	奈良県立医科大学附属病院
松本　隆	奈良県立五條病院
今田　周二	平井病院
片岡　直樹	大和高田市医師会立葛城メデイカルセンター
橋詰　千代子	国保中央病院

〔監事候補者〕

船内　和美	奈良市総合医療センター
今井　竜子	奈良県立医科大学附属病院
溝口　裕子	外部監事（奈良県栄養士会）

また、下記の選挙管理委員会及び役員推薦委員会の新委員について説明があった。〔選挙管理委員会新委員〕

北垣内　佳予子	奈良県立医科大学附属病院
伊東　哲也	大和高田市立病院

〔役員推薦委員会新委員〕

佐野　麗子	奈良県立医科大学附属病院
吉田　崇	奈良県立五條病院

議長から質問、意見を求めるも発言者は無く、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って第3号議案「平成20・21年度役員」、並びに選挙管理委員会及び役員推薦委員会の新委員は提案通り承認された旨、宣告した。新役員を代表し、山本理事から挨拶があった。

4）第4号議案：一般提出議題

北川総務部長から、総会10日前までに事務局に届いた一般提出議題はなしと、報告があった。議長より、会場の出席者に緊急動議の有無を確認するもなく、一般提出議題はなしと宣告した。

その他、質問等はなく、議長からこれを以って本日の審議事項はすべて終了したことが宣告された。

Ⅶ　総会役員及び書記の解任

議長から資格審査委員（兼議事運営委員）及び書記を解任する旨の通告と、協力への謝意の言葉が述べられた。

Ⅷ　議長挨拶

議長から議事進行の協力に対して謝意が述べられた後、自らを解任する旨宣告した。

Ⅸ　外部監事への謝辞

倉本前会長から駒木拓行氏（外部監事　社団法人奈良県放射線技師会）に謝意の言葉、そして記念品の贈呈後、退任の挨拶が述べられた。

Ⅹ　閉会の辞

山本副会長から社団法人奈良県臨床衛生検査技師会平成19年度第２回総会の閉会宣告が行われた。最後に平成20・21年度社団法人奈良県臨床衛生検査技師会の理事の増員した敬意について、近畿医学検査学会を見据えた学会担当、そして公益法人制度新会計基準を見据えた新会計処理の充実を図るための経理担当の２名を増員したと補足説明があった。

以上、式次第はすべて終了し解散した。

平成20年３月15日

社団法人　奈良県臨床衛生検査技師会

議　　長	森分　和也
議　　長	西岡　正彦
議事録署名人	上島　孝啓
議事録署名人	森本　和子

各部局だより

渉外部担当

副会長　宗川　義嗣

平成20年度より二年間渉外部を担当します。渉外部は何をするところかもまだ理解していない状態ですが、今年度の渉外事業を進めていかなければと思っています。

昨年度は奈良市の公開講座、なら糖尿病デー、橿原市健康と社会福祉の祭典へ当技師会として臨床検査分野での参加協力を行いました。今年度も参加協力していきたいと思います。奈臨技公開講演会は平成20年４月から特定健康診査・特定保健指導の開始にあたり、メタボリックシンドロームをテーマに平成20年の３月講演会を開き、特定検診について県民への啓蒙・理解につなげたと思います。

組織の改正として社団法人から公益法人へと日臨技が移行します。それに伴い奈臨技もその組織改正を行う必要があり、その準備および制度について各技師を対象に学習会を順次開催していきながら改正法人後の技師会活動の基礎を作っていかなければと考えております。

また国際協力機構（JICA）から近畿臨床検査技師会に地域別研修「仏語圏アフリカ臨床検査技術コース」研修の実施協力が求められ、昨年は基礎実習「尿路・生殖器感染症検査/髄膜炎検査」への奈臨技会員の派遣要請があり、平成19年９月11日12日13日の３日間に派遣を行い、同諸国の臨床検査分野の人材育成に協力しました。今年も８月、９月に同研修が実施され基本操作実習と基礎実習「尿路・生殖器感染症検査/髄膜炎検査」に奈臨技会員を派遣しています。病院実習は昨年と同じ奈良医大病院で行われます。

平成20年度の"県民の衛生思想の普及・啓蒙"に対する公開講演会につきましては例年通り講演会企画委員会を中心として６月５日から企画準備等を行っています。県民の皆様が興味を持たれ、多数の参加者が自分のものにできるテーマおよび内容のあるものを模索し企画していきたいと思います。現在決まっているのは平成21年２月15日、橿原万葉ホールで行うことです。例年通り、健康増進のためのヘルスチェックや血糖測定などの簡易検査を行う検査展を同時開催する予定です。内容についての詳細は奈臨技ニュース等でお知らせすることになります。

これらの奈臨技の事業は会員の協力があってこそ進めることができます。会員の皆様の積極的な協力、参加をお願いします。

学術部担当

副会長　今田　周二

学術部門は検査研究部門、精度管理部門、生涯教育部門で基本構成され、本年度から２年間、梅木理事、久保理事、片岡理事が担当していただいています。再来年に開催される第50回近畿医学検査学会は奈良県担当になりますが、今秋よりその準備のため畑中理事を中心に準備委員会が立ち上げられる予定です。また、臨床検査データ標準化委員会は山本会長より猪田委員長に引き継がれ、基幹施設の標準化から会員施設の標準化に向けて進んでいます。

検査研究部門は学術担当理事、部門長、分野長の一部で構成される部門運営委員会で奈良県医学検査学会を担当し、また、日臨技に準じた部門、分野でそれぞれ研修会が企画、運営されています。今年度は診療報酬改定で、迅速検査検体管理加算に細菌検査が含まれたことから、微生物分野では微生物担当以外の会員を対象として、いままで研修テーマとして実施されることが少なかった基礎の細菌塗抹についての研修会が企画され、関係者の予想をはるかに超え、会員が講師としての研修会では奈臨技の記録ではないかと思われるくらいの参加者を得て実施されました。「まほろば」が発行される時には、微生物を担当されている会員の協力を得て細菌塗抹の実習も済んでいますが、多くの施設で微生物検査を手がけようとされ、会員の輪が広がることは喜ばしく思います。生涯教育研修部門では生涯教育研修委員会を中心に検査研究部門では実施しにくい研修会を企画、実施し、また、今回の微生物分野研修会など分野研修を側面からサポートしています。精度管理部門は奈臨技の主要事業である統一サーベイを精度管理委員会で担当しています。昨年より標準化対応のため臨床化学の項目数を大幅に増やし臨床検査データ

標準化委員会と連携しサーベイデータを共有し、会員施設の技術レベルの向上と検査データの標準化を目指しています。そして、臨床検査データ標準化は計画の最終段階に入り、標準化参加施設で管理試料を測定していただき、精度管理状況を把握していくことになっています。

平成22年の全国学会は和歌山県が担当となったため、近畿医学検査学会の担当が一年繰り上がり、再来年に奈良担当で開催される予定です。秋には準備委員会を立ち上げ、用意に入りますが、学会には多く方の力添えが必要です。会員のみなさまのご協力頂き近畿学会を成功させたいと思います。会員のみなさまにはご負担をお掛けすることになりますが、よろしくお願い致します。

事務局

事務局長　林田　雅彦

先日、日本サイトメトリー学会の学会長による理事招待パーティーで、同席した先生方と会食を楽しんでいたときに、何かのきっかけでボーイスカウトが出てきました。ボーイスカウト運動とは青少年の健全な育成を目的としており、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育するプログラムの実施です。

そのパーティーで、同席したテーブルには7名の先生方が座られていました。その中である会社の社長はボーイスカウトでの最高峰の章である「富士章」（ベンチャースカウトで取得、ボーイ隊では「菊賞」が最高であり高校進学時の推薦項目など特技・履歴に記載可能）を取得しており、日本ジャンボリーはもとより、世界ジャンボリーの参加経験を持つ、ボーイスカウトのエリートでした。ちなみにこの最高峰の「富士章」は受験など大学進学や就職に有利とされています。あまり日本では評価されていないが、世界の国々では、ボーイスカウトは尊敬され、あこがれでもあるようです。我家にも海外のボーイスカウトを３名ホームステイさせた経験があるが、自国ではエリート層の家庭であるようでした。

また、同席のある教授は現在もボーイスカウトの団委員として活動しているようでしたし、ビーバー隊、カブ隊の卒業生もおられました。同席者でボーイスカウトと無関係であったのは女性の先生ただ一人でした。ちなみに私は、ビーバー隊の現役隊長であり、月に１～２回は小さな子供たちを連れてハイキングなどを行っています。我々は各団に所属しており、大和郡山市には２つの団しかありませんが、生駒では団名で10数団まであります。私の隊および団での仕事は、年間計画の作成、各回の実施計画書の作成、下見・準備、実施、進歩成績作成、団報告、毎月の団会議の出席。県連盟の監査に対し、年間報告書の作成と面接です。その他に団主催、県連主催の行事に参加します。これらの活動は、すべてボランティアで、参加・指導にかかる費用はすべて自己負担であり、報酬はありません。

現在、日本政府は公益法人制度改革を進めており、活動団体を整理し、本来の目的に沿ったより公益性の高い法人を認定制をもって選別しようとしています。民法で示されている公益法人とは、教育または科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献、その他公益の増進に著しく寄与する団体であり、現在全国に存在する約25，000団体の3．6％しか認定資格がないとされています。しかし、この認定のメリットは、税制の優遇処置と格付けによる社会的な信頼の獲得です。付け加えると寄付者は、そのような団体への寄付である安心感と税金控除もあるようです。デメリットしては会計処理や活動報告書など複雑となり、作成書類の倍増と、活動が認定を受けた事業に限定されるため新たな事業はそのつど認定を受ける必要があります。ただし、定款の書き方次第で事業内容の自由度は高まります。奈臨技会員の皆さまは、社会に対するボランティア精神に溢れて、奈臨技の活動を指示し、参加して下さっています。この活動をさらに発展させ、有意義にするために、今一度我々の社団法人について考え、議論していただきたいと思います。

我々事務局は、社団法人格を維持するための書類の整備が重要な仕事です。全会員それぞれ仕事の分担をし、臨床検査技師の技術・知識を活かして、社会に貢献しましょう。

事務局総務部

山下　幹男

平成20・21年度の事務局の総務を担当します。職場の異動と重なり任務の遂行が旨くできるか不安の中で引き受けましたが実際大変な役と認識しています。総務の役割内容は、４月以降５回の理事会の資料と議事録作成、総会の議事録を作成しました。これからもこの作業を主体に続けていきます。公式文書の言語選びや様式等に戸惑いながら、一件一進で奮闘しているのが実状です。未だ前任者の協力なしでは完全な資料には仕上がりませんが早く一人でできる様に頑張ります。今は書記が主な仕事であり理事会の全体が見えてないのも事実です。一人の理事として審議や活動にも積極的に関わっていき、技師会活動が書記を通して各会員へ伝わる様な記録作りをしていきたいと考えていますので協力の程お願いします。

事務局経理部

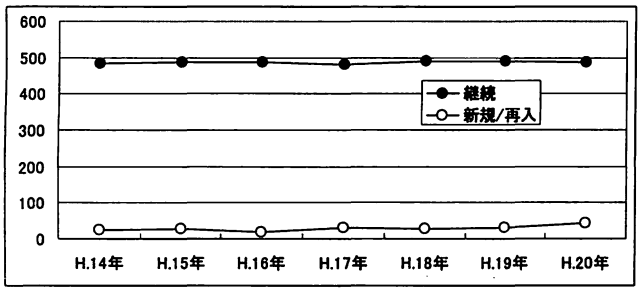
藤本　一満

最近７年間の奈良県の日臨技会員数の推移を下表・図に示しました。この人数がほぼ奈臨技会員数であり、ここ数年安定した会員数であること、新規／再入会員数は近年、若干増加傾向であることがわかります。

日臨技会員数推移（平成14～20年）

	H.14年	H.15年	H.16年	H.17年	H.18年	H.19年	H.20年
継続	484	488	488	482	491	491	488
新規/再入	23	27	19	30	28	32	42

単位：人



おおよその総収入予算5,000,000円（繰越金を除く）のうち、奈臨技正会員収入5,000円×520名＝2,600,000円でありその割合は52％と総収入の半分以上を占めており、会員数の維持は会を運営するにあたり必須であります。上述のごとく、最近は安定した会員数であるので、会の運営も安定しているように思えます。

支出面においては、各理事および委員の努力により、学術、公益、福利厚生、広報活動のいずれもが緊縮かつ活発に実施されており、会費が有効に活用されています。

奈臨技は公益法人化にむけて準備をしている段階ですが、現在、全く別団体である日臨技と奈臨技が、今後、日臨技の支部になるのか、また、なった場合の会費はどうなるのかなど、ここ数年の動向に注目し、準備も怠らないようにしたいと思います。

組織法規部

延命　孝也

会員の皆様におかれては平素より技師会活動にご理解、ご協力誠に感謝いたします。本年度より二年間組織法規部を担当することになりました、会員のご期待に添えますよう努力したいと考えます。

定款及び諸規定によれば組織法規部では会員の入会促進及び組織強化、又臨床検査に関する施設の調査研究。更に関係法規、定款、細則及び諸規定に関する事を司る部門であります。

本年度においても施設代表者会議及び新人、一般研修会の開催を予定しております、多数のご参加をお願い致します。

学術部検査研究部門担当

梅木　弥生

検査研究部門は学術理事４名、部門長６名、分野長20名で構成されています。学術部は、学術研修活動、奈良県医学検査学会の運営、日本医学検査学会、近畿医学検査学会への協力などを担当し、その企画・運営は、学術部門・分野部門長・分野長・分野員でおこなわれております。

各部門・分野では、講師をお招きした講演会を数多く開催しております。新企画として、感染制御部門では「グラム染色実技研修会」が行われ、奈臨技ニュースでは「臨床化学塾の解答と解説」が藤本一満氏により連載を開始されました。興味ある問題も多く遠く学んだ基礎知識をよびおこされます。「臨床化学塾の問題と解説」に対してのご指摘ご要望がありましたら、藤本一満氏までご連絡ください。

第25回　奈良県医学検査学会は、一般演題・検査研究部門と地区からの要望演題・シンポジウム・ランチョンセミナーというプログラムを踏襲したいと考えておりますが、現在検討中です。

学術関連のホームページとして、奈良県医学検査学会や研修会の内容が、奈臨技ホームページに掲載されますので、今後も会員の皆様に充分ご利用いただき、ますます充実させたいと考えておりますので、ご要望・ご意見等がございましたら事務局までご連絡ください。

学術部精度管理担当

久保　修一

本年４月に特定健診・特定保健指導いわゆるメタボ健診がスタートしました。

この健診は、保健指導対象者をいかに正しく抽出するかが目的で、方法として腹囲と臨床検査データがキーポイントとなっています。たとえば、中性脂肪であれば150mg/dl以上で保健指導、300mg/dl以上は受診勧奨と判断が下されます。すなわち、全国のどの施設で測定されたデータも同じ基準で評価されることになります。

そのため、今回の健診プログラムには「健康診査における精度管理のあり方」が添付資料として記載され、検体の採取・保存・提出の条件、検査の手順、検査方法、内部精度管理、外部精度管理にもふれています。

我々臨床検査技師にとっては常識的な内容ではありますが、この機会に一度自施設の内部精度管理をかねて、確認されてはいかがでしょう。

さて、奈臨技精度管理調査の目的は、奈良県地域における臨床検査データの均質化を図り、医療行為における患者の安全を保証するためのものであり、各々の施設では、使用している機器・試薬について他施設の動向を把握し、自ら改善していく資料としていただくことに他なりません。

内部精度管理（IQC）の基本は、信頼性の高い分析装置や測定試薬の選択から始まり、精度管理マニュアルの整備と技師の能力向上にあるといえます。このために、奈臨技精度管理調査を充分に活用され、得られた情報を自施設の検査室運営に役立てて頂きたいと思います。

さらに、分野ごとに開催される報告検討会は、小規模の精度管理調査の特色を生かした、きめ細やかでアットホームなものとなっており、きっと日常業務の参考になるに違いありません。

しかし、例年の参加人数を見ますと残念な事に、充分にその機能を果たせていないと思われます。奈臨技精度管理調査への参加は、この報告検討会に参加して初めて参加したといえるのではないでしょうか。参加料を無料化してはどうか？との声も聞かれる中、今後は参加証の交付条件もあわせて検討する必要があると思います。

精度管理事業推進委員の献身的な努力に報いるためにも、ぜひ多数の積極的な参加をお願いいたします。

学術部生涯教育担当

片岡　直樹

今年度より２年間生涯教育を担当させていただきます。平成19年度より日臨技生涯教育制度ガイドラインが作成され、日臨技ホームページ上で確認することが出来ます。

会員が自発的に学習・研修し、定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得するもので、履修開始年度から５年間を１サイクルとし、５年以内に履修点数の合計が200点（基礎教科60点以上＋専門教科140点以上）以上に達した場合は、その年度で終了とし次年度から次のサイクルを開始します。

詳細につきましてはホームページをご確認いただくか生涯教育担当までご連絡ください。講習会・研修会の開催日時等はリニューアルしました奈臨技ニュースや奈良県技師会のホームページに掲載されていますのでご利用ください。

会員皆様のご協力をお願い致します。

地域保健事業部

安田　匡文

地域保健事業部の活動内容は

①日本糖尿病協会奈良支部主催の「なら糖尿病デー」の協賛

②橿原市主催の「橿原市健康と社会福祉の祭典」の協賛

③日臨技無料職業紹介事業にかかわる求人及び求職者の申請

④奈良市主催の「知って得する健康講座」の協賛

となっており、今年度より奈良市主催の「知って得する健康講座」への協賛が新たに加わりました。この健康講座は奈良市が市全域に健康づくりの輪を広げることを目的に年４回開催しているもので、様々な視点から健康について考えようと毎回テーマを変えながら取り組んでいます。また、奈良市では健康講座以外に「ならウォーク」と題し歴史の町奈良をウォーキングで巡る企画もあり、そちらの方でも協力できればと考えております。

今後の活動の方向性としては、地域保健事業部の活動の中心である「医療や公衆衛生の啓蒙」をさらに充実させていきたいと考えています。

今年度は奈良市と協賛ができましたが、さらに、このような活動の場を広げていくことで県民の健康増進に繋がると考えております。
ご協力をよろしくお願いします。

広報部

倉本　智津子

４月より２年間広報担当をする事になりました。まったく初めてですので不行き届きの点がありましたら、ご指導よろしくお願いします。

広報部の仕事には大きく分けて１、毎月の奈臨技ニュース発行　２、年１回のまほろば及び会員名簿の発刊　３、各催し等の取材　の３つがあります。

１、毎月の奈臨技ニュース発行

本年より議事録の掲載を廃止し、職場紹介、臨床化学塾、各学会参加者からの話題提供、奈臨技行事予定表等を新たに掲載しました。原稿の締め切りは毎月15日です。楽しい話題など是非ご協力ください！

２、年１回のまほろば及び会員名簿の発刊

委員会を立ち上げ、企画、原稿依頼、広告掲載のお願い、会員の所属確認、校正等、発刊までの半年はなかなか落ち着くことができません。内容について何か新しい企画をとも思いますが、とてもむずかしいのが現状です。一度アンケート調査をして来年度の参考にしようかと考えています。又、名簿作成においては、退職、異動等の変更届けが出ていない方もいらっしゃるため、会員の所属確認も困難な作業の１つです。今回、原稿依頼を快く引き受けてくださった皆様には感謝致します。

３、各催しの取材

これは広報として大事な仕事の１つで、「奈臨技ニュース」「まほろば」の貴重な資料となります。皆様も各行事の参加記、学会情報、トピックスなど、取材にご協力お願い致します。

実は広報を担当するまで「奈臨技ニュース」「まほろば」をゆっくり目を通していなかった私、今、過去の「まほろば」をまとめて読んでいます。こんな事になるのならまじめに読んでおくべきであったと反省しきりの毎日です。又、毎月20日前後の日々は寝不足とストレスで体重の増加、やたらメタボの記事が気になります。でもおばさんパワー全開でがんばっていますのでよろしくお願いします。最後に職場紹介の原稿依頼、次はあなたの職場かも！ウフフ

福利厚生部

橋詰　千代子

会員の皆様こんにちは

福利厚生部では、施設の垣根をこえて、技師会の仲間同士の結びつきと、親睦を深めて頂きたいと、レクリエーション等を企画しています。

今年度のアウトドア同好会は、真夏の曽爾高原散策とバーベキューを実施いたしました。37℃を超える猛暑日でしたが、参加してくれた子供達と共に川で泳ぎ、高原の頂上を目指し.息を切らせ、大粒の汗を流しながらの山登りの後は、心地よい風を感じた1日でした。

今後の予定はボーリング大会とスキーツアーを企画していますので、多くの方の参加をお待ち致します。

もうひとつの事業としては、技師会活動に安心して参加頂けるように保険加入手続きを代行しています。損害賠償保険、障害賠償保険に加入して頂けますので勉強会等の行事開催日が決りましたら、部門長様より、申込み書を記入の上メールでご連絡下さい。会員の皆様の意見や.要望を聞かせて頂き、多くの方が利用して頂ける福利厚生部にして行きたいと思いますのでご協力下さい。

地区担当

松本　隆

本年度より地区担当部長及び南部地区担当理事を務めさせて頂きます。

何分にも初めての理事でありまして、何かとご迷惑をおかけするかも知れませんが、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、地区担当の主な仕事と申しますと、会員のみなさんと奈臨技とのパイプ役、橋渡しをする役目なのです。具体的には、

① 新入会員や会員の届け出などに変更があった場合の事務処理
② 奈臨技学会や奈良市、橿原市などでの健康福祉まつりの実務委員
③ 会員の慶弔時による各電報の事務処理

などで、特に万葉ホールでの健康まつりでは、血圧や体脂肪測定などを行う上で、会員技師、実務委員の参加、協力なしでは成り立ちません。

是非とも多くの会員の方に技師会活動に参加して頂きたく、今年度も各施設に電話で実務委員をお願い致しますので協力のほど、宜しくお願い致します。

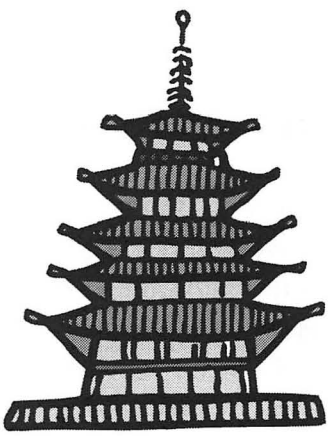
また慶弔時の電報ですが、今年度からインターネットを利用したものに統一していきたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

学会担当

畑中　徳子

皆様ご存知の通り、2010年に第50回の近畿医学検査学会が奈良で開催されます。その準備機関として、特別に設けられた部門です。初めて近畿医学検査学会が開催されて半世紀が経過、記念すべき第50回大会を奈良で催すことができるのは、非常に喜ばしいことです。奇しくも2010年は日本ではじめての大規模な首都「平城京」が奈良に誕生してから1300年目となる年で、奈良では平城遷都1300年を記念して多くのイベントが企画され、セント君とか、マント君とか、色々と盛り上がりをみせています。

技師会もそれに負けずしっかりと企画し、第50回大会を成功させたいと思います。今はまだ、演題の大半を奈良で占めるくらい勢いのある学会にしたいという程度のぼんやりとしたビジョンしか描けていませんが、それに向かってそろそろ準備を始めようとしています。演題数の確保やシンポジウムなど、皆様のご協力が不可欠です。どうぞ今から準備をして、多くの発表をお願いします。



検査研究部門・分野だより

生物化学分析部門

臨床化学検査分野

猪田　猛久

「基本的な事柄」をテーマに毎年活動を行っています。昨年のまほろばの続きではキャリブレーションについて、電解質、サンプリングについてなど基本的な事柄を取り上げています。しかしなかなか人が集まらずがっかりすることもありますが、皆さんに役立つだろうと思うものを考えテーマとしているつもりです。やはり希望するものがあればどしどし言って下さい。と何度まほろばに書いても希望を聞いたことがないように思います。しかし何といっても皆さんの会費で運営されていますし，利用するべきです。再度言いますが希望するものがあればどしどし言って下さい。できるだけ取り上げるつもりです。宜しくお願いします。

免疫検査分野

藪内　博史

本年度の免疫検査分野は、なかなか良いテーマが思い浮かばず、一度も研修会を開催するに至りませんでした。分野長として深く反省しております。10月には、ＢＮＰと、ＮＴ-proＢＮＰを販売している両社の学術の方を御招きして、それぞれの試薬の特徴、及び臨床的意義などを勉強する機会を設けたいと考えています。興味のある方はどうぞ多数ご参加下さい。また、研修会のご希望、ご意見などありましたら、何なりとご連絡下さい。

連絡先
ＴＥＬ：０７４４－２２－３０５１（内線３２４８）
ＦＡＸ：０７４４－２２－４８１０
Ｅ－mail：hiroyabu@naramed-u.ac.jp

遺伝子検査分野

大峠　和彦

昨年度、第１回は遺伝子・染色体検査研究分野、血液検査分野合同で1. MDSにおける細胞形態と染色体核型の特徴（天理よろづ相談所病院　臨床病理部　岸森千幸技師）：これまでに経験された症例を整理し、その細胞形態と染色体核型の特徴を講演して頂きました2. マウスを用いた白血病発症に関する研究：MDSモデルマウスの作成から学ぶ（天理よろづ相談所病院　小児科副部長　林英蔚先生）：アメリカ留学時に研究されていた、二次性骨髄異形成症候群から急性骨髄性白血病に進行した症例で見いだされたNUP98-HOXD13フュージョン遺伝子を導入したトランスジェニックマウスの作製と白血病発生メカニズム関する研究について講演して頂きました。白血病発生研究の第一線で活躍されている先生のお話が聞けて、難しい内容でもありましたが大変刺激になったと思います。

第２回は染色体・遺伝子・血液検査分野合同でMALTリンパ腫について学ぶと題し、1. MALTリンパ腫における染色体異常とＦＩＳＨ検査（天理よろづ相談所　医学研究所　奥村敦子技師）、2. MALTリンパ腫の診断と治療（天理よろづ相談所　血液内科　飯岡　大先生）MALTリンパ腫の基本的なところから実際の症例を紹介していただきました。

第３回は染色体・遺伝子・微生物検査分野合同でLAMP法の基礎と応用と題して（栄研化学　佐々木泰治氏）、LAMP法はPCR法を用いない新しい核酸増幅法で４つのプライマーを用いるために設計条件が難しくポイントと応用例を示して講演して頂きました。

今年度も、興味が持てる内容で勉強会を開きたいと考えています。

遺伝子検査分野だけではなかなか研究班活動できないため、染色体検査分野と共に県内外と合同で活動を行っています。遺伝子検査の実務に就いていない会員が多い現状では研究班活動の企画への参画は難しいかもしれませんが、興味ある方、企画に参画していただける方は是非申し出てください。

連絡先
TEL：0743-63-5611（内線7441）
FAX：0743-69-6297
E-mail:ohgoe@tenriyorozu-hp.or.jp

生理機能検査部門

原田　譲

生理検査部門は、例年どおり平成20年度におきましても、各分野とも活発な活動を予定しております。年度後半にもさまざまな勉強会や技術講

習会などもありますので、皆様方のご参加をお待ちしております。勉強会等の予定は急な変更などもありますので、奈臨技ニュースやホームページなどでご確認ください。来年度の企画は、年末年始ごろに会議を開きますので、ご意見・ご提案などありましたら各分野長までお願いいたします。

勉強会の開催場所を、県内いろいろな場所で行いたいと思っております。勉強会に参加したいが遠くて時間的に参加できないということがないように、皆様の施設で利用できる会議室などありましたら連絡お願いいたします。（20～30席程度で可能）

神経検査分野

小林　昌弘

神経検査分野は、本年度も６回の勉強会を予定しています。筋電図などの検査の実技習得を目的とした「きれいにとれるシリーズ」が２回、初心者向けの脳波判読を目的とした「脳波の手習い」が２回、各疾患や脳波の異常波形について勉強する「定期勉強会」が2回という内容で取り組んでいます。

５月23日(金)「脳波の手習い１」
６月14日(土)「きれいにとれるシリーズ脳波検査編」
７月18日(金)「脳神経定期勉強会１」
11月21日(金)「脳波の手習い２」
１月23日(金)「脳神経定期勉強会２」
２月21日(土)「きれいにとれるシリーズ筋電図編」

また奈臨技ＨＰに過去の勉強会で用いた資料を掲載しています。ぜひご覧下さい。

勉強会の内容に関する要望や、日常の検査における疑問点などを気軽に話し合えるような勉強会を進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

機能検査分野

吉田　和弘

今年度の機能分野の勉強会は、会場の都合もあり全体の回数を減らした年間スケジュールに変えてみました。その中で、医師による講演会を２枠設けました。一つは、心電図ですが、奈良医大の藤本眞一先生による『不整脈治療の基礎知識』を開催しました。不整脈治療の薬剤の適応や色々ある薬剤をどのように選択していくか、抗不整脈ガイドラインSicilian Gambit ; Guideline on CDも使いながら、私たち技師にも分かるように教えてくださり、質疑応答にも一つ一つ丁寧に答えてくださいました。当日の講義の様子はビデオにも録画して、希望者に配布しました。

もう一つは、睡眠時無呼吸症候群について、天理市立病院の大西徳信先生（日本睡眠学会認定医）による『睡眠時無呼吸症候群（SAS）の治療―症例の提示―』と題した講演会を開催しました。講演会の内容については、先年に実施したPSGに関するアンケートのご希望やご意見の回答を参考にし、PSG検査や新たな知見としての気道音なども盛り込んで、大西先生のSASの臨床体験をもとに治療について分かりやすく教えていただきました。

心電図の勉強会は７回、PSGの勉強会は４回実施しますが、いずれも密度の濃い内容で消化不良も危惧されるところもありましたので、来年度はもう少し余裕が出来るように枠作りをしたいと思います。また、奈良臨技が実施したアンケートと機能分野で実施したPSGアンケートの回答で開催場所を分散してほしいとの要望がありましたので、心電図とPSGの勉強会の開催場所を極力、北和、中・南和地域に分散するようにし、初めての方、いろいろな施設の方にも参加できる機会を増やし、全体のレベルアップに努めました。各講師の方々には、移動等に協力して頂きありがとうございました。また、開催場所となった各病院施設の利用に、快く承諾して頂きありがとうございました。

年度末には、画像分野（超音波）と共同で橿原万葉ホールにて演題を発表する予定です。機能分野は２題の演題を発表の予定です。一つはPSGの各メーカーにPSG簡易測定器を持ち寄ってもらって各メーカーごとに特徴などを講習していただくのと、もう一つは心電図波形の読み取り方と対処法について発表の予定です。従来の勉強会とは一味違う講習ですので、より多くの会員の方が聞きに来られることを期待しております。

いずれの勉強会も、「基礎レベル」の向上に重点を置いております。初心者にも分かる内容で異常波形を自分で解析、判読できるようになってもらえればと考えております。また、初級レベルを卒業された方には、今後、講師になっていただくことをお勧めします。みんなの前で話をするのは緊張しますが（誰でも緊張するものです）、自分で調べたりすることで分かっていなかったことが理解できるということもよくありますし、ちょっ

とした発見に目から鱗が落ちると言った経験もできます。その成果をみんなと分かち合うつもりで話してもらえれば十分だと思います。心電図勉強会の講師を常時募集しておりますので、一度トライしてみようという方、ご連絡をお待ちしております。スライドを作る時間がない方には、発表用にパワーポイントのスライド等も用意しておりますし、機能分野の世話役がサポートしますので気軽に声をかけてください。

最後に、平成20年度４月以降の勉強会で奈良臨技ニュース掲載の案内漏れや開催時間の誤り等で、会員の皆さまに大変ご迷惑をおかけしましたことをここでお詫び申し上げます。

画像検査分野

松下　陽子

画像検査分野では　昨年度と同様に、隔月各１回の心臓・腹部超音波定期勉強会をはじめ、計16回の勉強会を計画しています。本年度のきれいにとれるシリーズは昨年と同様に神経検査分野と合同で行い、ＰＷＶ検査と下肢動脈超音波をとりあげましたが、今回も多数のご参加をいただきました。実技を組み込むと会場、機器、時間の制限から申込制となり、どうしても定員が少なくなってしまいますが、定期勉強会や大きな会場での勉強会とは違って些細なことでもお話できるような講習会になるように心がけていますので、どうぞ気軽にご参加ください。超音波の実技講習会は心臓が例年どおり２回、腹部が１回の開催予定をしています。また、年度末には公開講演と同時開催の勉強会も計画を進めております。

定期勉強会の内容のホームページに掲載については、今年度はまだ更新できておりませんが、順次準備を進めておりますので、もう少しお待ちくださいますようお願いいたします。

この数年間には検査装置や記録媒体の進歩がめざましく、動画なども比較的簡単に準備できるようになってきました。勉強会の内容もさらにご要望に添えるよう、会員のみなさまのご意見もお教えいただきたいと思います。今後もどうぞよろしくお願いします。

形態検査分野長

辻野　秀夫

四月から形態検査分野の部門長を引き継ぎました。自分自身まだ右も左も分からない状況ですが、マイペースで何事もこなしていこうと考えている所存です。二年後には奈良で近畿の検査学会が開催されます。これから何かと忙しくなり又、各班長、会員様にも色々と協力をお願いする事もあるかと思いますが宜しくお願いします。

細胞診検査分野

辻野　秀夫

本年度の細胞診検査分野は従来どうり、病理検査分野と合同で二回ぐらいの講演会もしくは研修会とコントロールサーベイの検討会を予定しています。そのうち一回はホルマリン、キシレンの有害性、法規制に関する諸問題について講演していただく予定をしています。病理、細胞診を実施している施設数が少ない為参加者数も少ないのが現状ですので、病理、細胞診に携わっていない方でも、もしテーマに興味のある方はぜひとも参加をお願いします。

病理検査分野

西川　武

本年３月に、特定化学物質障害予防規則（特化法）改訂があり、ホルムアルデヒドが特定第２類物質となった。これは、"発生源を密封する装置または局所換気装置などを設け、作業環境気中濃度を一定基準以下に抑制し、慢性的障害を防止すべき物質"とされ、管理濃度も設定されている。医療機関では、病理検査室をはじめ、内視鏡、外来、病棟、手術室などホルマリンを使用するすべての部門に関わる問題である。今年度の活動予定として、作業環境問題として、細胞検査分野と合同で研修会を行いたいと考えています。また、コントロールサーベイの検討会もしっかりやっていきたいと考えていますので、何卒よろしくお願いいたします。

一般検査分野だより

中村　彰宏

今年度より奈臨技一般検査分野長という大役を務めさせていただくことになりました。大変未熟者ながら吉田前分野長ならびに奈臨技会員の皆様方に助けていただきながら頑張らせていただいております。今後も何卒お力添えの程よろしくお願

いいたします。

尿検査は古来より非侵襲性の検査として多用されており、近年尿試験紙検査における半定量P/C比の測定やeGFRの算出など様々な付加価値をつけた報告の仕方が注目されています。尿沈渣検査領域におきましては尿中異型細胞の取り扱い方が2000年に発行された『尿沈渣検査法2000』に明記されたことにより注目を浴び、各施設検査室に浸透しつつあります。ある報告では尿沈渣領域における尿中異型細胞の検出感度は細胞診のパパニコロウ染色にまさるともありました。この先、こういった形態学的技術のスキル向上が求められてくると思われます。

今年度の勉強会は７月11日の尿沈渣実習を含めた『初心者のための尿沈渣』から始まりました。今年度も昨年度同様カンファレンス方式の実習を含めた勉強会、また最近話題の尿沈渣領域における異型細胞などいろんなテーマを取り上げていきたいと考えております。また、今年度から臨床検査技師として就職された方を対象とした初心者向けの勉強会も計画しております。日頃一般検査に携わっていない方、一般検査に興味がある方も皆様で知識・技術を交換しながらわいわい賑やかに勉強会を開催させていただこうと考えておりますので万障繰り合わせの上、多数のご参加お願い申し上げます。

血液分野

梅木　弥生

本年は、松尾先生にお願いして「データを読む」と題したR-CPC３回シリーズの第２回目を行いました。年末に第３回目を行う予定です。松尾先生には過分なご苦労をおかけして申し訳ありませんが、奈臨技のためにご尽力を賜っております。血液を担当している技師の生化学他のデータを読むことについては、まだまだ力不足を感じます。このR-CPCを通じて、データを読む難しさと共に読めたときの喜びも感じつつ回を重ねています。３回のお約束ですが、奈臨技会員からの要望が多くあれば引き続き松尾先生に懇願しようと考えています。（引き受けてくださるとは思っていますが・・・）皆様の力がいま必要なのです。よろしくお願いいたします。

その他、止血分野でのトピックス、形態分野のWHO分類でのトピックス等をテーマとする多方面の活動をしていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

染色体検査分野

福塚　勝弘

今年度も昨年同様に遺伝子検査分野と合同で企画する予定です。

まず、2008.7.16に染色体・遺伝子・病理・細胞診・血液の合同で"リンパ節の基本的な見方"について天理よろづ相談所医学研究所の本庄　原先生にお話ししていただきました。日頃，病理組織像を見る機会があまり無い会員の皆様にとってはとてもわかり易くお話して頂き理解できたのではないかと思われます。

次回は11月19日に "ATLのすべて"について実施する予定です。内容は，形態・細胞表面マーカー・遺伝子・染色体については技師の方、診断と治療についてはDr.にお願いする予定ですのでふるって参加してください。

その他の企画としては，遺伝子検査中心の内容や染色体・遺伝子検査の基礎的な部分の勉強会も企画したいと考えています。

感染症制御部門　微生物検査分野

小泉　章

本年度は、診療報酬点数の改定により、検体管理加算の算定基準に『常時行える検査項目として微生物検査』が追加されました。具体的には、グラム染色を実施できる検査体制が求められるようになり、特に微生物検査室がない病院においては大きな課題となっています。実際、グラム染色を実施できる検査体制が取れるか否かで診療報酬に大差が生ずる為、県下の病院からグラム染色を実践する為の技術と知識の習得をテーマとする講習会の開催を熱望するご意見が数多く微生物研究班に寄せられました。

そこで、微生物研究班と生涯教育委員会では、６月に『平成20年度診療報酬改定について』の学術講演会を行い、７月には『グラム染色の基礎的な知識と技術』をテーマとし講演会を開催させて頂いたところ、70名余りの方々に参加して頂き世話人一同、参加者のグラム染色に対する意識の高さ、本テーマに対する期待度の高さを改めて再認識させて頂きました。

また、本年度の微生物分野サーベイでは、従来の顕微鏡検査と同定検査および薬剤感受性試験に加え、グラム染色分野のみのサーベイを新設させて頂いたところ、予想以上に多くの御施設に参加

して頂きました。11月にはサーベイ解析会を行いたいと考えておりますので是非とも参加して頂き、今後のグラム染色のサーベイのあり方についてもご意見を頂ければと思っております。

さて、９月に行う実技講習会では、参加して頂く方々にとって実りあるものにする為、①ルーチンで生かせる確実な技術、②自施設におけるスキルの継承、と言う２つのテーマを基に実習カリキュラムやテキストをご用意しております。参加して頂いた方には、自施設に帰り継続的に安定した検査結果が出せる様、その基盤を作って頂きたいと思います。研修会では実務委員と気軽にコミュニケーション取って頂きたいと思っており、また、実務委員も参加者と積極的にコミュニケーションを取る事で、グラム染色の実施に対する今後のサポート体制の構築につなげて行ければと考えております。

ウイルス検査分野

藪内　博史

ウイルス検査分野としまして、本年度はまだ研修会を開催していませんが、年末にはＨＩＶについての研修会を開催したいと考えています。

「またＨＩＶか。」と思われるかも知れませんが、毎年増加しているＨＩＶ感染者数を聞かされると、「検査技師として何か出来る事はないか？」と考えるのは、私だけでしょうか？

ある県では、検査技師が高校などに出向いて、ＨＩＶについての基礎知識や、感染防止の方法などを講演して回られていると聞きます。

ＨＩＶ以外に、肝炎ウイルス、麻疹、ＣＭＶ、その他どの様な内容でもかまいません、研修会の希望などありましたら、何なりとご連絡下さい。

連絡先
ＴＥＬ：０７４４－２２－３０５１（内線３２４８）
ＦＡＸ：０７４４－２２－４８１０
Ｅ－mail：hiroyabu@naramed-u.ac.jp

寄生虫分野

吉田　恵三子

寄生虫を検査している検査室も少なく、勉強する機会も少ないのが現実です。年に１回は寄生虫の勉強会ができる様努力したいと思っております。

今年の近畿学会では寄生虫検査のシンポジウムが行われることになっていますので、多数、ご参加ください。

寄生虫分野は一般検査のなかに含まれ、活動も重なりあい行ってきました。今年も一般検査と一緒に活動していきたいと思っております。

今年度より一般検査分長が若返りました。一般検査に新鮮な風を吹き込んでくれることと思います。会員の皆様、一般検査分野、寄生虫分野に御協力ください。

輸血・移植検査部門・分野

土屋　直道

今年度より藤原さんから輸血・移植分野長を引き継ぎました。どうぞよろしくお願いいたします。

平成20年度の研究班活動予定ですが、講習会３～４回（開催場所は適当な広さとプロジェクター等の設備が整っていることから、勝手ながらいずれも天理よろづ相談所病院　外来診療棟５階中会議室、金曜日18時30分～20時）、サーベイ検討会、基礎実技講習会を企画しております。

日常の輸血検査において異常検体に遭遇した場合、輸血検査担当者は得られた検査結果を正しく解釈し、異常現象の原因について適切な考察と判断が求められます。講習会では異常検体遭遇時の問題解決力の向上を目的とした内容のものを中心に取り上げる予定です。

会員の皆様からも、講習会で取り上げて欲しい内容・要望、意見や助言などありましたら、遠慮なく申し付けください。皆様のご協力のもとに研究班が成り立っております。どうか研究班活動への積極的な参加をお願いいたします。

生殖医療分野

福塚　勝弘

今年度も大阪府と合同で企画する予定です。

今年は、"奈良県における生殖医療の現状と展望"について，奈良県の医師にお願いしてお話していただこうと考えています。何分、私の専門ではありませんので、御知り合いの方や先生がおられましたら連絡お願いいたします。

検査総合管理部門

高部　弘司

（社）奈良県臨床衛生検査技師会学術部検査総合管理部門では、平成18年度と19年度の２年にわたり、「臨床検査の安全を考える」をメインテーマにメール配信による研修会を続けてまいりました。19年度は、18年度の安全対策総論から話をすすめ、具体的な分析法について話題を提供いたしました。

２年間で、のべ70名の参加をいただきました。

分析法は、ＲＣＡ（Root Cause Analysis：根本原因分析）およびＦＭＥＡ（Failure Mode and Effects Analysis：故障モード影響解析）の２つをとりあげました。

公的機関としての研修は、（財）日本医療機能評価機構医療事故防止事業部の平成19年年報（平成20年８月13日公表）によりますと、計３回に分かれ、約280名で実施されたと記載されています。このうち臨床検査技師の参加は、約10名だったようです。

従来は、われわれと同様にＲＣＡとＦＭＥＡの２法について行われていたのですが、本年は、ＦＭＥＡ法の理解がやや困難ということで、ＲＣＡ法のみにしぼって実施されたようです。

今回、われわれの研修会では、この難解とされているＦＭＥＡ法を用いて、具体事例について演習分析を行ってみました。

参加された方にとっては、短時間で理解することはたいへんだったと思いますが、概略程度は習得されたのではないかと推察いたします。

分析法の学習は、やはりＲＣＡから始められたほうが良いのかもしれません。

さて、みなさまの中にはご覧になられた方も少なくないと思いますが、医療界を舞台にした家庭向けホームドラマでも、医療ミスをテーマにエピソードが繰り広げられていく傾向にあります。また、最近の臨床検査関連の事件としては、「微量採血器具」や「真空採血用シリンジ」がマスコミによって取り上げられ、一大センセーションを巻き起こしたことがあげられます。

医療界での独特の慣習や判断は、「完全に安全である」という証明なくして、存在してはいけないものになってきました。

前述の年報によりますと。医療過誤の原因としては「確認」のミス、怠りが第１位となっています。この傾向は、情報収集事業が開始されてから続いており、とくに大きな変化はありません。

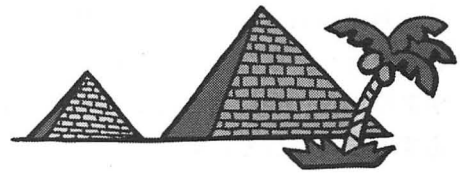
内容別では、薬剤に関連する事故が、後を絶たないようです。

また、共有すべき医療事故情報で、われわれに関係するものとしては、「輸血の血液型判定間違い」、「輸血の患者間違い」、「術中迅速細胞診結果の電話連絡による間違い（陽性を陰性と聞き違い）」が報告されています。

事故の当事者となる頻度は、看護師、医師に比べ、今のところ臨床検査技師であることはまれですが、より一層、気を引き締めて、適切な分析法を用いて、未然に防ぐ対策を考えていって下さい。なお、厚生労働省では、現在、医療安全の第３者機関を発足させるための「医療安全調査委員会設置法案（仮称）大綱案」に対する意見を募集しています。

医療従事者をはじめ、法曹・警察関係からも意見が寄せられているようです。

みなさまも、何かご意見がございましたら、厚生労働省医政局総務課医療安全推進室までお願いします。



各種委員会だより

奈臨技臨床検査データー標準化委員会

山本　慶和

検査データの基本は正確さと精密性であるが、これまでの臨床検査分野では「臨床検査値は病院ごとに差があり、他院の検査データをそのまま利用することはできない」と一般的に言われ、我々もこれに甘んじてきた。社団法人日本臨床衛生検査技師会（日臨技）は、平成17年から全国の臨床検査データの標準化と共有化を目指して、精度保障事業部に検査値標準化WGを設置して「臨床検査データ共有化ガイドライン」、「臨床検査データ共有化マニュアル-都道府県基幹施設用-」そして「臨床検査データ共有化マニュアル－参加施設用－」を医学検査（55：11.1246～1276,2006）に公表し、臨床検査データ標準化実践事業を推進してきた。

臨床検査室のデータは、検査室部門から提供するものであり検査結果の信憑性について我々自身で保障しなくてはならない、臨床検査データの標準化の構築は日臨技の社会的な責務でもある。日臨技の提唱に平成20年度は47都道府県全県が標準化事業を受け入れることとなった。まさに、日臨技の総力を結集して臨床検査データの標準化を推し進める環境が整った。

奈臨技は平成19年に委員会を立ち上げ、基幹施設の設置、標準化勉強会を開催し、会員、施設へ情報の提供、理解を得る活動を進めてきた。今年は標準化活動２年目にあたり、

1．基幹施設の精確さの確認と維持の実践
2．基準範囲の調査
3．参加施設の正確さ確認と是正処置の対応の聞取り調査
4．参加施設の精確さの長期維持の調査
5．標準化ガイドの準備と作成

の５つを主要活動とした。

「３．　参加施設の正確さ確認と是正処置の対応の聞取り調査」は奈臨技統一サーベイにおいて、標準化対象項目について許容限界を超えた場合、是正処置の聞取りを行い、標準化への対応の意思表示を行う。また、是正処置のアドバイスの要請がある場合、委員会およびメーカーが協力して対応することにしている。

「４．　参加施設の精確さの長期維持の調査」はチリトロール管理血清を用い４週連続、および５か月間（月１回の測定）の精確さの長期維持の実施、管理血球を用い２週間連続測定による精確さの調査の実施する計画である。このデータは奈良県における施設間変動の参考値となることが期待される。また、表示値が記載された試料を測定することによって正確さを確認しながら日常検査を行い、精確さの維持、トレーサブルな状態を維持することを体験してもらう意味を持っている。

「５．　標準化ガイドの準備と作成」は今年度内の作成は難しいが、トレーサビリティー体系、不確かさの算出、SOP、許容誤差限界、基準範囲等の解説、指針をまとめ各施設が自律的に標準化を実践できることを目指したい。

これらの活動は来年も継続し、より多くの施設がデータの標準化、基準範囲の共有化を実施に移すことを期待する。

精度管理事業推進委員会

猪田　猛久

今年の精度管理事業推進の事業内容は

参加施設数　：62施設（内　メーカー16社）
実 施 項 目：臨床化学、免疫血清、血液、微生物、一般、輸血、細胞診、病理
実　施　日　：７月15日　試料送付
検　討　会　：各分野別（10月～１月）
報　告　書　：年度内に送付予定（速報発行予定）

と前年度と同様であった。今年度から初めてUSBフラッシュメモリーによる回答方式を採用した。昨年までいろいろ何度も議論していたがやはり容量の魅力となんといっても最近はFDドライブを搭載しているパソコンがない現状を踏まえ決定した。おかげさまで回答の読み取り速度が断然違い集計業務がはかどったとのことです。また今年度は生化学分野では２試料のうち１試料をヒト血清とし、試料においては免疫血清分野のC3、C4、IgG、IgA、IgMの項目を昨年のCRPに続き生化学の試料で行った．免疫分野とはいえ現在ほとんど生化学の分析装置で測定しており妥当だと思う．また，免疫血清分野においてはＰＳＡ，Ｃ

ＥＡを２pointに変更した．血液分野においては昨年初めて管理血球によるサーベイを行ったがどうしても装置間差がでるためやはり試料をヒト血液に戻した．病理分野では染色の工程を問う設問も用意した．微生物分野ではグラム染色の項目を増やした．また今年は項目によっては許容範囲を設け許容外となった施設には希望があれば技師会が相談にのることとした．今年は標準化作業が始まって２年目で奈臨技の計画では推進期にあたります．今年は標準化参加施設の長期精度管理のデータ把握の実施もこの精度管理事業推進とリンクして実施されております．精度管理事業推進は標準化作業の一翼を担っており益々重要となっておりますが，医師会，日臨技等大規模なサーベイではできないサーベイがこの地域サーベイかと思います．何かこうしたら等アイデアがあれば言って下さい．

私が代表で文章を書いておりますが奈臨技理事の方，各分野の精度管理委員の方，各分野の各施設のデータを集計してくれた方，検体等の配送をしてくれた企業の方等多くの方の協力があってこの奈臨技サーベイが成り立っています．本当にありがとうございました．

検査研究部門運営委員会

原田　譲

本年度は、下記の方々へ部門長・分野長の交代がありました。（敬称略）

・形態検査部門長　　辻野　秀夫
（県立奈良病院）
・輸血・移植検査部門長　　土屋　直道
（天理よろづ相談所病院）
同分野長兼務
・一般検査分野長　　中村　彰宏
（天理よろづ相談所病院）
・病理検査分野長　　西川　武
（奈良県立医科大学附属病院）

（全員の氏名・勤務先は"奈臨技ニュース８月号"に掲載されています）

分野の再編について

現在の部門・分野での活動が実状に合わないので、以前の研究班のような実状に合った区分で統合してはどうかという意見が検査研究部門運営委員会にて出されました。これについては、各部門・分野は日臨技との整合性を考え、総合管理部門を除きあまり活動していない分野でもそのまま残し、分野長を決めにくい場合は部門長が兼任することで対応することとしました。活動形態としては部門・分野にとらわれず、近臨技との連携を含めて実状に合った活動をしていただくこととしました。

検査総合管理部門については、現状の４分野（検査管理運営・検査精度管理・検査機器管理・検査情報管理分野）を廃止して、経営政策とシステム情報の２分野に統合することにしました。これは日臨技との整合性はありませんが、理事会にて承認していただき奈臨技としては今年度からこの形で活動して行くことになりました。

検査総合管理部門長　　高部　弘司
（近畿大学医学部奈良病院）
経営政策分野長　　内池　啓男
（奈良県立医科大学附属病院）
システム情報分野長　　嶋田　昌司
（天理よろづ相談所病院）

小冊子の出版について

技師会の公益法人活動の一環として、一般の方々を対象とした臨床検査についての小冊子を発行してはどうかという提案が検査研究部門運営委員会にて出されました。理事会にて担当部署を地域保健事業部としていただき、執筆は学術部のメンバーが中心となり進めてゆくことになりました。タイトルは「中高年のための特定健診検査入門」（仮題）とし、今年度より活動を開始しました。２年後の完成を目標としていますので、皆様方のご協力をお願い致します。

奈良県医学検査学会について

今年度の第25回奈良県医学検査学会は、会員皆様方のご協力のおかげで盛況に終えることができました。次年度の企画はこれから立てますので、ご意見・ご提案などありましたら担当委員または各部門長までご連絡ください。

「中高年のための特定健診検査入門」作成委員会

安田　匡文

平成20年度より中高年のための特定健診検査入門作成委員会を立ち上げました。

この委員会は、公益法人として県民の皆様に対しての臨床検査知識の向上と啓蒙、臨床検査技師をもっと知ってもらうということを目的に、今年度からスタートされた特定健康診査に関連した小冊子の発行を考えております。

詳細な内容については、特定健診の仕組み、検査結果の解説や見方を記載する予定で、一般の方々でも臨床検査について興味が持てるように写真や絵を多く取り入れ、検査に関する知識がなくても見やすいようにと考えております。

発行は来年度を予定しており、「公開講演会」や「健康と社会福祉の祭典」など県民の方々が集まるところで配布し、さらに活動を発展させていきたいと考えております。会員の皆様のご協力宜しくお願いします。

講演会等企画委員会

長谷川　章

検査技師会会員の皆様には、たくさんのご協力を毎年いただき、感謝しています。公開講演会も今回で13回目を数え、毎回開催場所を変えて行ってはおりますが奈良県の北部と南部を主に交互で開催しています。今回は北部での開催でした。この講演会事業を計画するのが、現在の渉外部の大きな役割となっています。

公開講演会の企画に際して大きな役割を担うのが、講演会等企画委員会となります。

最初に考えるのが、講演会を実際に行っていただく講師の先生です。どの様な分野で活躍されているのかで、公演内容も変わってきますので、特に重要となります。最近の技師会のテーマとしては、生活習慣病に関する事を主題としており、その道にとくに詳しい先生方にお願いをしています。平成19年度は、特定健診が開始されることもあり、メタボリックシンドロームの検診事業にも精通しておられる、大阪大学大学院医学系研究科・内分泌・代謝内科学　准教授の船橋　徹先生に講演をお願いしました。

皆さんが技師会NEWSと伴に送られてくる、パンフレットやポスターについてもこの企画委員会で立案されて具体化して実現します。是非この様な企画会議に興味のある方は、参加をお願いしたいと思います。どのようにしたらたくさんの県民の方が集まるか、興味を持ってもらえるかを考え、さらに技師会会員にも参加していただけるような企画も考えて行きます。

今後も、奈良県臨床衛生検査技師会では、臨床検査技師の業務を、病院や診療所、また健診センターといった、医療関連の施設を対象とした活動はもちろんのこと、一般市民も対象とした健康に関する啓蒙活動にも力を入れています。

インターネットホームページ運営委員会

大林　準

奈良県臨床衛生検査技師会ホームページは開設して、７年目を迎えました。
アクセス数は、８月24日現在 127,830件です。わずか１年間で25,000件のアクセスがありました。以前にも書きましたが、奈臨技のサーバーは、１日に何度同じ人がアクセスしても、１件しかカウントされない仕組みになっています。つまり、年間25,000人、１日あたり68.5人のかたがアクセスしてくださっている計算になります。インターネットの急速な広がりによるものと思われますが、たいへん素晴らしいことです。

奈臨技インターネット委員会の第一の目標は、奈臨技会員の方が「使える」「役に立つ」ホームページを作成することです。時代はいま、ＩＣＴ（Information and Communication Technology）の時代だと言われております。ＩＴ（Information Technology）に、Communicationを加えた言葉ですが、情報の共有化とコミュニケーションを深める意味で、ぜひ、ホームページをお気軽にご活用下さい。

また、公益法人のホームページとして、奈良県民のみなさまに、奈臨技公開講演会の広報を中心に、県内各行事への技師会の参加の実績の広報や、臨床検査技師をもっと知っていただけるようなページを作成したいと考えています。

本年度の奈臨技ホームページは、従来のコンテ

ンツの充実（とくに学術関連）を行っていきます。さらに、新たな目標といたしましては、精度管理委員会と連携して、精度管理について、ホームページの充実を図っていく予定をしております。具体的には、一昨年度から行っておりますコントロールサーベイのホームページを使った展開を、スライドサーベイだけでなくもっと広げてゆくことと、精度管理のセクションのページを作成し、サーベイのフォローアップなどを行っていきたいと思っております。

また、奈臨技ホームページの更新情報などをメールでお知らせする、「奈臨技メーリングリスト」も会員のみなさまにご参加いただき、現在75名の方に配信しております。メールを用いた、各施設連絡責任者への「奈臨技連絡網」も昨年度より運営開始しました。どちらのメーリングリストも研修会の開催場所の変更や緊急の連絡事項などを、メールを用いてより速く、確実な連絡ができるようにしたいと考えております。携帯電話からも参加可能です。

メーリングリストのお申し込み、ホームページへのお問い合わせは奈臨技インターネットホームページ運営委員会（info@naraamt.or.jp：担当　大林またはお近くの奈臨技インターネットホームページ運営委員会委員）または事務局（TEL/FAXとも　0743-62-0525：担当　林田）までお気軽にお寄せください。

奈臨技会員の方が「使える」「役に立つ」ホームページにするために、会員のみなさまのご意見がたいへん大切です。どのようなことでも結構ですので、ぜひ、ご意見をお寄せください。お待ちしております。

奈臨技インターネットホームページ運営委員会委員

大林　準、内池敬男、林田雅彦、木田光雄、岡山幸成、高谷恒範、柳田裕起、松谷勇人

広報委員会

倉本　智津子

広報委員会は「まほろば」発刊、各取材等に活動しています。今年度は８名(男３名、女５名)、年令層もさまざま、広報経験者１名という構成ですが、がんばっています。委員会の開催もなるべく少なくし、メール等のやりとりで省力化をはかっています。各地区に委員がいますので、学会参加のトピックス、各お知らせ、掲載希望等がありましたら委員まで連絡ください。

奈臨技総会報告

平成19年度　奈臨技　第１回（平成19年度決算算）総会開催報告

平成20年５月18日（日）午後１時45分から奈良県立医科大学　厳橿会館において平成20年度 第１回（平成19年度決算）総会が開催されました。当日の出席者は委任状を含め353名と過半数を超える出席がありました。宗川副会長の開会宣言後、山本会長挨拶。来賓挨拶として、当会顧問の岡本康幸先生（奈良県立医科大学附属病院）から挨拶をいただきました。浦　雅彦（近畿大学奈良病）、猪田　猛久（天理よろづ相談所病院）の２氏により議事進行され、平成19年度事業経過報告、平成19年度決算報告、平成19年度監査報告があり、承認されました。その他、提出議題、質問等はなく審議事項はすべて終了したことが宣言されました。詳細は議事録を参照してください。

平成20年度　（社）奈良県臨床衛生検査技師会　第１回総会議事録

開催日時：平成20年５月18日（日）
　　13時45分から14時45分まで
場　　所：奈良県立医科大学　厳橿会館
　　３階研修室
会 員 数：523名（５月18日現在）
出 席 者：353名
　　（当日出席者81名、委任状による出席者272名）
欠 席 者：170名

Ⅰ　仮議長挨拶

林田事務局長から議長選出が完了するまで仮議長を担当する旨、挨拶があった。

Ⅱ　開会の辞

宗川副会長が、平成20年度社団法人奈良県臨床衛生検査技師会第１回総会を開催する旨、宣告した。

Ⅲ　会長挨拶

山本会長から、学会に引き続いての総会出席に対するお礼と、新役員による技師会運営への協力要請があった。また、役員改選後に行われた県の人事異動により役員が一施設に集中し地区別の役員数にも偏りが生じたため、役員推薦委員会から南部地区会員である倉本智津子氏（県立医科大学附属病院）の推薦を戴き理事会承認としたこと，さらに保留であった外部監事について奈良県栄養士会の溝口裕子氏に決定した旨、報告と紹介があった。

Ⅳ　来賓紹介

仮議長から当会顧問の岡本康之先生（奈良医大病院）、松尾収二先生（天理よろづ相談所病院）、および名誉会員の山中亨会員、山名正夫会員の紹介と出席のお礼が述べられた。

Ⅴ　来賓挨拶

来賓を代表して顧問の岡本康之先生から挨拶があった。技師の領域が広がり測定だけに留まらず患者様に対して説明が求められる方向に進んでいるように思う。医療の効率化、質の向上に技師の役割がさらに大きくなることをふまえた技師会のサポートが必要であるとの激励があった。

Ⅵ　議長選出

仮議長から議長候補について出席者に自薦、他薦を求めるも無く、仮議長が浦　雅彦（近畿大学奈良病院）、猪田　猛久（天理よろづ相談所病院）の２氏を提案、過半数を超える拍手多数で承認され、議長就任の挨拶の後、議事に入った。

Ⅶ　議事

１．総会役員の選出

議長から総会役員候補について出席者に自薦、他薦を求めるも無く、事務局から下記の役員について提案があり、過半数を超える拍手多数を持って承認された。

〔議事運営委員（兼資格審査委員）〕
　枡尾 茂　（県立三室病院）
　辻野 秀夫（県立奈良病院）
　中森 善裕（奈良社会保険病院）
　中川 沙織（しみず小児科）
〔書記〕
　新木 義之（県立奈良医大病院）
　中村 純造（奈良社会保険病院）
〔議事録署名人〕
　田中 恵美（済生会御所病院）
　井田 淳　（平井病院）

２．総会成立の宣言

枡尾茂資格審査委員長から、平成20年５月18日現在の正会員数　523名に対し、本日の出席者81名、委任状出席者272名、合計353名と過半数に達していることから、総会が成立するとの宣言があった。

３．議案審議

審議前に議長から資料の訂正および追加の要請があり、林田事務局長から厚生労働大臣表彰者に前川芳明氏が追加された。

１）第１号議案：平成19年度事業経過報告

議長から、平成19年度事業報告について、一括報告後に承認を求めるとの説明後、下記の担当理事から議案書に基づき説明があった。

(1)総括：　山本会長

前役員に対し平成19年度事業を計画、執行していただいたことに対しお礼が述べられ、それら事業を新役員が報告する旨、説明があった。

(2)事務局総務部：林田理事

議案書に基づき要旨の説明があり、平成19年度は18年度に引継ぎ同じ役員で構成されたため会の運営がスムーズに執行できたこと。また市村輝義（天理医学技術学校）、前川芳明（天理よろづ相談所病院）の２名が厚生労働大臣表彰を受けたことを改めて紹介があった。また、平成19年度は自然災害が多く能登半島沖地震（石川県）、中越沖地震（新潟県）に対し会員からの義援金を両県に送った旨の説明があり、協力に対し謝辞があった。

(3)事務局経理部：藤本理事

議案書に基づき要旨の説明があり、補足として、義援金に対してのお礼が述べられた。

(4)学術部：梅木理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(5)渉外部：長谷川理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(6)地域保険事業部：安田理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(7)組織法規部：延命理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(8)福利厚生部：橋詰理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(9)広報部：倉本理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

(10)地区担当部：松本理事

議案書に基づき要旨の説明があった。追加事項特になし。

以上、各部局の事業経過について説明を受けたのち、議長から第１号議案について質問、意見を求めたところ、質問は無く、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

2）第２号議案：平成19年度決算報告について

平成19年度決算報告：藤本理事

議案書に基づき当日資料で決算報告の説明があった。追加事項特になし。

以上、平成19年度決算報告について説明を受けたのち、議長から第２号議案について質問、意見を求めたところ、雑収入での公益事業費の入金について、日臨技共催公益事業の共催基準とその共催金額について説明が求められた。事務局より、広く県民を対象とした公益性の高い事業について、公益事業審査申請書および予算書を事業２ヶ月前に提出し審査を受ける。共催費については、事業報告を終了後２週間以内に報告書および決算書を提出し、様々な基準はあるがおよそ事業費は日臨技と折半になる。また、同じく日臨技での決済について質問があり、公益事業共催費は日臨技で決算報告されているとの説明があった。

第２号議案について他に対し質問、意見を求めたところ、質問は無く、議長は拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

3）第３号議案：平成19年度監査報告について

当日資料：船内監査

別紙資料に基づき監査報告があった。なお、追加事項として次年度への繰越金が多いことについて指摘があり、今後改善すべきとの意見があった。

議長から第３号議案について質問、意見を求めたところ、質問は無く、拍手による承認を求め、過半数を超える拍手多数を持って承認された旨、宣告した。

4）第４号議案：一般提出議題

総会10日前までに事務局に届いた一般提出議題はなしと、報告したが、会場の出席者に緊

急動議の有無を確認するもなく、一般提出議題はなしと宣告した。

その他、質問等はなく、議長からこれを以って本日の審議事項はすべて終了したことが宣告された。

Ⅶ　総会役員及び書記の解任

議長から資格審査委員（兼議事運営委員）および書記を解任する旨の通告と、協力への謝意の言葉が述べられた。

Ⅷ　議長挨拶

議長から議事進行の協力に対して謝辞が述べられた後、自らを解任する旨宣告した。

Ⅸ　閉会の辞

今田副会長から学会に引継ぎ総会へ出席していただいたことにお礼が述べられた。また平成22年度に開催される近畿医学検査学会が奈良県担当であることの報告と会員各位の協力要請があり、その後、社団法人奈良県臨床衛生検査技師会平成20年度第１回総会の閉会宣告が行われた。

以上、式次第はすべて終了し解散した。

平成20年５月18日

社団法人　奈良県臨床衛生検査技師会

議　　長　　浦　雅彦

議　　長　　猪田　猛久

議事録署名人　　田中　恵美

議事録署名人　　井田　淳

奈臨技学会報告

第25回奈良県医学検査学会開催

平成20年５月18日（日）９時30分より奈良県立医科大学　厳橿会館において、第25回奈良県医学検査学会が開催されました。下記に内容を掲載いたします。

学会プログラム

―― 9：30～10：20 ――

会長挨拶　　奈良県臨床衛生検査技師会　会長　山本　慶和

一般演題・要望演題　　（発表７分、質議３分）

座長（　森嶋　良一　）

○　肺年令と喫煙指数は関連するか？　　町立吉野病院　中澤　浩世

○　血管診療技師取得とこれからの課題　　生理機能検査部門　宇陀市立病院　中村　知世

○　ＳＡＳとナルコレプシーを合併した症例　　中部地区　天理市立病院　千崎　香

座長（　大峠　和彦　）

○　ＩＳＯ１００００２：２００４を基本とした臨床検査領域における苦情対応

検査総合管理部門　近畿大学医学部奈良病院　高部弘司

○　当院の輸血業務の歩み　　輸血移植検査部門　地域医療振興協会　市立奈良病院　松本克也

―― 10：30～12：20 ――

シンポジウム　　（　司会　猪田　猛久、萬砂　美都子　）

テーマ　『メタボリック症候群について考える』

○　メタボリック症候群の概要　　奈良県立医科医科大学附属病院　岡本　康幸

○　いよいよ始まった特定健診

協和メデックス株式会社　営業部　企画戦略グループ　越川　洋

○　日臨技データ共有化事業　　天理よろづ相談所病院　山本　慶和

○　ＬＤＬ-コレステロール直接法の検討　　奈良県立医科医科大学附属病院　倉田　主税

質議

―― 12：30～13：30 ――

ランチョンセミナー　（　司会　山本慶和　）

テーマ『知って得する臨床検査』　　天理よろづ相談所病院　松尾収二

閉会の辞　　奈良県臨床衛生検査技師会　学術担当副会長　今田周二

一般演題・要望演題

一般演題・要望演題を担当して

奈良県立医科大学附属病院　森嶋　良一

今回、私は第25回奈良県医学検査学会の一般演題と要望演題の３題の座長を担当させて頂きました。

１題目の『肺年齢と喫煙指数は関連するか？』町立吉野病院の中澤浩世先生の発表では日本呼吸器学会肺生理委員会の提唱する「肺年齢」に対する検討で、現在まで喫煙と肺疾患との関係は「喫煙指数」と呼吸器検査データとの相関は数多く報告されている中、新しく「肺年齢」という新しい表現のパラメーターでの検討です。しかし「肺年齢」の計算式は「一秒量」と「一秒率」と「身長」をもとに「一秒量の回帰式」に代入しているもので検討されている結果に対しては期待どおりの相関が得られたものと思われます。しかしｎ数がやや少ない中においても「肺年齢」を用い検討され相関を出されたことは検査データに「肺年齢」を記載させる上では内容のある検討であったと思います。喫煙は現代社会において喫煙者本人だけの問題だけではないことから、あらゆる場所において禁煙を推進する傾向に進んでいます。しかし喫煙者にとって禁煙は容易でなく、一番大切な事は本人の禁煙に対する自覚と言う点からも健診を含め検査結果に一般の方にも理解しやすい「肺年齢」というパラメーターは「血管年齢」や「骨年齢」などと同様に普及されると思われますのでｎ数をさらに増やしてさらに詳細な検討を期待しております。

２題目の『血管診療技師取得とこれからの課題』宇陀市立病院の中村知世先生の発表では臨床検査技師がチーム医療の中であらゆる分野に進出に活躍しつつある中で、2006年より「日本血管外科学会」「日本脈管学会」「日本静脈学会」の３学会が「血管疾患の病態全般に関する基礎知識，および血管疾患診療に関する専門知識と実技技術を有する方を，脈管疾患領域の治療にコメディカルとして関わる専門家として認定するもの」として「血管診療技師」の認定を始め、受験資格は１）日本国における，臨床検査技師・看護師・臨床工学技士・診療放射線技師・准看護師のいずれかの資格を有している。２）上記資格取得後，下記の実務経験を有している方。臨床検査技師・看護師・臨床工学技士・診療放射線技師の方は３年以上、准看護師の方は５年以上。３）血管疾患を専門とする医師のもとで十分な血管疾患診療の経験がある。４）認定講習会を受講。移行措置あり　とあります。特に職種に関しては多く、認定を取得後もそれぞれの分野での活躍が期待させているものと思われます。その中で臨床検査技師がどのような分野において十分な役割を果たさなければならないのか？また今後活躍の場をどのように広げていくのかを宇陀市立病院の例を用いて発表して頂きました。この発表を通して「血管診療技師」に対しての関心と認識を会員の皆様にもって頂けたのではと思います。奈良県において臨床検査技師による「血管診療技師」の取得はまだあまり多くなく、中村知世先生にはこれから取得を希望され受験される方へのアドバイスと取得後のご指導に活躍されることを期待しております。

３題目の『ＳＡＳとナルコレプシーを合併した症例』天理市立病院の千崎　香先生の発表では近年生理機能検査の中でも診断基準にも発展をしつつあるＰＳＧ検査において、ナルコレプシーの病態の説明から検査の診断基準を解説して頂きました。症例では睡眠時無呼吸症候群とナルコレプシーを合併したものを「ＰＳＧ結果」と「ＭＳＬＴ結果」と提示しながら診断にいたるまでの流れを詳しく説明されました。ＰＳＧ検査を実施する上においては睡眠時無呼吸症候群ひとつの疾患にとらわれる事無く、特に患者さまの訴えや症状などの情報を注意深く得ることであらゆる可能性を判断し、より正確な検査を行う事で診断につなげて行く必要を述べて頂きました。奈良県においては簡易ＰＳＧ検査を実施されている施設は多いもののＰＳＧ検査を実施されている施設はまだ少なく、会員にとっては貴重な症例の解説であったと思います。天理市立病院ではＰＳＧ検査をはじめ睡眠障害に対して多くの症例を経験されておられますので今後も会員の皆様に症例の解説をして頂けたらと思います。

今回の学会において座長として生理機能部門の演題を３題担当させて頂きましたが、すべての発表の中にその施設での臨床検査における発展が期待される内容であったように感じました。今後もこの学会が会員の皆様にとってレベルアップにつながるものになることを期待しております。

第25回奈良県医学検査学会要望演題の座長を務めて

天理よろづ相談所病院
臨床病理部　大峠和彦

私の担当１題目は近畿大学奈良病院　高部弘司氏の「ISO10002:2004を基本とした臨床検査領域における苦悩」と題し、苦情対応のための指針規格を紹介、その取り組みについて紹介して頂きました。消費者基本法には苦情処理体制の整備に努めると記述されていて、臨床検査の国際規格ISO15189でもマネージメント要求事項4.8に苦情処理の項があり、医師、患者または他の関係者から受けた苦情の処理に関する方針、処理手順の保有。苦情および検査室が実施した調査、是正処置の記録の保存などについての記載があることを述べられた。具体的な方策を立案するための手段としてISO10002:2004苦情対応のための指針を検討して具体的な基本理念、基本方針を検討し、示して頂きました。この規格は私をはじめ会員のほとんどのものが初めて耳にするものでした。

マスコミにも取り上げられたモンスターペイシェントの存在もあり、各病院においても苦悩しているところです。近畿大学奈良病院の取り組みのその後の経過、結果をまとめて発表して頂ければ会員の参考になると思います。

２題目は市立奈良病院　松本克也氏の「当院の輸血業務の歩み」と題して輸血業務を一元化して行う輸血管理室を設置してから１年半経過し、その効果を発表して頂きました。
輸血療法委員会をこれまで年１回であったのを年６回定期開催し、データの報告と問題点を審議してきたことで、製剤の廃棄数が減少したとデータを提示して頂いた。

平成18年４月より、輸血管理料Ⅰ（200点）あるいはⅡ（70点）が加算請求できるようになっています。輸血医療の安全確保と血液製剤の使用適正化を行うことにより結果的に輸血管理料の加算請求が可能となり、大事なことですから、是非、推進して行って頂きたい。

２題とも基本的なことをテーマとした内容でとても参考になった発表であったと思います。

シンポジウム（メタボリック症候群について考える）を担当して

天理よろづ相談所病院
臨床病理部　猪田　猛久

奈臨技学会では初めてシンポジウムの司会を担当させてもらった。シンポジウムの発表は何度か経験はあるがシンポジウムの司会はあまり経験がなくどのような展開になるか少し心配していた。テーマは今年から始まったメタボリック検診がテーマで企画としてもよかったと思う。このテーマは前年度化学の勉強会でも取り上げ多少理解はしているつもりだった。シンポジストの人達は自分達のテーマをわかりやすく丁寧に話をしてくれたと思う。メタボリック症候群そのものの病態について、メタボリック検診のシステム的なこと、我々の出すデータが直結するメタボリック検診と標準化事業のこと、メタボリック検診で重要でありながら最も標準化が遅れているLDL-Cの問題点についてであった。事前にはいくつかの質問等考えはしていたがやはり話を聞くうちに聞きたくなったことを質問していた。討議では松尾先生から検査技師がメタボリック検診に関わりを持つべきで技師会がもっとメタボリック検診に関与するように動けないのかとの意見が出された。これには今年の日臨技総会に参加させてもらったが会長はその点には興味を持っている印象はなかった。しかし検査のことを最も理解している検査技師が何とか関わりを持てることを期待したい。その他いくつかの質問もあったがまさかまほろばの原稿依頼がくると思っていなかったのではっきりとした記憶が残っていない。もっと質問もしたかったが時間も過ぎており昼時で空腹の時間を延ばすのも申し訳なく終了した。一般的にはなかなか皆の前で質問等しにくいとは思います。その代わりも司会者が兼ねているのかもしれません。今年は皆さんの聞きたいことは聞いていたでしょうか。うまく進行はできていたでしょうか。しかし司会者に頼っていてはいけません。会場に来ながら発言の無かった人、来年からは少しは討議に参加して下さい。期待しています。

メタボリックシンドロームの概要

奈良県立医科大学中央臨床検査部
岡本　康幸

内臓肥満またはインスリン抵抗性を背景に高血圧・耐糖能異常・脂質異常など動脈硬化性疾患の危険因子が一個人に集積して発症する病態（multiple risk factor症候群）は、これまでシンドロームX（1988年）、死の四重奏（1989年）、インスリン抵抗性症候群（1991年）、内臓脂肪症候群（1994年）といった病名で報告されてきたが、1999年以降はWHOの推奨でメタボリックシンドローム（MetS）の名称に統一された。呼称の統一後も様々な診断基準が報告されてきたが、2005年にIDF（International Diabetes Federation、国際糖尿病連合）は、内臓肥満を必須項目とする診断基準を国際的に標準的なものとして報告した。わが国でも同時に内臓肥満を必須項目とした診断基準を設定しているが、その設定方法・内容はIDFのものとは若干異なっており、このことについて国際的な議論も生じている。このような現状からみて、MetSの診断基準については今後も見直しが続けられていくと考えられ、とくに必須項目・人種差・性差などについての考え方や数値設定の問題が、特定健診や標準化の問題ともリンクしながら検討されていくことになると思われる。

MetSの診断基準では内臓肥満を腹囲径で評価するが、わが国での判定値の根拠は腹部の断面で100cm2以上の内臓脂肪蓄積に相当する値としており、男性で85cm、女性で90cmとされている。そして、必須項目の内臓肥満に加えて血圧の上昇・血糖の高値・脂質異常のうちいずれか２つを伴ったものがMetSと診断されるが、血圧上昇の評価はいわゆる正常高値とされる収縮期圧130mmHg以上または拡張期圧85mmHg以上とし、高血圧の診断基準である140/90mmHgよりも低めに設定されている。血糖の高値は境界域とされる空腹時110mg/dL以上とされているが、この基準は日本糖尿病学会によるものの転用である。脂質異常の評価は、日本動脈硬化学会による基準を転用し、150mg/dL以上の高トリグリセリド血症または40mg/dL未満の低HDLコレステロール血症を男女の区別なく適用している。腹囲径の基準設定方法はわが国特有であり、血糖の判定値が高めである点や脂質異常を１項目にまとめている点・低HDLコレステロール血症の判定を男女区別していない点などが国際的な基準と異なっている。

内臓脂肪の蓄積は内臓脂肪細胞からの脂肪酸、サイトカイン、ホルモンなどの様々な物質の分泌パターンを変化させ、その変化の多くがインスリン抵抗性の進展に関与し、MetSの病態を形成している。とくに、脂肪酸流出の増加やTNF-αの産生、Adiponectinの分泌低下が重要な介在因子と考えられている。インスリン抵抗性は、高インスリン血症や交感神経系の刺激による血圧の上昇を来たし、糖の取り込み低下・肝での糖新生による耐糖能異常・高血糖に加えて糖・脂肪毒性による膵β細胞の機能障害により糖尿病を進展させる。また、インスリン抵抗性を背景にもつ脂質異常では、apoB・VLDL1分泌の増加、LPL活性の低下・CETP活性の亢進、HL/ELの活性亢進などがみられ、このため高apoB血症によるLDL粒子数の増加とともに小粒子LDLやC/TG比の高いRemnantリポ蛋白といった「悪玉リポ蛋白」の増加を来たすことが重要な特徴である。さらに、内臓脂肪の蓄積はPAI-1などの血栓促進的な物質の分泌も増加させ、インスリン抵抗性とともに動脈硬化性病変の進展に関与することとなる。このようにMetSは主に心血管病変を中心とする動脈硬化性疾患の基礎疾患として重視されてきたが、脂肪性肝炎や癌などとの関与も指摘されており、病態の更なる解明が望まれる。

『奈臨技シンポジウム』を終えて

協和メデックス(株)
営業部　企画戦略Ｇ　越川　洋

去る５月18日、第25回奈良県医学検査学会シンポジウムにおいて、『いよいよ始まった特定健診』というテーマで発表をさせて戴きました。

この様な機会をお与えくださった技師会長でいらっしゃる山本先生に改めて感謝申し上げます。

さて、生活習慣病の抑制を目的とした特定健診、特定保健指導が平成20年４月より施行されました。本制度では40歳～74歳のすべての被保険者

及び被扶養者を対象とし、保険者に対して健診及び保健指導が義務付けられました。

その背景にあるのは年々増加する生活習慣病患者による国民医療費の抑制です。2005年度の医療費は33兆1289億円、前年度に比べ3.2％の増加、国民所得に占める割合は9.01％にまで上りました。そのうち生活習慣病が約10兆円と、約3割を占めています。死亡原因においては全体の約6割を占めます。

今回の取り組みの目的は、生活習慣病予防の徹底とその先にある医療費の削減です。本制度施行にあたっては大きな投資が必要ですが、これまでの治療医学とは異なる、予防医学への積極的な先行投資と言えます。

この度のシンポジウムでは、特定健診・保健指導の導入の背景及びその中身について簡単にご紹介させて戴いた後、特定健診を実施される施設に必要とされる事項について、若干時間を割いてご説明させて戴きました。

平成20年3月10日付けで厚労省から出された「特定健康診査及び特定保健指導の実施について」の通知（健発第0310007号、保発第0310001号）は、特定健診・保健指導の内容等の詳細に関する通知であり、特定健診実施施設は内容を熟知し遵守しなければなりません。

特に特定健診の実施方法については、検査前手順が詳細に設定されており、健診の精度管理を実施する上での重要なファクターとなります。

これらの情報が、学会にご参加された先生方に少しでもお役に立てば幸甚です。

(社)奈良県臨床衛生検査技師会並びに会員の先生方の今後益々のご発展、ご活躍を祈願しております。

メタボリック症候群について考える

山本　慶和

第25回奈良県医学検査学会が5月18日奈良医大、厳橿会館において開催された。シンポジウムは「メタボリック症候群について考える」をテーマに行われた。奈良医大付属病院　岡本康幸先生は「メタボリック症候群の概要」をテーマに判定基準を概要された。特に腹囲とインスリン抵抗性の関係について自験例を紹介され、現状の基準は再考が必要であると述べておられた。協和メデックス株式会社　川越洋氏は「いよいよ始まった特定健診」をテーマにこれまでの検診の実績から特定健診の実績を上げることの難しさを述べた。これまでの検診では、異常を疑われ精密検査を受ける実績は10～20％程度あるが、特定健診では受診率の80％以上、介入指導の受診率は60％以上が要望され、相当高いハードルが設定され、これらの数値をクリアーするのは容易でないと指摘した。奈良医大付属病院　倉田主税氏は「LDL-コレステロール直接法の検討」をテーマに主要メーカーの測定試薬の測定値の比較検討結果を報告した。LDL-C直接法の測定値とFriedward式によるLDL-C値との関係はTGが基準値内、Ⅱa型高脂血清ではよく一致していた。また、直接法の方法間の乖離は、Ⅲ型，Ⅴ型の脂質異常症の検体に多く認められる。またLpX，LpYの異常リポタンパクは、胆汁うっ滞の症例の検体に多く認められる。検体のにごりや黄疸には、注意が必要であり、また必要に応じて、反応タイムコースの確認や希釈測定が望まれる。と述べた。天理よろづ相談所病院　山本慶和氏は「日臨技臨床検査データ標準化事業について」をテーマに1.日臨技、奈臨技の標準化事業、2.特定健診項目における日臨技サーベイの評価、3.標準化・特定健診の動向を述べた。臨床検査室のデータは、独立性が高く、検査室外のいかなる人も検査結果の信憑性について吟味できない臨床検査データの標準化の構築は日臨技の社会的な責務である。と述べた。

最後に、奈臨技の精度管理調査で許容誤差限界をクリアーする施設がかなり存在していることを示し、標準化への環境は整ってきていることを強調した。

「メタボ」シンポジウムに参加して

奈良県立医科大学付属病院　　倉田　主税

シンポジウムに参加した翌日から片道10ｋｍの自転車通勤をはじめ、庭先の紫陽花にカタツムリを発見し季節を感じながら1日でも長く続くようにと思いながら脱メタボ体型への挑戦がはじまった。季節のうつり変わりは早いもので熱く熱せ

られたアスファルトとコンクリートに響くクマゼミとミンミンゼミの蝉時雨、暑い夏を感じながら走っているとふと耳にしたツクツクボウシの声、夏も終わりに近づき時の流れのはやさと３ヶ月も自転車通勤が続いている事に驚きながら缶コーヒ片手にくわえ煙草で自転車を走らせている。

第25回奈良県臨床検査学会で、「メタボリック症候群について考える」というテーマでシンポジウムがおこなわれた。

日本動脈硬化学会から動脈硬化性疾患予防ガイドライン2007年版の発表があり動脈硬化性疾患の危険因子をもつ集団のスクリーニング検査として、ＬＤＬ-Ｃ140mg/dlを採用しＴ-ＣＨＯについては診断基準から除外された。

2008年４月からメタボリック検診がはじまり、血液検査８項目のうち、脂質項目として、ＴＧ、ＨＤＬ-Ｃ、ＬＤＬ-Ｃの測定が必須となりその重要性が認識されている。

ＬＤＬ-Ｃ直接法の検討を機械間差や検体の保存など、さまざまな条件をクリアーにしたいということで、大阪市大付属病院、近畿大学付属病院、天理よろづ相談所病院、奈良医大付属病院が協力して一施設で集中的に、協和メデックス、和光純薬、積水メディカル、デンカ生研、シスメックスのＬＤＬ-Ｃ直接法の検討をおこなった。その結果、レムナントコレステロールの影響によって測定値が影響を受ける試薬、受けにくい試薬などがあったが、５社の試薬すべてＦ式との相関に問題はなく、各社測定方法に違いはあるもののＬＤＬ標準操作法とされているＢＱ法との相関も良好な結果が得られた。特定検診における脂質管理目標値内においては各社問題なかった。

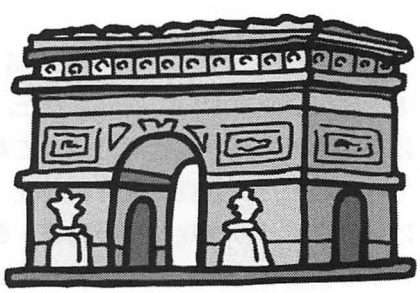
しかし、肝障害や胆汁うっ滞の検体、糖尿病や動脈硬化でみられるレムナントコレステロールやＩＤＬ-Ｃが増加した検体では、試薬によって反応性に差がみられたので注意が必要である。

検査業務を取巻く環境の中、将来的にＴ-ＣＨＯは測定されなくなる方向にあり、データ共有化の流れもあるなかＴＧ、ＬＤＬ-Ｃ、ＨＤＬ-Ｃの測定値は、脂質異常症をはじめ動脈硬化性疾患等で重要な意味をなす項目になると考えられる。反応性の違う各社試薬の特徴、特性を理解して検診業務やルーチン業務に活かしていただきたい。

奈良県臨床検査技師会勉強会資料のメタボリックシンドロームと動脈硬化ガイドラインを見ていると、リスク別脂質管理目標値の中にＬＤＬ-Ｃ以外の主要冠危険因子として、加齢（男性45歳以上、女性55歳以上）、高血圧、糖尿病（耐糖能異常含む）、喫煙、冠動脈疾患の家族歴、低ＨＤＬ-Ｃ血症（40mg/dl未満）との記載があった。

メタボ防止、脱メタボ体型の為自転車通勤をはじめたが主要冠危険因子の１つでもある喫煙のリスクを減らす為にも禁煙をしなければと、思いつつ蝉の鳴き声から鈴虫やコオロギの虫の声にかわった今日も缶コーヒ片手にくわえ煙草で自転車をこいでいる。

最後に、１つのテーマを共同で検討する機会を与えてくださった近畿分析試薬研究会の皆様、御協力いただきましたメーカーの皆様ありがとうございました。



ランチョンセミナー

検査データが読める検査技師になるために

天理よろづ相談所病院　臨床病理部　松尾　収二

【Ｒ－ＣＰＣをやって感じたこと】

Ｒ－ＣＰＣ（Reversed Clinicopathological Conference）は、呈示された検査データについて、どのように読むかを討論しながら、検査データの読み方を学ぶカンファレンスです。以前は、若い臨床検査医を対象としていましたが、最近は臨床検査技師も解説者（演者）として登場し、検査データを学ぼうとする機運が出てきています。奈良県の検査技師の方も次第に興味を持ち、著者が司会や事例呈示をして何度かＲ－ＣＰＣを行いました。

演者はいずれの方も概ね検査データを読めていましたが、正直言ってまだまだです。いわゆる血液学的検査、生化学的検査等を系統立って読むトレーニングはほとんどなされていない気がします。自分の得意とする検査は何となくわかるが、検査全体になるとよくわからないと言うことかもしれません。

また人の前で発表するということもトレーニングが必要であると感じました。医学的知識がないと表現に限界があるし、また自分の予想していた流れとは別の方向で議論が進んでいくと戸惑うようです。学生時代あるいは卒後若い時期に、検査データの基本的な読み方やプレゼンテーションのトレーニングが必要なようです。

【検査データを読める検査技師になるために】

もっとも大切なことは事例を大事にすることです。臨床情報を集め、臨床所見や経過と照らし合わせて、どのような病態にあるかを考える積み重ねが大切です。臨床医が症例を積み重ねて自分のものにしていくのと同じことです。

その際、臨床情報の入手が必要です。カルテをみる、医師や看護師にたずねる、と言ったことが必要ですが、これが意外と難しい。医師や看護師と上手にコミュニケーションがとれる人柄と常日頃の連携が必要ですが、ちょっと勇気を出して敷居をまたいでみましょう。

また気になる検査データはその日のうちに情報を入手する癖をつけておかないとすぐに忘れてしまい蓄積は難しくなります。臨床情報入手の際、病気や検査の知識は必要ですが、最初から多くの知識は必要ありません。速やかな情報入手が優先します。情報が少なくても新鮮なうちに検査データを考える癖をつけましょう。そうすれば徐々にわかってきます。

もう一つは多数例（数例でも良い）を集めて、検査の意義を調べることです。そのことで系統だった病気、病態および検査の勉強が出来ます。これが学会発表につながればさらにすばらしいことです。一度に多数例をまとめることで典型例とともに例外の事例を経験し、幅のある読みが出来るのではないかと思います。勿論、その際、教科書や文献を読むことは大切です。

３つ目は、施設内、あるいは技師会で研修会や勉強会を行うことです。少人数の施設では、なかなか研修も難しいので、皆が協力し合うことが大事です。わからない事例を持ち寄って経験を共有するだけでもレベル向上に役立ちます。例え、未解決であっても討論したこと、考えたことで記憶に残ります。いつか、何かの機会にヒントがつかめるかもしれません。良い意味で検査データにもこだわりを持つ臨床検査技師を目ざして欲しいと思います。

【さいごに】

検査データが読めることは、検査データを保証するためにも必要です。臨床検査技師にとって決してプラスαのことではなく、当たり前の業務として取り組んで欲しいと思います。

ランチョンの回答者を経験して

医仁会　平井病院　井田　淳

ランチョンセミナーでは、松尾収二先生（天理よろづ相談所病院・臨床病理部長）を講師に迎え、テーマ「知って得する臨床検査」が行われました。データを読むの症例内容は「糖尿病性ケトアシドーシス」で、私は初めて回答者をさせていただきました。

学会開催数日前、ランチョンセミナー回答者の依頼があり、前もって症例のデータを見てみると基本病態が糖尿病性ケトアシドーシスと検討がつき、自分なりにデータを判読してセミナーにのぞみました。

学会当日、心の中では、前もって予習（判読）したのだから、弁当を食べながら回答したらええわあと思いながら、回答者席に着きました。松尾先生の質問がはじまり、一つ一つのデータが基準値内か異常値かというのは判断できましたが、糖尿病性ケトアシドーシスの病態を完全に把握していなく、またデータをうわべだけでしか判読してなかったために、詳しく質問されると、焦ってしまい正確に回答することができませんでした。質問されればされるほど次々とぼろがでてき、質問に打たれて打たれてパンチドランカー状態になってしまいました。ふと気がついた時には、セミナーが終了していました。目の前には、寂しそうに蓋も開けられていない弁当がポツンとありました。

ランチョンセミナーの回答者を経験させていただいて感じたことは、全体の検査データを判読し、基本病態の把握だけで終わるのではなく、この病態で何故そのようなデータになるか（基準値内でも異常のことがある・他の病態との合併など）、を考えながら判読することが大切であること。また、しっかり自分で理解していなければ人に説明することが出来ない難しさなど勉強させていただました。今後に生かしていきたいと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

学術論文

血管診療技師取得と今後の課題

宇陀市立病院　中村　知世

〈はじめに〉

近年、わが国の疾病構造の変化、人口の高齢化により血管疾患への関心が高まっている。
血管疾患は動脈によるものと静脈によるものに分けられる（表1）。

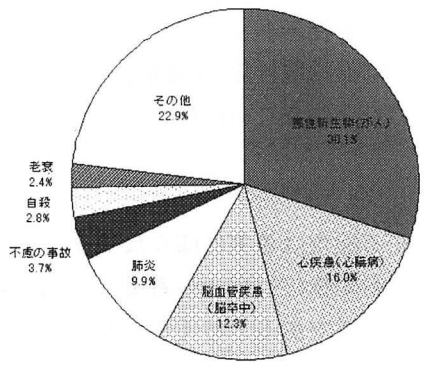
脈管疾患にはどんな疾患があるか？

	拡張性	閉塞性
動脈疾患	動脈瘤	縮窄症、Leriche
		脳卒中、頚動脈狭窄
		虚血性心疾患
		腹部・腎動脈狭窄
		末梢動脈閉塞症
静脈疾患	静脈瘤	SVC・IVC症候群
		深部静脈血栓症
リンパ管疾患		リンパ浮腫

表1

動脈が関与する心疾患や脳血管疾患による死亡は、現代の死亡原因の実に1/3を占めている（グラフ1）。これらは生活習慣病による動脈硬化症が引き金であると言われている。

主な死因別死亡数の割合（平成17年度）



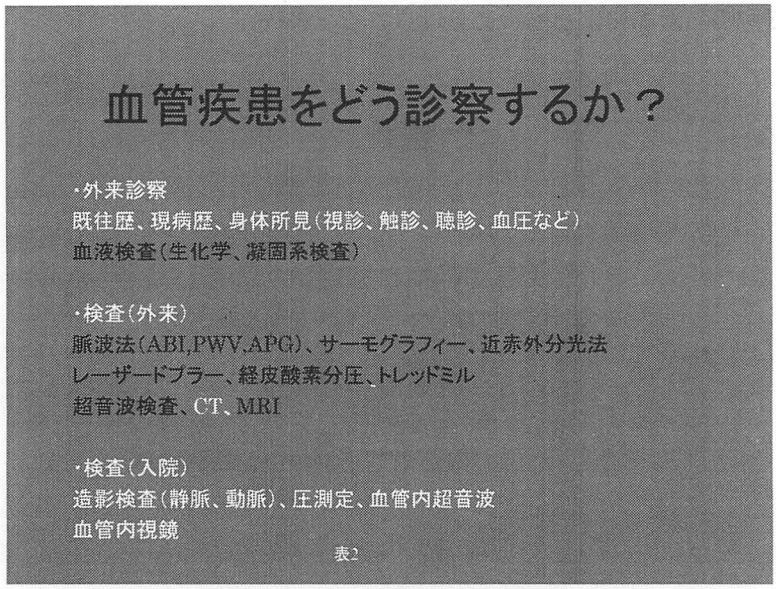
厚生労働省まとめ

グラフ1

静脈が関与する疾患には深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群）、肺塞栓症があり、先頃の中越地震で注目を浴びたことはみなさんの記憶に新しいと思う。また、最近では機能障害に伴うＱＯＬへの影響が大きい下肢静脈瘤も静脈疾患として注目されている。

〈血管診療技師（ＣＶＴ）の役割〉

このように血管疾患が注目され、患者数の増加に伴い的確な患者ケア、検査による診断が要求されるようになった。そこで誕生したのがＣＶＴである。現在、ＣＶＴを取得できる職種は臨床検査技師、診療放射線技師、看護師、准看護師、臨床工学士であるが、実際の現場では各職種に許された範囲内での業務に制限されている（表２）。



しかし、認定試験ではすべての職種より出題され、幅広い知識が要求される。この幅広い知識により検査技師は検査依頼に対するデーターを報告するだけでなく、疾患ごとの診断の決め手や治療指針の概略を理解した上で検査を行い報告することを求められる。そのため「全身と局所」の両方に気を配り「病歴」や「身体所見」に注目することで検査を円滑に実施し、臨床へ的確な情報を伝える事ができるのである。

当院では現在、整形外科術後の深部静脈血栓症（ＤＶＴ）スクリーニングが超音波検査により盛んに行われ、予想以上に多数のＤＶＴ患者が見つかっている。そして今までの整形病棟での術後胸痛による心電図検査の依頼がほとんどなくなりＤＶＴスクリーニング施行の意義を感じている。

また、ＣＶＴ取得時に得た知識を生かし、弾性ストッキングコンダクターの資格も得ることができた。この資格取得者のほとんどが看護師である。肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドラインに整形外科領域での術後ストッキングの着用が推奨されており、現在この資格を持つ看護師が当院にいないため、これらの着用指導、相談にも対応している。

〈当院での今後の活躍〉

今後、ＤＶＴに限らず血管疾患に対する検査は着実に様々なモダリティーで増加し、活躍の場が増えると思われる。これらの臨床側からの要求にも柔軟に対応できるよう知識の向上は重要であり、院内での臨床検査技師の存在をよりアピールできるチャンスであると考えられる。

先輩からのメッセージ

現在何がふそくしているかと問われて

高橋　浩

先日広報担当理事さんから、先輩からのメッセージとして表題のテーマでの原稿依頼を受けた。現状をよく知らないのでためらったが、折角与えられた機会なので勇気を出して書いてみる。

まず私が最も気にしていることは「臨床検査総論」のきちんとしたテキストが未だに無いということである。医学・医療は多くの分野に分かれているがどの専門分野にも中心となる総論が在る。臨床検査は歴史的にみても新旧さまざまなものが無選択に雑然と取り込まれてきたが、今や形を整えた専門技師の大集団を形成している。その総論を書くには時と共に変わりつつある臨床検査を業としている人間でないと無理である。広報の方達が執行部の役員数名で試作してみられたらどうか。初めは部分的でも短くてもよい。とにかく芽を作ってほしい。繰り返すが検査総論が無いという辛い思いは五十年程前からである。これがあれば医師、看護師そして社会の人に検査とは何かをきちんと説明できる。

ここで一寸私見を書く。医学は基礎と臨床に分かれる。基礎は科学で研究に物理・化学・生物学の手法を使う。臨床は病気の原因を探るのにこの手法で検査する。総論が難しいのは、検査は臨床の為にあるのに基礎の顔をしているため両者を混同する所にある。

さてしばらく前から検査法の標準化が進められて年来の目標がやがて到達されるであろう。これで気になるのは測定値の再現性が年を経ても変わらぬよう考慮しているかということである。５年、10年の経時データがそのまま見られるかということ。もちろんぬかりはないと思うが、データベース作成に必要な要件である。こんなことを言うのも臨床検査法について多少違和感を覚えることがあるからである。私は臨床検査法は診療にどれ程役に立つかどうかで決まるもので、測定法として学問的というか理論的な優劣を論ずるものでないと信じてやって来た。大体今主流の比色定量法も５,60年前は正統な科学定量法と認められていなかった。この間無数とも言える数の検査法が出現したが、その多くは消え去った。検査法の選択は厳しいと思ってほしい。検査値の再現性の良否は最も重要な要素の一つである。

それからこの頃一寸気になるのは、学会発表を気楽に考えすぎていないかということである。本来は他流試合で真剣勝負である。司会者は発言の許可を制止をするだけの役割である。全く独創性がなければ発表すべきでないだろう。出来れば論文になる程の内容であってほしい。昔は正式な論文は書く前に学会で発表して皆の承認を得るという習慣があった。私も昔壇上で立往生したことが二度あった。自分の知らなかったことや気付かなかったことのために落とし穴にはまった。ここでも臨床検査が基礎医学（科学）でもなく、臨床医学でもない独自の道であると感じさせる。これまでは今から思えばまた気楽だったかも知れない。しかしこれからは検査の責任をしっかりと脊負されていることを感じさせられることが多くなるような気がする。

検査の機器装置のトラブルもメーカーに対して毅然とした態度が必要となろう。臨床医に対してもデータの説明を求められることが増すであろう。こう申しているのは、私は検査部門を数十年間見てきた積りでありその結果である。今までは弱者であるがいたわりがあった。これからは強くなるが風当たりも強くなると思う。喜ぶべきことと言いたい。

この点検査センター（衛生検査所）は鍛えられていると感じる。共に臨床検査の責任を世間に対して持った存在として、臨床検査専門医の仲立ちを得て協力してやっていきたいものである。

結局不足を語るいい話は出来なかった。

「検査血液学会」誕生あれこれ

丹羽　欣正

先輩からのメッセージということで原稿依頼を受けさせて頂いたが、あまり過去のことをもちだして"檄を飛ばす"ことは得意でないので、技師会活動と平行して行ってきた検査血液学会における開設時の状況紹介に、「世間であまり知られていない話」を絡ませて文章を進めていきたい。さらに、本年（2008年）で設立後９年を迎えた日本検査血液学会であるが、この日本検査血液学会と私との関わり合いを中心に、本学会誕生にまつわる「あれこれ」を紹介して皆様へのメッセージに代えさせて戴く。ただし、私の記憶に残っている範囲内での思いつくままの記載であるので、内容の詳細については正式記録と異なる場合もある点お許し願いたい。

検討会の設置

事の始まりは平成10年（1998年）10月頃であったと思う。日本臨床衛生検査技師会（以下日臨技）から「日本臨床病理学会（現日本臨床検査医学会）と合同で血液学的検査専門の学術集団を作るので協力してほしい」旨の連絡があった。同年12月に、日臨技から副会長，学術担当理事，全国血液研究班班長と私の４名、日本臨床病理学会・臨床血液学専門部会から渡辺清明，中原一彦，巽典之の３氏が出席し検討会を開催、学会名を日本検査血液学会（仮称）とし、発起人会の構成メンバー策定に入った。

発起人会の発足

発起人会構成メンバーは、日臨技６名，日本臨床病理学会６名，日本血液学会１名，日本臨床血液学会１名，日本血栓止血学会１名とされ、平成11年８月に第１回（仮称）日本検査血液学会発起人会が開催された。ここで、本学会設立の目的と今後の方針について確認と討議が行われた。特に、「目的」は何年，何十年経過した後においても会の運営に大きな影響を与えることから、今求められること，今後求められることについて徹底的に追求し、必要な事柄が全て入っており且つシンプルなものとした。その内容は次の３点にまとめられる。

① 血液検査の標準化を行い、精度管理や評価法の統一をはかること
② 認定臨床血液検査技師制度をつくり、生涯教育の一端をなすと共に血液検査技師全体の意識および知識的レベルアップをはかること。
③ 定期的に学術集会を開催し、新しい検査法の開発，検査診断システムを確立すること。

その他、理事，評議員は産学で構成し、その選出数を臨床検査技師，臨床検査医，企業の３種で概数として出した。このことは、本会の運営は産学協同で行うことのベースとなっている。

発起人会から準備委員会へ

発起人会は平成11年11月に準備委員会に移行した。ここで学会開設時期を検討し、平成12年（2000年）１月から３月に学会として正式に発足できるよう、準備を進めることとした。準備は順調に進み平成12年（2000年）３月25日東京都内において学会設立評議員会が開催され「日本検査血液学会」が誕生した。

日本検査血液学会誕生

約一年半の歳月をかけて準備した学会がようやく誕生し、会員を募集した結果約1000名とほぼ予定通りの会員が集まった。それが平成20年６月時点での総会員数は、2429名と驚くばかりの大型化をみせ、活動内容も充実してきており、学会の今後に一点の陰りもない。陰りが出るとすれば、本学会設立の趣旨「血液検査が好きな同志による、同志の為の学会であること」が忘れられた時であろう。

表　彰

「第四十三回小島三郎記念技術賞」を受賞して

（財）天理よろづ相談所医学研究所　宮西　節子

このたびはからずも平成二十年度「第四十三回小島三郎記念技術賞」を受賞するという光栄に浴しました。「小島三郎記念技術賞」は、臨床・衛生検査領域において優れた検査方法・術式の考案改良を行ない，検査技術の普及発展に功績のあった実務（技術）者に授与されます．この賞は元国立予防衛生研究所所長であった小島三郎博士の偉業を讃えるため、臨床検査領域に深い見識を持った財団法人黒住医学研究振興財団が顕彰するものです。

昭和四十一年（1966年）の第１回以来臨床・衛生検査領域で長い歴史と権威を誇っていますが、過去の受賞者のお名前を拝見するとそのことがうなづけます。

ことの発端は、私の尊敬する誠実な友人が私を推薦したいと言って下さったことです。そんな立場ではないと思いながらも、第三者の評価を受ける良い機会と考えご好意をありがたく頂戴しました。

賞の推薦にあたっては、友人はまるで自分のことのように一生懸命推薦に関する書類を整えて下さり、そのご厚意は誰にもできない真実の賜物であったと感謝しています。

私が就職した頃は、臨床検査を取り巻く環境は今のように充足していませんでしたが、そのかわりパイオニアとしての自由な環境がありました。何にもまして高橋浩先生の理念に基づく臨床検査に携わるものの姿勢というような教育があったことが、とても大きかったように思います。

さらに財団法人という公益に資する病院で働かせていただいたことがいろいろな仕事をさせていただけるベースにありました。それはとても幸運であったと振り返っています。

受賞の対象は大きく三つの分野に分けられます。就職当初から15年程携わっていた免疫血清学、医学研究所に配属されてから始めた遺伝子染色体分野の開拓的な仕事、さらに日本臨床衛生検査技師会（日臨技）における学術活動やJICA研修、国際医療技術交流財団における技術指導などの人材育成に係わることです。

受賞式は東京の野口英世記念会館で行われ、式典は大変格調の高いものでした。中谷林太郎理事長は、賞状に書かれた一人々々の詳細な業績を読み上げられ贈呈して下さいました。河合忠先生をはじめとした臨床病理の大御所、大先輩などが居並ぶ中で代表者挨拶もさせていただきました。今回の受賞者は奇しくも６人中５人が何かご縁のある方ばかりでした。

記念祝賀会では佐藤乙一元日臨技会長が、「衛生検査技師」の名前の名付け親が実は小島三郎先生であったことを話して下さいました。細菌検査からはじまった資格の名称について「細菌」を冠するような名前にすることを反対されて、これからの広い職域を考えて「衛生検査技師」にされたとか、思いもかけないお話を聞かせていただきました。

就職以来、淡々と与えられた場で与えられたことができるよう働いてきたに過ぎませんが、これからの若い方々に何か刺激や励みになればと思います。

ともあれ、今回の受賞は天理の臨床病理の礎を築いて下さった諸先生、先輩、同輩、後輩に何らかの力をいただいてきたおかげであり、天理に脈々と受け継がれる「TENRI-ism」の延長線上で代表として私が受賞したに過ぎません。

皆様方に心より厚くお礼申し上げます。

今後も活躍される方がいろいろな施設から輩出されることを願っています。

平成20年度一般・新人研修会

新人・一般会員研修会に参加して

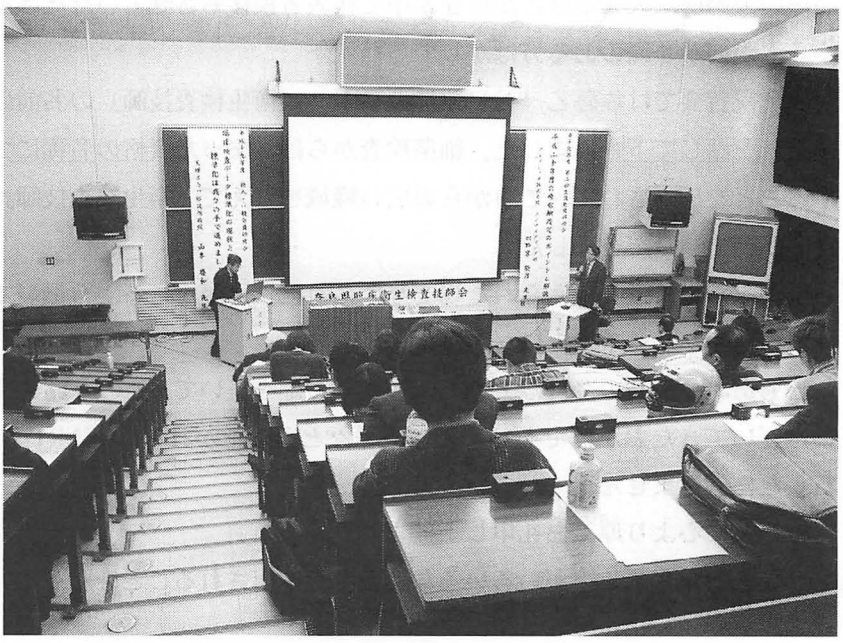
済生会御所　　田中　恵美

臨床検査技師一年目として、平成19年度の新人・一般会員研修会に参加させていただきました。

講演は「臨床検査データ標準化の現状と奈臨技の今後」についての演題でした。難しい内容でしたが、一年目の私にはとても新鮮でした。検査技師となり、私は毎日、検査結果の"数値"を施設で決められた基準値より高いか？低いか？パニック値ではないか？ということでしか検査データを見ていませんでした。
学生の時、検査項目によっては、施設間で、基準値が大きく異なるものがあると教えられてはいましたが、正直なところ、基準値が施設により異なるということの意味が理解できない部分が多々ありました。実際に臨床の現場に出て、いろいろな人の検査データを目にしたことにより、検査項目によっては、個人個人で検査データはこんなにも違ってくるのだと知りました。そして、今回の検査データ標準化の話を聞き、検査項目の"数値"の違いは個人だけではなく、試薬や測定方法の違いにより各施設統一されていないということにも気付くことができました。漠然とした形ではありますが、施設により基準値が異なっていることが理解できたように思います。

また、技師会で行われている、統一精度管理調査（サーベイ）は技師間や施設間での技術の統一化（標準化）をみるために行っていることだと思っていました。初めてサーベイの回答を見たときに使用機器や使用試薬を記入する欄があり、『何の為に記入をしなければならないのだろう？』と思っていましたが、サーベイは技術に加えて施設間の検査データの統一化（標準化）についてもみているものだと、ここで初めて知りました。このことからも施設間での検査データの統一化ということの大切さがわかりました。

今回、この研修会に参加させていただいたことにより、検査データの見方や考え方について改めて考えるきっかけとなりました。「臨床検査データ標準化の現状」ということは私にはまだまだ理解し難いことではありますが、少しずつでも標準化の大切さや意味を具体的に理解できるようになっていかなければと思いました。そのためにもまずは、日々の検査業務で検査データの見方を変えていくことから取り組んでいき、自分自身の検査の向上にも繋げていきたいと思います。



日臨技医学検査学会総会　札幌

日本医学検査学会第１回定期総会に参加して

天理よろづ相談所病院　臨床病理部　木下　真紀

去る５月30、31日に第57回日本医学検査学会が北海道札幌で開催され、私はその前日に行われた平成20年度第１回定期総会から合わせて３日間札幌に滞在しました。出発した29日は朝から雨が降っており、それまで５月とは思えぬ暑い日が続いていた奈良でも少しは肌寒さを感じましたが、新千歳空港で飛行機から降りると同じ日本なのかと疑うほど空気が冷たく感じました。札幌市内は空港ほど寒さを感じませんでしたが、それでも町行く人の服装は秋の終わり頃を感じさせるものでした。そんな中向かった定期総会の会場であるホテルニューオオタニ札幌は札幌市の中心部にあり、JR札幌駅と大通り公園のほぼ真中に位置していました。近くには時計台もあり、札幌にきたことを実感することができました。

さて本題である定期総会ですが、総会員数42,419名のうち198名の出席者と33,817名の委任状提出者で、事業報告、決算報告、監査報告、平成20・21年度代議員選任、質疑応答について約1時間に渡り行われました。

【事業報告について】

まず、重点的に取り組まれた標準化事業は、平成19年度から３カ年計画でしたが、ほぼ全県で実施され、検査データは精度の高い評価を得ているとのことでした。今年４月から制度化されたメタボリック検診においても技師会が主導的な立場でスタートしたそうですが、精度管理事業で積み重ねた組織力と連帯感が功を奏したそうです。

また、輸血業務一元化に関する研修会にこれまでの３年間で会員18,000人が参加し、厚生労働省から高い評価を得ているとのことでした。

８地区ジョイントフォーラムでは全国26箇所の大型街頭ビジョンでエイズ予防啓発ＣＭを8,600回放映されたそうです。（奈良に大型街頭ビジョンがあるのか定かではなく、別の方法で放映されたかどうかもわかりませんが･･･????）

技師のスキルアップを目的に立ち上げた認定制度も、認定一般検査技師（195名）、認定心電技師（115名）が誕生したそうです。

【決算報告・監査報告について】

14ページにもわたる平成19年度の決算報告書をいただき，細やかに説明していただきましたが、項目の多さと金額の大きさに目を見張るばかりでした。（決算報告書をご覧になりたい方はご一報ください）

【平成20・21年度代議員選任について】

各都道府県の代議員について、名簿をいただきました。奈良県は、天理よろづ相談所病院の山本慶和氏が選任されました。

【質疑応答について】

定期総会終了後、日韓交流30周年の記念式典が開催されることもあり、あまり時間はありませんでしたが、様々な意見や要望がだされました。標準化事業の継続やデータ共有化に必要なリアルタイム解析ソフト開発のための予算の確保、患者説明のための教育機構の整備等を要望されていました。また、女性フォーラムの状況の報告や親交協議会のスタンスを明確にする必要性など、執行部だけでなく、会員にも伝えてほしいという意見もきかれました。全ての質疑に対し、全て小崎会長が対応しており、実直さが伺えました。

▲ホテルニューオオタニ札幌前で

▲大通り公園にて

総会終了後、大通り公園を中心に札幌市内を散策しました。大通り公園は花壇などきれいに整備されており、家族連れや学校帰りの学生たちの憩いの場となっているようでした。私の勝手な思い過ごしかもしれませんが、町行く人たちはせかせかした様子はなく、ゆったり時間が過ぎているように感じました。

しかし、日本一の繁華街・すすきのは昼の顔と夜の顔が全く違っていて、夜になるとものすごい数のネオンと人・人・人で、少し？かなり？ワクワクしました。そのすすきので食べたジンギスカンの味、忘れられません・・・・・。北海道限定のサッポロビールもおいしかった・・・・。

今回の学会は、口演会場と展示会場がバスで20分の場所に離れていたため移動に苦労しました。口演会場だった札幌コンベンションセンターは、最寄駅から徒歩10分の場所にあるものの、駅から会場まではさえぎる建物がほとんどない為、吹き荒れる風に心が折れそうになりながら歩きました。また、展示会場は工場地帯の中にあり、公共の移動手段がないため～陸の孤島～のようでしたが、「北海道は広いから」と自分をなぐさめ、これまた吹き荒れる風の中、10分おきに発車するシャトルバスに乗車しました。

私は、SMBGの院内サーベイに関する発表でしたが、なぜかPOCTのブロックだったので、他のSMBGに関する発表が少ししか聞けなかったのが少し心残りでしたが、とても充実した３日間を過ごすことができました。今度は仕事抜きで行きたいと思っています。

研修会

自動呼吸機能検査研究会に参加して

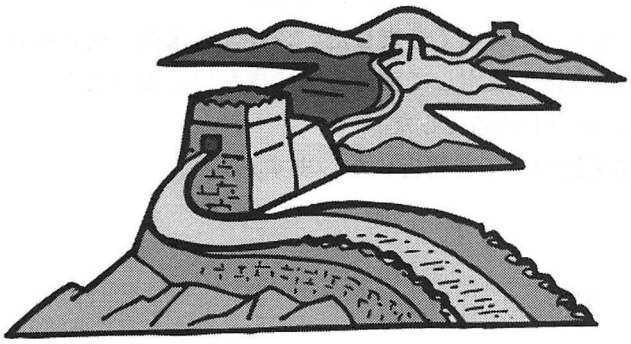
公立大学法人　奈良県立医科大学付属病院
中央臨床検査部　高倉　ゆか

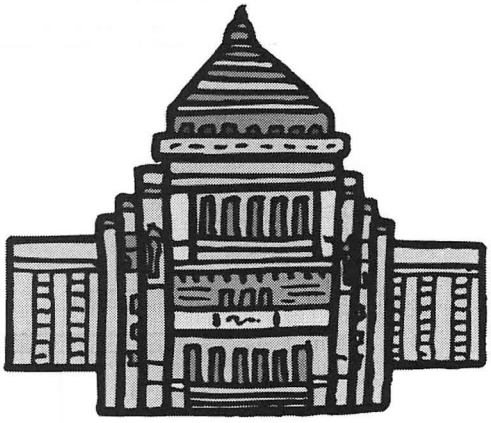
８月31日、第８回自動呼吸機能検査研究会に参加しました。

私は、４月より生理機能検査に異動になり、生理検査についての知識はほとんどなく一から勉強をさせていただいている中、係長から自動呼吸機能検査研究会に発表してほしいと言われました。最初は、ほとんど知識の乏しい私が人前で発表は出来ないし、無理だと思っていましたが、係長から「大丈夫、大丈夫できるよ。」の言葉で自分の出来る範囲でやってみようと思いました。

今回、睡眠時無呼吸症候群（SAS）の家族性筋緊張性ジストロフィー症の症例ついて発表しました。SASとは、無呼吸がつづくことで体に負担がかかり生活習慣病（高血圧や心疾患など）、昼間の眠気による事故（交通事故、労災事故）が関係したため、話題となりました。当院でも、約二年前から臨床検査技師がPSG検査解析を行っています。生活面の改善が認められた家族性筋緊張性ジストロフィー症の症例を報告しました。本症例は、筋緊張性ジストロフィー症のため、CPAP療法の圧のコントロールが困難のため、圧設定が困難で稀な症例でした。

発表にあたり、新たに勉強して、人前で話すことの難しさ、緊張感を経験しました。こういう場に立てることで、よい経験をさせていただきました。まだまだ未熟で経験不足ですが、今回の発表で得られたことは大きかったと思います。





公開講演会

平成19年度　公開講演会報告

長谷川　章

平成19年度は、平成20年３月２日（日）奈良県新公会堂において、「メタボリックシンドロームの診断基準」の目指すところ、と題して、大阪大学大学院医学系研究科　内分泌・代謝内科学　准教授　船橋　徹先生による県民を対象にした公開講演会を開催しました。

今回の公開講演会は、奈良公園の奥に位置する、落ち着いた佇まいの会場で行いました。20年度からは特定健診が始まる予定が決定し、その健診に対する意識を高める為にもこの公開講演会が役に立てばと思い開催しました。

また最近大きな自然災害も発生しており、そういった観点からも災害時の臨床検査の役割を考えたも展示も行いました。災害時に現場で必要なスペースを確保するトリアージテントの展示も行いました。また他の団体への協力もお願いして今回は糖尿病協会からスタッフ４名の派遣をして頂きました。

講演前の各測定やパネル展示についても、今回限られたロビーのスペースで、腹囲測定、血圧測定、体脂肪測定、加速度脈派測定を実施しました。またこのロビーの中にもテントを設置して臨場感のあるＰＯＣＴサイトを設置しました。血糖測定を行う機器、尿検査の展示、また簡単な生化学検査を行える分析機器まで持ち込みました。

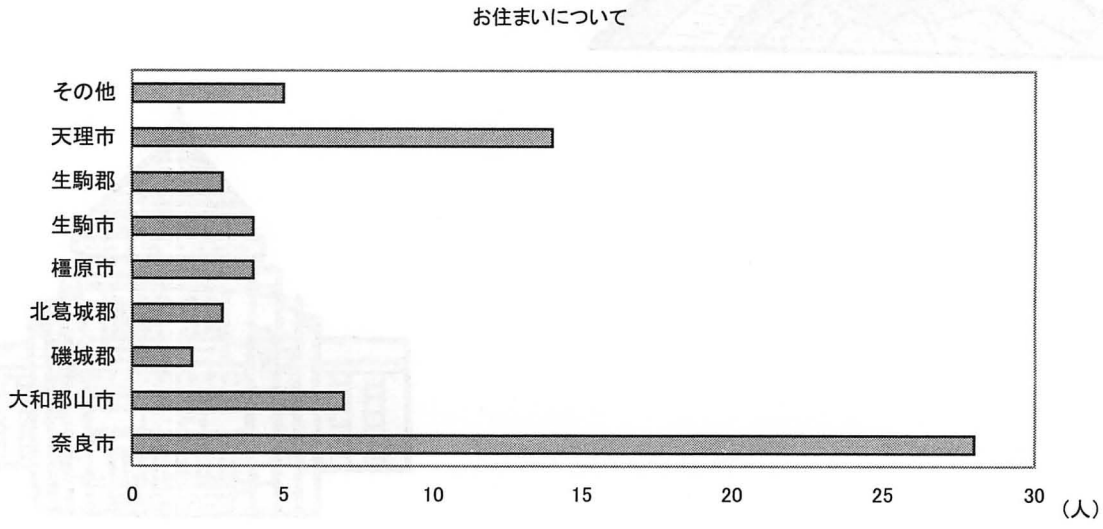
公開講演会で講演をしていただいた船橋先生はメタボリックの第一人者で、話題のアデポネクチンの名付け親でもあります。今回の公演内容にもその存在が大きく関与している話があり、メタボリックシンドロームをいかに考え理解して、それに向かい合っていくのかを、県民の方々を対象に分かりやすく講演いただきました。アンケート結果には、講演内容について、90％近くの方から分かりやすかったとの回答を頂きました。

今回もいつもそうですが、講演会を支えていただいている、スタッフの協力のもと毎年続けることが出来ています。今回も多くの実務委員、賛助会員、理事の方の協力を得て、無事終えることが出来ました。

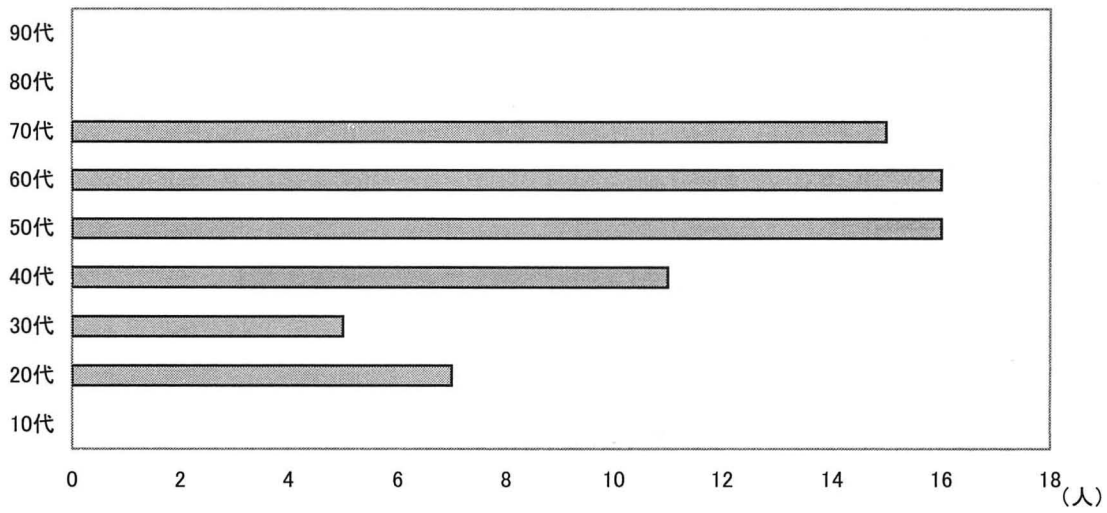
最近では、この様な講演会が様々な団体から開催されるようになってきました。奈良県臨床衛生検査技師会でも、県民の方々や、会員の方のために役立つ講演会を今後も模索して実行してゆきたいと思います。

参加者は一般参加者98名、会員78名、賛助会員10名の合計186名でした。

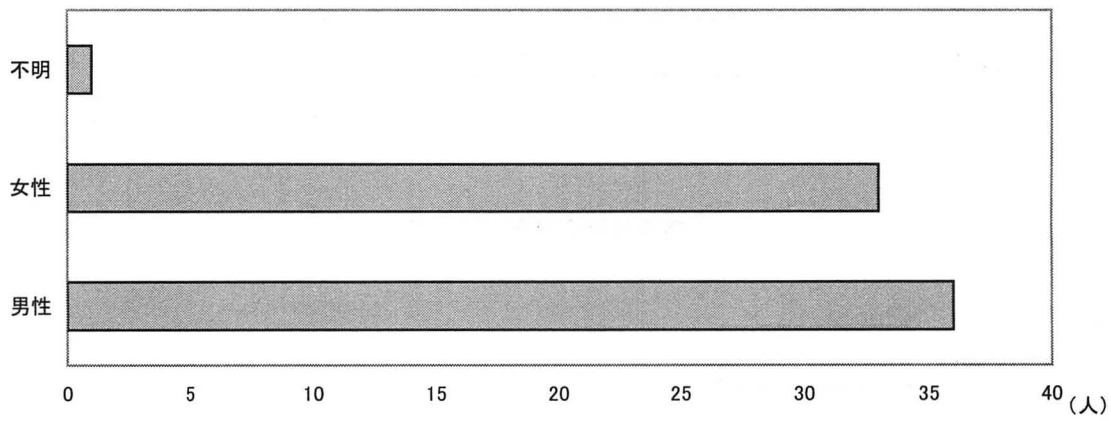
アンケートは70名の方から頂くことが出来ました。結果についても報告いたします。



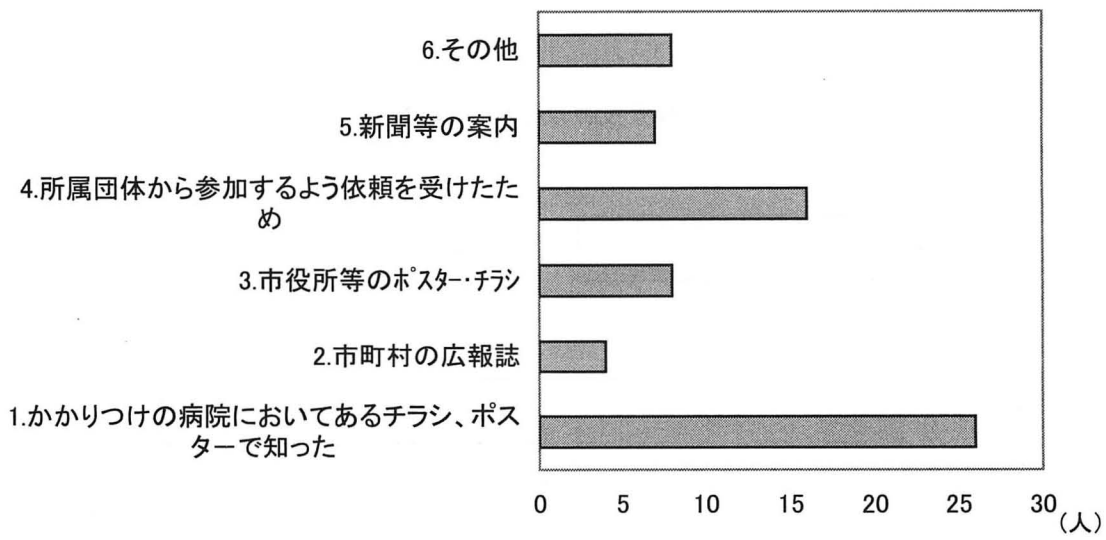
年代



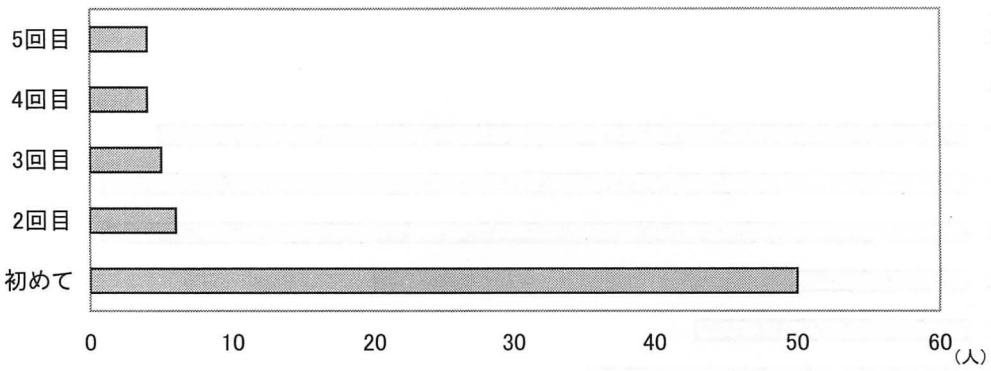
性別



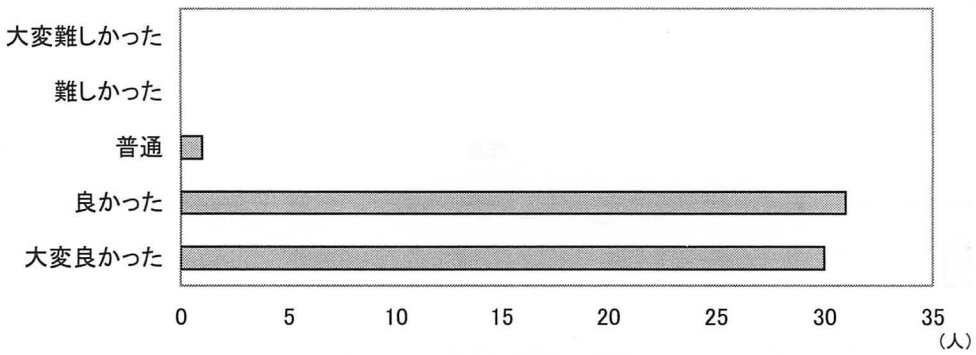
講演会を知った理由



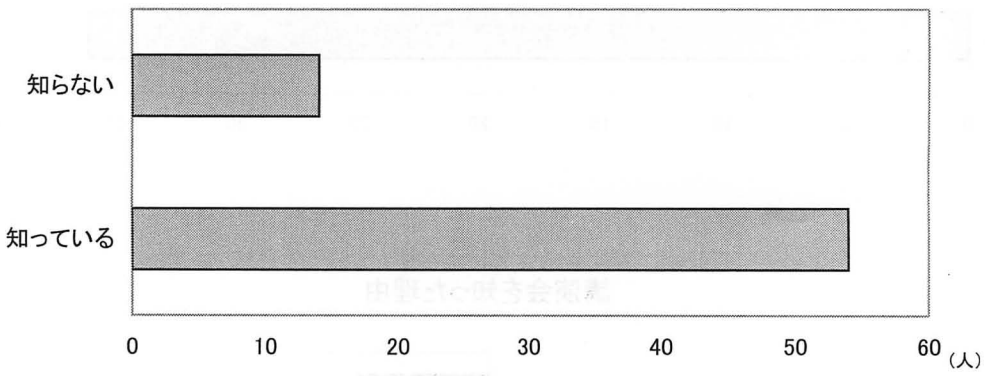
参加回数



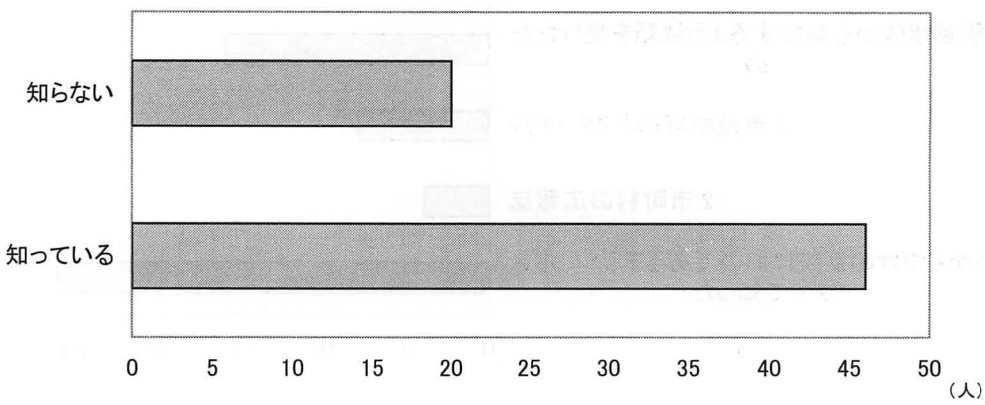
講演会の内容について



検査技師の名前について



検査技師の仕事について



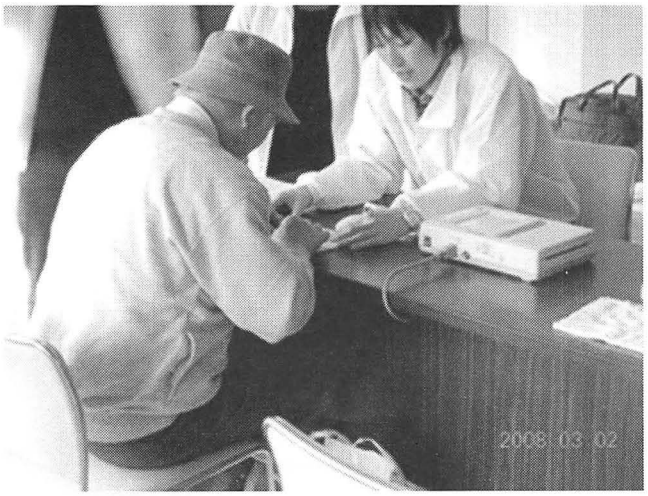
平成19年度　公開講演会に参加して

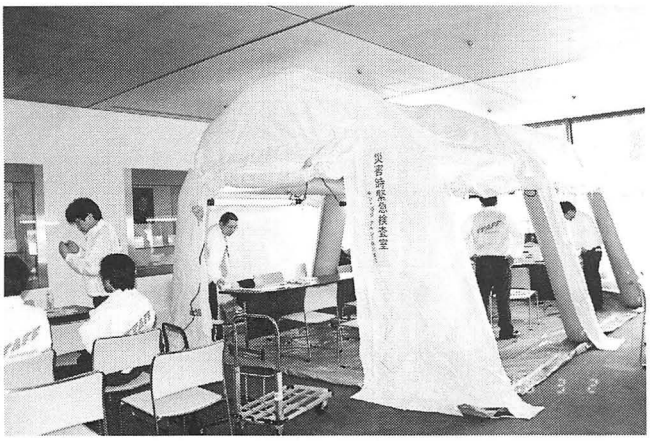
片岡　直樹

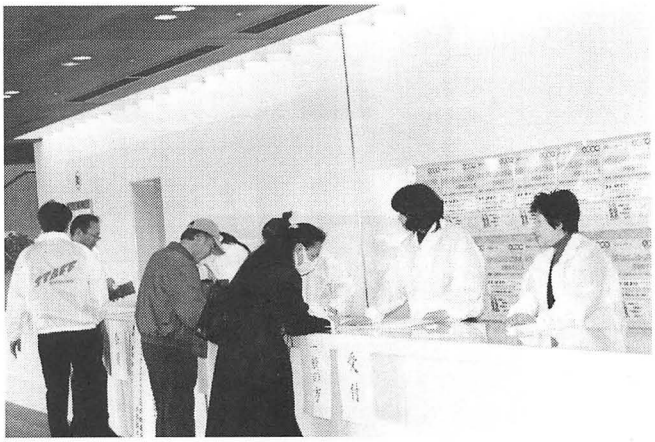
先日３月２日に奈良県新公会堂能楽ホールにおきまして、大阪大学大学院医学系研究科准教授船橋先生の講演会に参加致しました。

テーマは『わが国のメタボリックシンドローム診断基準の目指すところ』糖尿病、心血管疾患のなりたちから地域での予防までということで約１時間半の講演会でした。

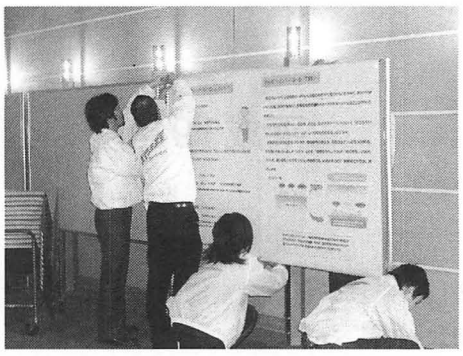
20年度より特定健診が導入されることもあり約200名の参加者がありました。参加者の関心も高く、質疑応答も活発に行われていました。メタボリック健診の特徴は、腹囲測定が導入されたことが今までの成人病検診との大きな違いで、測定意義の重要性等をわかりやすく説明していただき、内臓脂肪の蓄積の怖さを理解することが出来たことが一番の収穫でした。これから腹囲を85ｃｍまで減らすのに何年かかるのか自己との戦いが始まります。どうもありがとうございました。

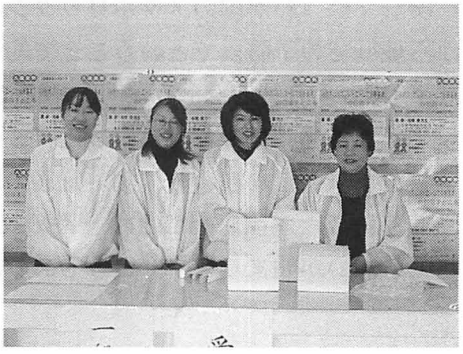


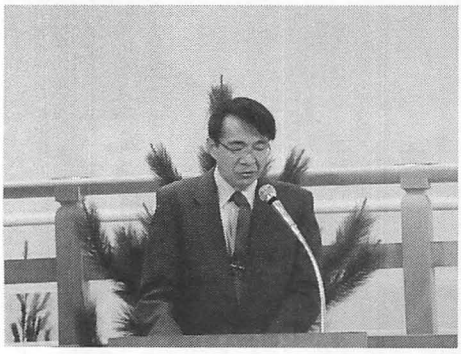


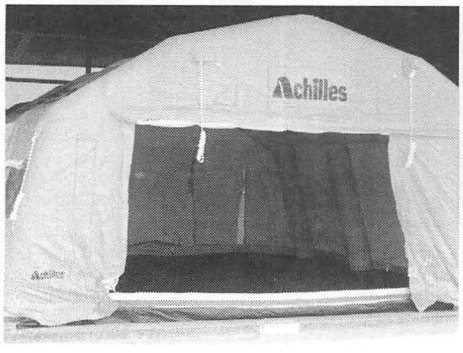


本脂肪測定








Achilles

災害時緊急検査室

生涯教育講演会

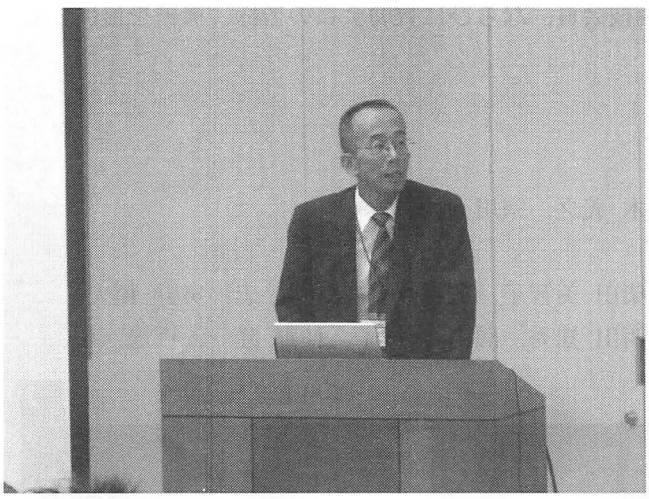
生涯教育講演会を企画運営して

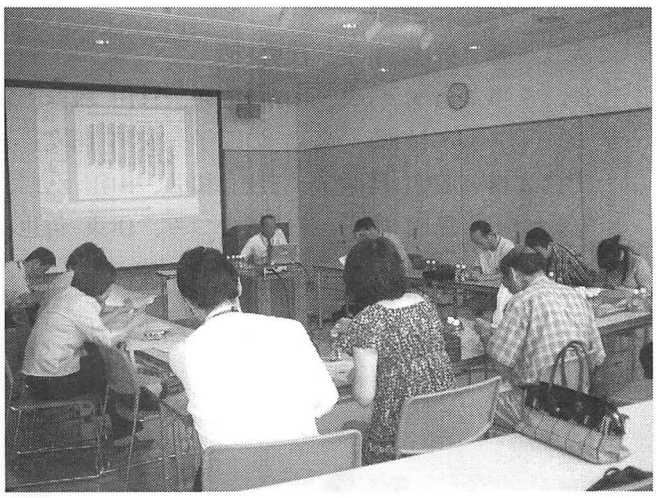
片岡　直樹

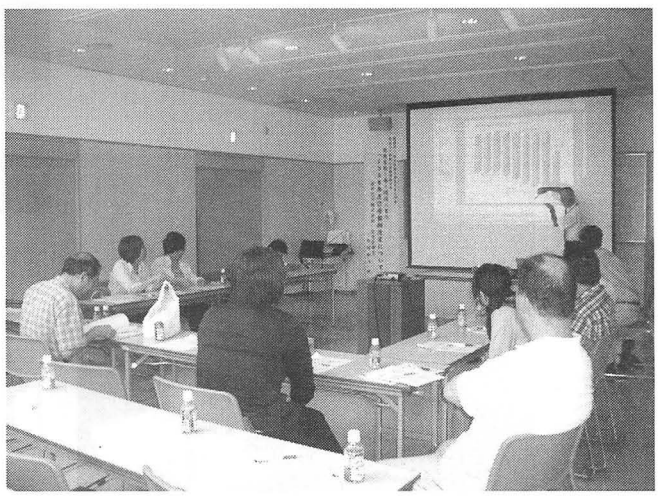
生涯教育担当として初めての取り組みでした。

紙面をお借りして御礼とお詫びを申し上げます。今年度診療報酬改定を受けまして、検査技師として、また検査室として病院運営に多大な貢献出来るチャンスと位置づけ検体管理加算についての講演会を栄研化学の西村氏を講師としてお呼びし、国保中央病院飛鳥ホールにて６月21日に開催いたしました。約30名の参加ではありましたが、講師の豊富なケーススタディと参加者全員でのディスカッションは圧巻でした。これを通じて検査室の繁栄と技術向上に繋がるひとつの契機になれば幸いです。

今後は会員の皆様が参加しやすい楽しい講演会運営に務めてまいります。今回、講演会開催にあたりご指導・ご協力頂きました皆様に感謝しております。次回の開催を乞うご期待ください。







橿原市健康と社会福祉の祭典

2007橿原市健康と社会福祉の祭典報告

安田　匡文

平成19年９月30日かしはら万葉ホールに於いて平成19年度橿原市健康と社会福祉の祭典が盛大に開催されました。この催しは従来、橿原市が行ってきた健康まつりと社会福祉大会を合同に開催するようになったもので、技師会からの参加も９回目となります。

臨床検査コーナーの内容は、血糖についてのポスター掲示、ＡＥＤの展示説明、血糖測定、血管年齢測定、医療相談などの従来から行っているものと、今回はストレス度測定、位相差顕微鏡による血球の観察と盛り沢山な内容となりました。特に位相差顕微鏡では通路側に配置したというプレゼンテーション効果と自分の血液が画面で見れるということもあり長蛇の列となりました。

当日の天気が雨だったこともあり、参加人数は前年より若干少ない212名となり、少し寂しい気はしましたが、参加人数だけでなく継続することが非常に大切であると思います。

これからも引き続き、県民への医療や公衆衛生の啓蒙活動を行っていきたいと思います。会員のご理解ご協力を宜しくお願いします。

最後に、当日実務委員として携わっていただいた奈臨技会員、ならびに賛助会員の皆様、機械を提供して頂いた、おかたに病院の皆様ありがとうございました。

〈参加関係者〉

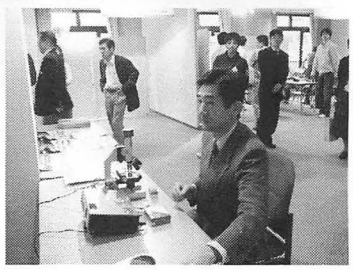
医　　師：岡本 康幸、浅野 博

理　　事：倉本 哲央、山本 慶和、林田 雅彦、新木 義之、宗川 義嗣
木村 薫、高橋 のぶ子、安田 匡文

実務委員：脇本 理栄子、吉田 和弘、山田 浩二、柴田 美智子、倉村 英二、仁井 忠、奥野 頼夫
島田 康司、松房 むつみ、伊東 哲也、西田 知秀、瀬山 喜世子、仲野 隆一、百地 直人

〈協力会社〉

フクダ電子南近畿販売株式会社
ニプロ株式会社



2007橿原市健康と社会福祉の祭典に参加して

近畿大学医学部奈良病院　柴田　美智子

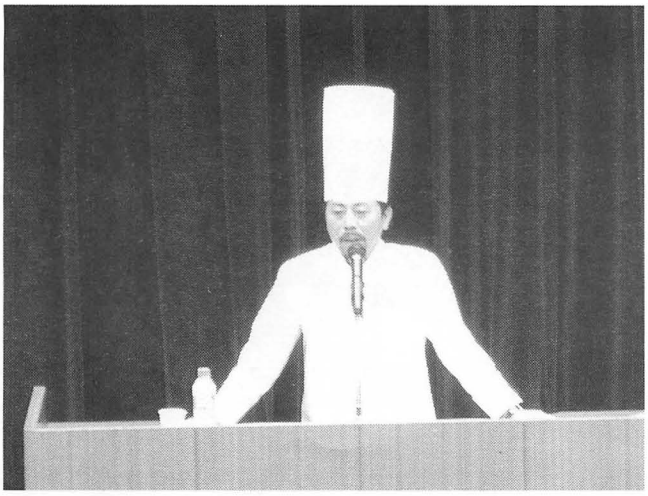
今回、橿原市健康と社会福祉の祭典に初めて参加させて頂きました。会場は催しが始まった瞬間、大勢の人で賑わい大盛況でした。臨床検査コーナーは血糖測定や血管推定年齢測定、また、自分の血液像を顕微鏡を使って見せてくれるコーナーなど、私自身もわくわくするような充実した内容でした。

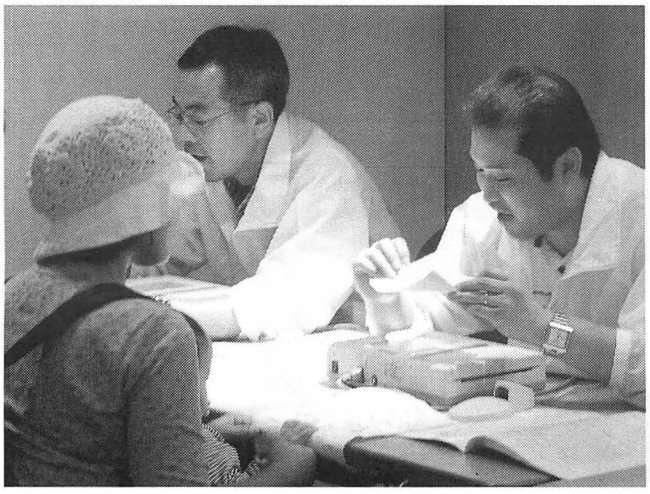
幅広い年齢層の方が参加しており、皆様と接していると病気の予防に努めよう、いつまでも健康でありたいという気持ちがとても伝わってきました。

私は普段、病理検査に携わっており、患者様と接する機会がほとんどありません。祭典に参加されていた皆様と話していると医学についての知識をたくさん持っており、とても驚いたのを覚えています。

病理検査だけではなく、臨床検査技師は全体的に患者様と接する機会が少なく、まだまだ認知度も低いのが現状です。このような催しにどんどん参加していき、皆様の意見を直接聞くことによって、臨床検査技師が社会に貢献できる場が大きく広がっていくのではないかと思いました。

今回は、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました





なら糖尿病デー2007報告

安田　匡文

平成19年11月４日奈良県文化会館に於いて「なら糖尿病デー2007」が開催されました。この催しは全国糖尿病週間にちなんだ糖尿病の予防とより良い治療を目的に一般市民を対象として行われるもので、日本糖尿病協会奈良支部主催で毎年開催されています。

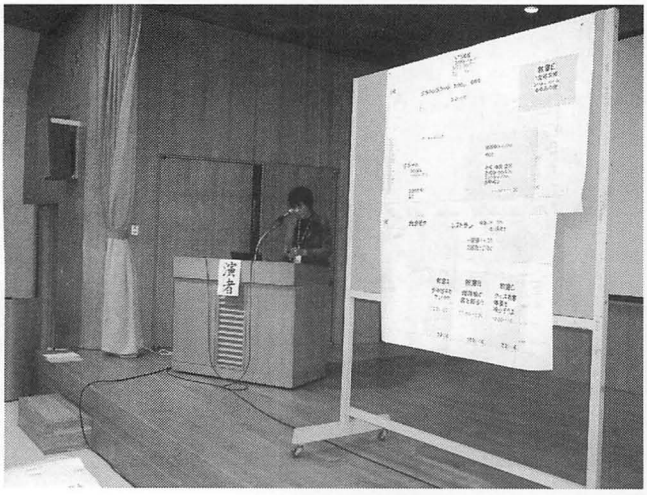
今回は特別講演に「糖尿病は薬なしで治す」の著者の渡邊昌先生をお招きし、糖尿病クイズや糖尿病教室などの企画が行われ、約200名の医療関係スタッフと協力しながら無事終了することができました。

これからも積極的に協力していきたいと考えております。会員の方々のご協力よろしくお願いします。

最後になりましたが、当日は忙しいにもかかわらず、実務委員としてご協力いただいた会員の方々ありがとうございました。

〈参加関係者〉

文 愛美、西原 幸一、鎌倉 佳子、木村 真美、延命 孝也、船内 和美、仁井 忠、木下 真紀
大峠 和彦、藤川 麻由美、豊田 充宏、瀧本 順三郎、川崎 広志、武田 侑子、酒井 篤子
江本 悦子、岸本 比呂子、速水 寿子、中村 純造、高橋 のぶ子、安田 匡文



なら糖尿病デー2007に参加して

おかたに病院検査科　岸本比呂子

2007年11月４日（日）奈良県文化会館にて「なら糖尿病デー2007」が開催された。「なら糖尿病デー」とは糖尿病の予防とより良い治療を目的に糖尿病週間にあわせて毎年おこなわれ、健康チェック（検査技師会は血糖およびＨｂＡ１ｃ測定を担当）や各職種による糖尿病教室、展示、特別講演などなどボリューム満載な日本糖尿病協会奈良県支部主催の一大イベントである。

実行委員長のひかりクリニック　細川彰子医師を筆頭に様々な職種が集まり、実行委員会を立ち上げ右往左往しながらもメーリングリストで意見を交換し、時々ひかりクリニックでご飯を食べ酒を飲みながら、会議か飲み会かわからん状態でいろんなことが決まっていった。一度、おかずを一品持ち寄って会議をすることになり、私はタッパーに鶏肉と大根の味噌煮なる地味なものを作っていったが、友人の薬剤師はル・クルーゼの真っ赤な鍋にロールキャベツを持ってきてえらく差をつけられた。

晴天の中、200人以上の来場者があり健康チェックで初めてＨｂＡ１ｃが高いことがわかった人や栄養士による栄養指導を受けることができとても喜んでくれた人、インスリン注射の長年の疑問を薬剤師に聞くことができてすっきりした顔で帰っていった人など来場者の皆さんのお役にたててよかった。私自身も他院所の検査技師と情報交換（という名のおしゃべり）をしたり、他職種と交流（という名のおしゃべり）を深めたりと、有意義な体験ができた。

「なら糖尿病デー2008」は2008年11月９日（日）に開催される。今回は実行委員を免れた（いや～残念）が当日は参加する予定だ。皆さんもぜひぜひ参加してくださいね。

ボウリング大会

ボウリング大会開催報告

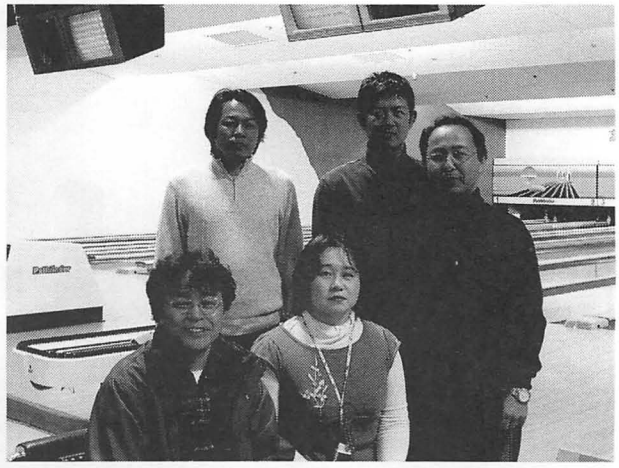
橋詰　千代子

2007年度のボウリング大会は12月15日(土)、15時30分より桜井駅前のチヨダボウルで開催されました。今回の参加者は会員と賛助会員合わせて29名となりました。

参加者は若干少なかったものの会場はパーン♪♪とピンのはじける音と共に其処彼処に歓声☺☺があがりストレス解消になったことでしょう。団体戦ともなると熱気が高まり、高得点をめざし真剣なまなざしでレーンめがけ投げ込んでいる姿が見られました。個人優勝は天理医学研究所の瀬川義明様、女性の部優勝者は済生会中和病院の三角由美様、団体の部優勝は天理よろづ病院３人組みでした。

ボウリングは若者から中高年者まで幅広い年齢層で楽しめるスポーツです。

今年度もボウリング大会を企画しますので、ルール等楽しめるプランがありましたらご連絡下さい。たくさんの方の参加をお待ち致します。



平成１９年度ボーリング大会に参加して

天理よろづ相談所病院医学研究所　瀬川　義朗

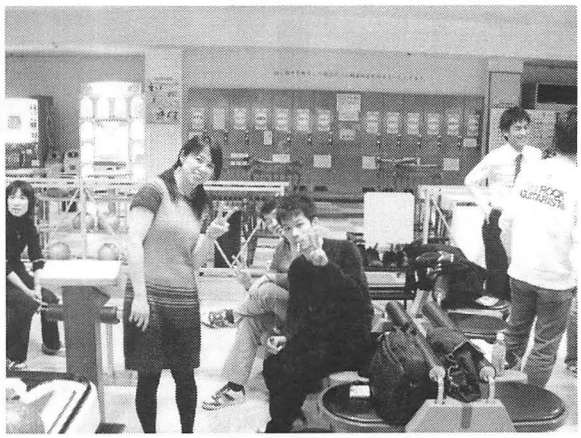
平成19年度技師会ボーリング大会は、平成19年12月15日（土）　15：00より、桜井駅前にあるチヨダボールにて開催されました。参加者はそれほど多くなく20-30人程度でした。私は、この日は忘年会の予定もなく、また膝が痛いの肩が上がらないのといった不調もなく暇でしたので、枯れ木も山の賑わいじゃということで参加させていただきました。

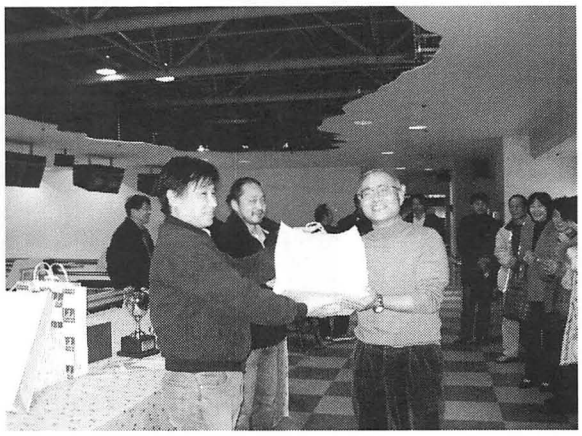
どういう事か、今年は優勝間違いなしといわれる常連の面々が、都合が悪かったのでしょうか参加されておらず、１ゲームが終わってみれば、私がトップでありました。市民体育大会でハイゲームを叩いた10年前なら元気もありましたが、もうこの年になって「優勝」の文字が自分にすり寄ってくるなど晴天の霹靂でした。まあ運も実力の内と納得いたしました。

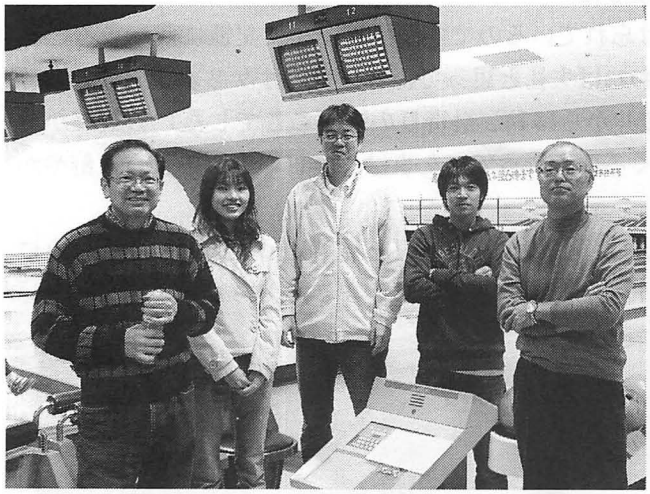
ただ、前年度チャンピオンの北川君が誇らしげに見せてくれた立派な優勝カップを自宅に１年間飾れるのは嬉しいなと思っていたら、今年から優勝カップは団体に預けるように変更されたと知ったときは、まことに残念でした。まあ、上手な方たちが欠席され、タナボタで転がり込んだ優勝ですので、充分満足してます。このときの副賞は，夕張メロンだったか、四国メロンだったかとにかくメロンで、こんな寒い時期に上手に育てておられるな、やはりプロは違うなと感心いたしました。

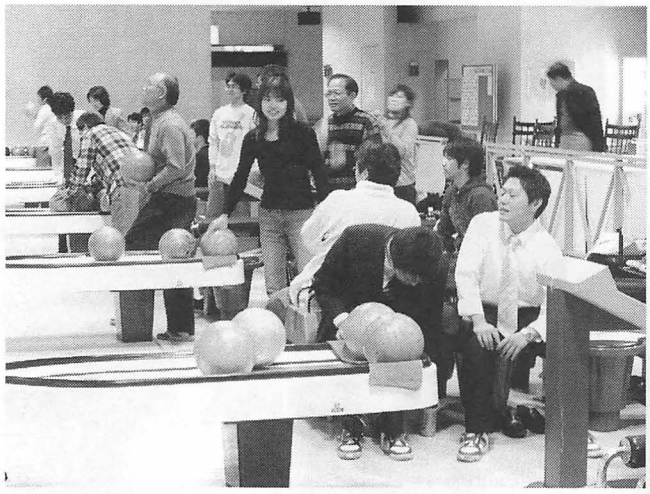
もうずいぶん前の事なので、ほとんど99．8％ほどは忘れているのですが、わずかに記憶に残ってることは、優勝したんだから義理でもやはり最後まで付き合わねば失礼と思って行ったカラオケ２次会でした。幹事のＫ氏が盛り上がり、帰路タクシーでJR三輪駅（桜井から移動し最寄りの駅がここでした）の最終かなんかに乗るために寒いホームで１時間に１本の電車がくるのを待っていた事は，昨日のことのように鮮やかに覚えております。

余談：先週避暑を兼ねて富士山頂まで行ってきました。二〇〇八年八月八日と見事に富士山の稜線のようにきれいに八が並んだ記念日でした。また偶然にも皇太子殿下と接近遭遇いたしました。ちょっと自慢したいだけでした。置筆









アウトドア同好会

アウトドア同好会開催報告

橋詰　千代子

今年度のアウトドア同好会は８月３日曽爾村に出かけ大自然を満喫して頂きました。42名とたくさんの方に参加して頂き、盛大に開催する事が出来ました。

参加者の皆さんお疲れ様でした。

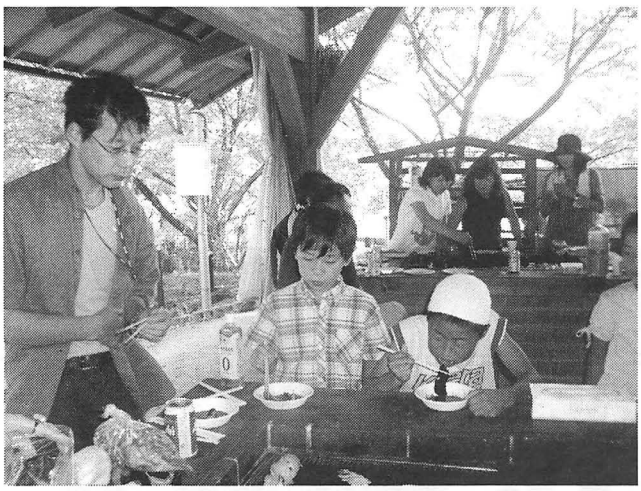
曽爾村は奈良県の東北端、三重県の県境に接する村です。村の大半を占める山地は室生火山群に属し、西側の柱状の岩肌が美しい鎧岳、兜岳、屏風岩と東には、雄大に広がる曽爾高原が訪れる人を楽しませてくれます。

橿原八木駅を出発して１時間余、静かな曽爾川の流域を走り曽爾高原に着きました。37℃を超える猛暑日となりましたが、新緑のすすきの中を歩くこと30分標高810mの亀山峠に到着です。高原を流れる風は汗をかいた体に心地よく，眼下に広がる山並みは頑張って歩いた人へのご褒美のようでした。

奥香落オートキャンプ場に場所を移し、先にバスから下り準備をしてくれた人達にタイミング良く肉を焼いてもらい、ビールで乾杯、バーベキューで舌鼓を打ちました。大自然の中での食事は事の他おいしかったです。

一通りお腹が満たされた後はのんびりと談笑する人と、子供たちと共に川遊びに出かける人に分かれました。

キャンプ場から車で５分程度、「やまとの名水」に選ばれた長走りの滝、済浄坊の滝に出かけました。滝を滑り台にして川に飛び込み、冷たい水の中を泳ぎ回り、子供たちの歓声の上がる中、渓谷のおいしい空気を体いっぱい浴びた一日でした。



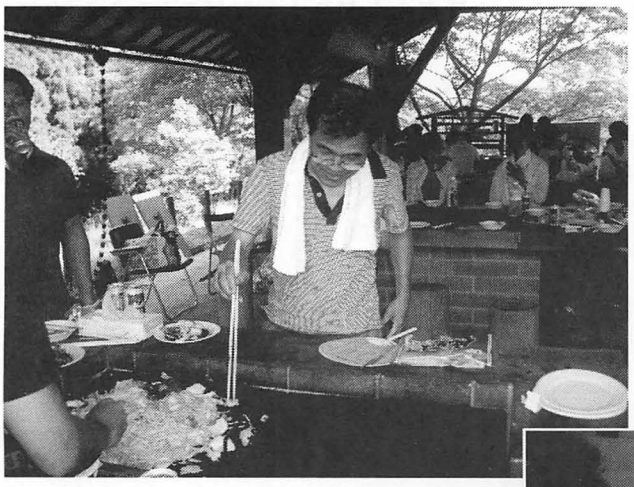
アウトドアに参加して

国保中央病院　三木　里奈子

８月３日に行われたアウトドア同好会主催のレクレーションに参加しました。八木駅を９時に出発しバスは一路曽爾村にあるオートキャンプ場へ！奈良県民になって６年が経ちますが曽爾村を訪れるのは初めてで、どんな所だろうと内心ウキウキ☆想像以上に自然がいっぱい（＾▽＾）癒されました！！到着後、曽爾高原にハイキング組とバーベキューの準備組に分かれ１時間程過ごしました。私は準備組だったので材料を切り、火をおこし準備ＯＫ後は焼くだけ・・・ところが、ハイキング組がなかなか帰って来ない。お腹が空いてもう限界に達したころ全員揃い乾杯、そしてバーベキューが始まりました。暑い日のビールは最高、お肉は柔らかくておいしかったので、ついつい食べ過ぎてしましました（´ω｀）お腹がいっぱいになり木陰でお昼寝をしたい気分でしたが、スイカを持って歩き、20分のところにある済浄坊の滝に行きました。そこは滝壺が大きくて何人かは泳いだり、飛び込んだりしていました。水はとても冷たくて暑さを忘れさせてくれました。そして持っていったスイカは滝壺に冷やしその場で切り分け皆でおいしくいただきました。（私はスイカが苦手だったので見てるだけでしたが・・・）

たくさん汗をかいた後はおまちかねの温泉！！私にとって入浴後の定番のコーヒー牛乳。腰に手を当てて一気飲み。実際は無理でしたけどね（笑）予定より少し遅れて病院に到着し、無事に１日が終わりました。

夏の暑い日の野外でのバーベキュー、暑さで倒れてしまうのではないかと心配していましが、何事もなくホッとしました。参加された皆さん暑い中本当にお疲れ様でした！！



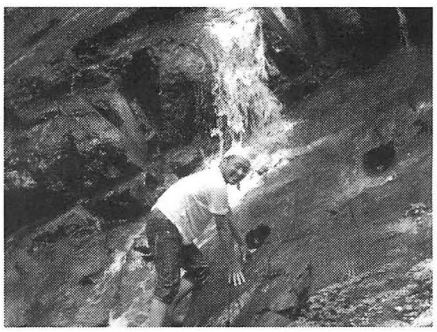
アウトドア同好会ハイキングに参加して

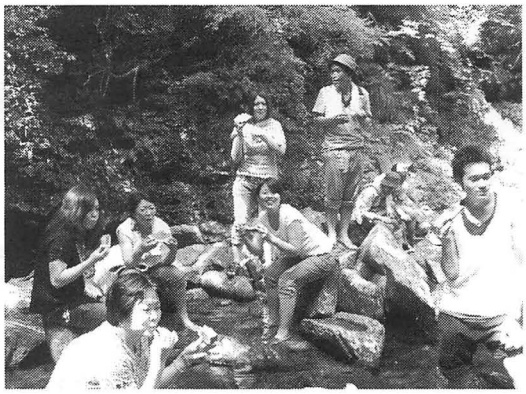
天理よろづ相談所　　石川　豊

今年、臨床検査技師として天理よろづ相談所に入所した私は、同時に奈良県臨床検査技師会にも入会しました。技師会の企画のひとつであるハイキングに「新人は絶対参加だ！」と声をかけてもらった私は、同期の新人を誘って参加させていただくことになりました。

この日は朝からめちゃくちゃ良い天気で、自転車をこいで集合場所に行くだけで、汗をかきました。雨よりはいいか、と思いながら待っていると同期のＹさん到着。しかし、Ｋさんは集合時間になっても現れず・・・まぁその後はいろいろありバスは出発。人数が思ったよりも少ないなぁと思っていたのですが、最後の集合地点の八木駅に到着したときには、バスがいっぱいになっていました。バスの中は軽く宴会になりながら、目的地の曽爾高原に到着。私は奈良に住んで７年目になるのですが、始めて行く場所で読み方すら分かりませんでした。はじめに高原にてハイキングだったのですが、私は同期で済生会奈良病院に就職したＡ君と、時間を忘れ山の向こう側を見るためにひたすら登り、気付けば頂上付近で集合時間に・・・志半ばで降りることになりました。遠くから見た緑のきれいな景色のとは違い、結構キツい道でしたが、２人でムキになっていました。遅れて帰ったときには30分遅れで迷惑をかけてしまいましたが、そこに山があったら登りますよね？笑　帰ってきてのバーベキューではビールが最高に美味く、肉も最高でした。お酒も良い感じで回ってきた頃、滝があるから川へ行こう！ということになり、みんなで滝を見に行ったのですが、テンションの上がった私と工学技士のＮさんは二人で服を着ているのも忘れ、川に飛び込み気持ちよく泳ぎました。Ｎさんはさらに調子に乗り滝にのぼろうとして私の後ろを見事に滑り落ちていました。でも、そこに川があったら泳ぎますよね？笑　滑り落ちたＮさんもびしょ濡れになった私も、けがも無く風邪も引かずにほんとに良かったと思います。その後はぬれた服が乾くことなく微妙に湿ったまま温泉へ。温泉では水に濡れて冷えてたこともあり、あったまることができました。きれいな露天もありとても気持ちよかったです。上がった後のコーヒー牛乳がまた最高でした。さすがにバテた私は帰りのバスではずっと寝てしまいました。

今回のハイキングはやんちゃしてしまいましたが、本当に楽しい１日でした。また、いろんな方々に出会える機会でもあり、いろんな話を聞くこともできるので、これからも勉強会やこのようなイベントには積極的に参加させていただこうと思いました。





スキー同好会

スキー同好会に参加して

天理医学研究所　岡田　雅幸

暑い、まったく暑い、大暑、猛暑、酷暑、炎暑といった今日この頃、北京オリンピックを見ながら書いています。スキーの話題です。これが冬期五輪なら雰囲気も出るのですがね。

とりあえず雪です、スキーです、スノボです、スノトレです、蕎麦です（なんで）。昨年より藤本一満理事のお誘いを受け奈臨技アウトドア同好会の主催により総勢24名がバスで戸隠スキー場に行ってきました。奈良県、京都、名古屋の数カ所の集合場所を回り、参加者を乗せ全くの初対面の方もおり顔なじみの方も居たりで自己紹介をしながらの車中お互いの距離も短くなってきたようです。夜明けを迎えると白銀の世界が広がって参りました。雪が少ない土地で暮していたせいか積雪をみると嬉しくなります（雪国のひとゴメンナサイ）。よーし頑張って滑るぞって隣席の友人に話します（内心は寒いのになんでこんな重いブーツ履いて板担いで山へ行かなあかんねんホンマ）。外へ出ると案外寒くなく空は抜けるように青く雪は白く輝きゲレンデではサングラスがないと目を開けていられないほどの眩しさです。

板を履いて脚の一部になったら全身を伸ばしてソールで雪面を踏み締め雪の感触を確かめます。何度スキーに来ても滑るまえはドキドキします。何となく集まった５人でグループをつくりリフト乗り場へ。不安があるので最初から飛ばさないでゆっくりと丁寧に滑りました（快調、雪質も最高）。山頂に登り美しい周囲の山々をバックに記念撮影です。

メンバーは我がHp OBのH氏（スキー）、社保郡山HpのN君（スキー）、ファルコの美女２人（スキーとスノボ）、名前はウーン？？各々おもいおもいの美しいシュプールを描きました。皆さん上手です、結構速いです。快適に滑走していましたが好事魔多し、急斜コブ付き（N君の好きな斜面）の中腹にてターンしたとたん私のふくらはぎを悪魔が襲いました。痛いのを我慢していると次に足の裏を襲いました。日頃の運動不足とバスでの睡眠不足が・・・ようやく追い付いて（謝）。大事をとって３時には下山しました。夕食時歓談自己紹介等のあと、部屋で談笑していると藤本理事顔なじみのペンションの主人も混じっての大宴会、こんなんで皆さん明日は大丈夫ですか？

２日目は高田市立HpのＫさんと滑走です。最近は学会でしかお会いしなかったのですが、まさかスキーができるとは！意外と上手でした。ガスのため初日ほど見晴らしはよくなく天候が荒れそうなのでまたまた、早めの下山にてレンタルスキーを返却。夕べ、藤本理事に「蕎麦のお勧めの店は何処や？」「クエイです」「えっ？クエ？」「サカナのクエやなくてクエイですけど」「食えって言われんでも喰デ」てなことで一同その場はクエイの意味がわからず、翌日ゲレンデ下の食堂通りに見つけました。クエイ！！区営食堂でした（笑）。クエイのざる蕎麦はさすがに腰が強く蕎麦本来の香りがあって美味でした。

そろそろ帰る集合の時刻です。また雪が降ってきました。

白銀の女神が囁きます「来年もネ！」。

旅行記

はるかな尾瀬

奈良医大　吉田　崇

５月の終わりに、まえまえから行きたいと思っていた尾瀬へ行って来た。

相棒は至仏登山を含めて３回目、僕は初めてで、やっと行けた、という感じだ。

なかなか行く機会が無かったのは、奈良からのアクセスの悪さだ。北アルプスや南アルプスよりもまだ遠い。家から車で約650ｋｍ、八ヶ岳なら往復してしまうくらいの走行距離だ。尾瀬の登山口に着くだけで丸一日つぶれてしまう。

そこまでして行きたかったのは、日本一の高層湿原、歌の歌詞にある風景を、ぜひ一目見てみたかったからだ。

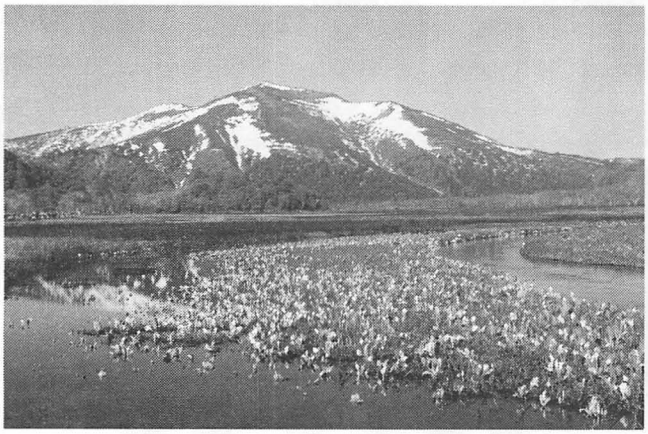
頭の中では、現地で二泊して尾瀬ケ原と尾瀬沼、燧ケ岳にも登るつもりだった。ところが直前の天気図では、一日目は完全に雨でアウト。悩んだ末、とりあえず尾瀬ケ原では一泊とし、燧ケ岳登山を諦めて出発した。

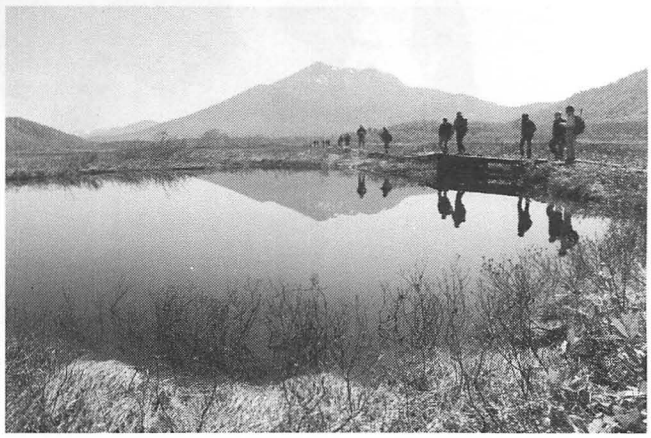
約11時間の雨中ドライブ。関越自動車道を沼田ＩＣで下り、コンビニで２日分の食料を調達し、山麓の民宿に夕方やっと辿り着いた。降り続いていた雨は、夜中に止んだようで、翌朝は梅雨の晴れ間となった。

鳩待峠でシャトルバスを降りると、関西の山ではありえないくらいの観光客でごったがえしていた。さすが尾瀬やなぁ、と驚きながらも山の鼻へ下る登山道に入ると、ここでもザックを背負った人の列。昨夜の雨と冷え込みで、木道がツルツルに凍結しているのだ。おまけに、無理に追い越そうとして、転ぶ人が続出。歩きやすそうな尾瀬の木道、濡れている場合は油断禁物だ。

上田代の山の鼻へ出ると、一気に視界が開けた。尾瀬ヶ原のど真ん中を縦断するように木道が続いている。はるか前方、正面には険しそうな燧ケ岳がそびえ、振り返れば、まだたっぷりと雪を残した至仏山が優雅に横たわっていた。

足元に広がる湿原は、ちょうど水芭蕉が見ごろで、360度、どこを切り取ってもすばらしい風景だ。



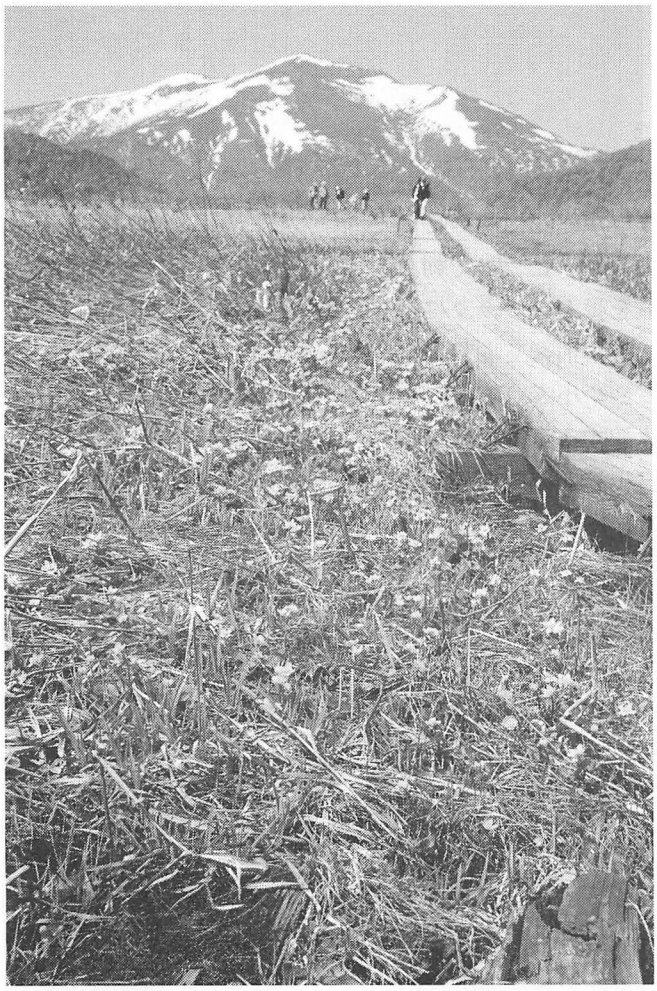


ときどき振り返っては至仏山を眺めながら、中田代の竜宮小屋まで来ると、人も少し減ったようで歩きやすく、正面の燧ケ岳もかなり迫ってきた。

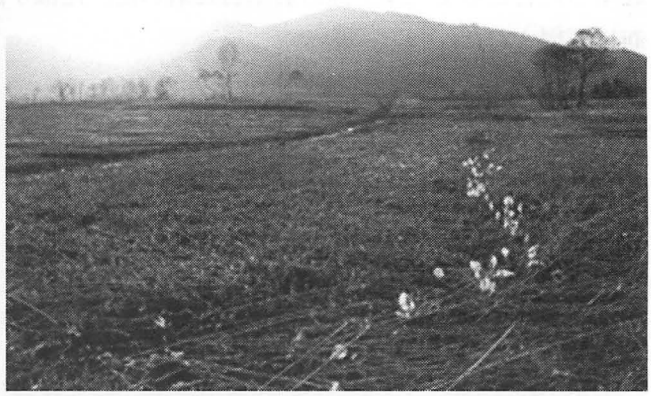
小屋に立ち寄り、ザックを下ろしてしばらく休憩、尾瀬のど真ん中で飲んだ挽きたての珈琲は格別の味だった。

竜宮から下田代の見晴に近づくにつれて、あちこちでカメラを構えた観光客が固まっている。鮮やかなリュウキンカが水芭蕉と競うように咲き誇り、リンドウ、ショウジョウバカマ、ザゼンソウなど、花を見つけるたびに足を止めて、なかなか前に進まなかった。

昼前に見晴十字路に到着。重いザックをテント場にデポし、少し尾瀬から北へ離れたところにある、三條ノ滝と平滑ノ滝を見に行くことにした。途中の赤田代でも水芭蕉が一面に咲き乱れ、木道にしゃがみこんでカメラを構えたりして、思う存分に写真を撮ることができた。木道は途中から細い登山道となり、一時間ほど下ったところで三条ノ滝の展望台に着いた。尾瀬ヶ原の水をひとまとめにし、一気に落とす真っ白い大瀑布に圧倒された。



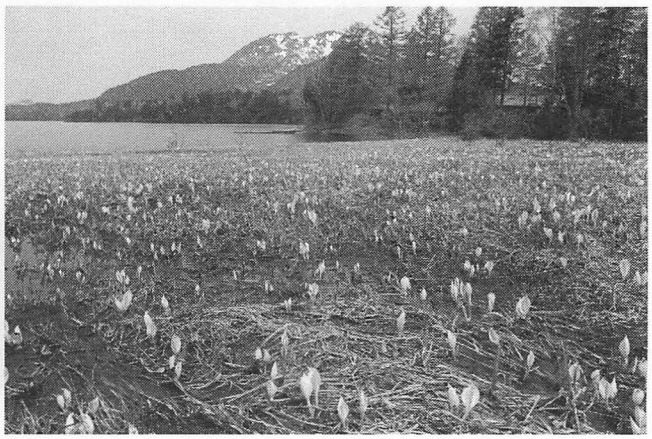
展望台でおにぎりを食べ、再びテント場に戻り、小屋で買ったチュウハイを飲んでいたら、ウトウトと寝てしまった。はっと目覚めたらすでに夕暮れ、カメラを片手にテントから出ると、水芭蕉の花が夕日を受けてキラキラと輝いていた。山の中で一日過ごすのはやっぱりいいなぁ、と綺麗な夕焼けの中で思った。狭いテントに戻り、昼食の残りのおにぎりを食べたら、また爆睡してしまったようで、夜の記憶が全くない。



翌朝、空腹で目が覚めた。テントの周りでは、カッコウが盛んに鳴いていた。

お湯を沸かして、夕べ食べるつもりだったレトルトのカレーピラフで朝食。

腹が膨れたら、美しい尾瀬ヶ原ともお別れだ。テントを畳んでザックに押し込み、尾瀬沼に向けてゆっくり歩き出した。道中の白砂峠では、ところどころ残雪で道が消えており、踏み跡を頼りに登った。白砂湿原へ下ってくると尾瀬沼はもうすぐだ。沼側の水芭蕉は、やや小ぶりで、これからが見ごろのようだった。沼尻の休憩所では平日にもかかわらず、観光客が多くて休憩する気にならず横目に通り過ぎた。自分もその観光客の一人なのだけれど。沼の東側をさらに一時間ほど歩くと、尾瀬沼ビジターセンターに着いた。ここでちょっと早い昼食。沼の後ろにそびえる燧ケ岳を見上げ、あのテッペンあたりで食べているはずやったのになぁ、と思いながらラーメンを作った。

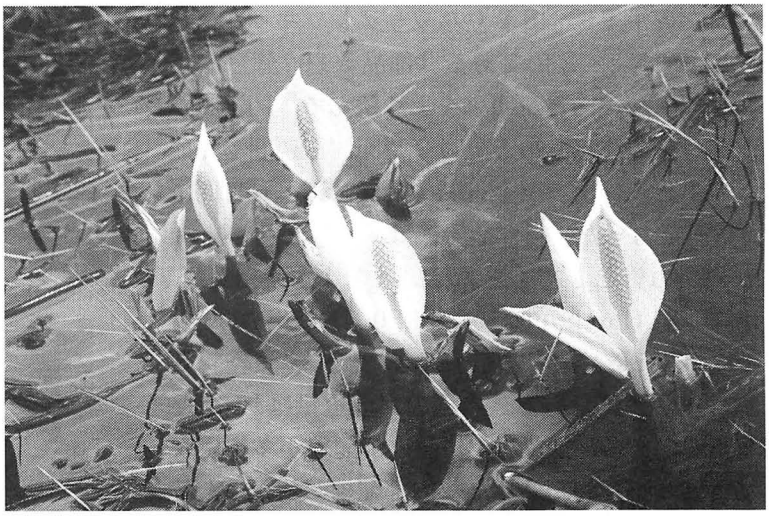


山では湯を沸かす程度で、ロクな物を食べないけれど、僕の山旅はテントを担いでいつもこんな感じだ。山小屋で泊まると食事に気を使わなくて済むが、シーズン中だとギュウギュウ詰めでツライ。テントと食料を背負って歩いていると、いざとなれば何処でも寝られる安心感と気楽さがあるのだ。ザックに詰めた食料は、食べきれずにそのまま持って帰ってくる時も多いけれど。

昼食のあと、尾瀬沼を離れ、三平峠を越えてバス停のある大清水へひたすら林道を歩いた。天気に恵まれ、小屋で買った冷たいトマトなんかがとても美味しかったりしたけれど、どこの山の頂上も踏まずに、もう下山してしまうのかと思うと、やっぱりちょっと悔しい。

現地一泊では尾瀬は広すぎて、縦断するだけで精一杯だった。しかし、ぼんやりとしていた尾瀬のイメージが、今回の旅ではっきりと脳みそに刻まれた。

はるかな尾瀬、リピート決定だ。次に来る時は、上から眺めてみたい。



会員だより

"管球式オーディオ・パワー・アンプ自作への誘い"

増谷 喬之

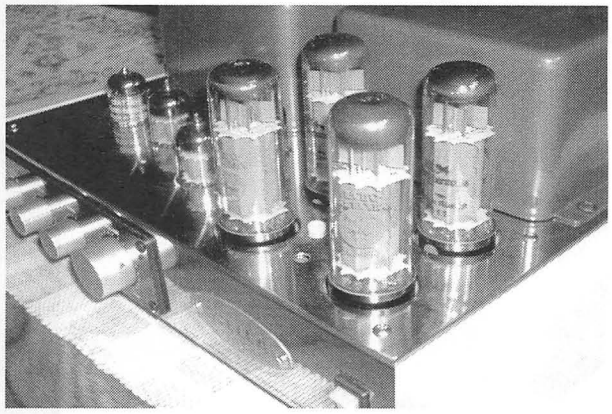
現在、現役生活から開放され時間的余裕もあり色々な趣味に挑戦、スロー・ライフを愉しんでおります。臨床検査に関しては、ＯＤＡ（政府開発援助）の一環として仏語圏アフリカ臨床検査技術研修（ＪＩＣＡ事業：2006年～2010年）を一昨年から担当、８月10日より約３ヶ月間、感染症検査に関し微力ではありますが国際貢献と、いま少しの現役を続けさせていただいている。

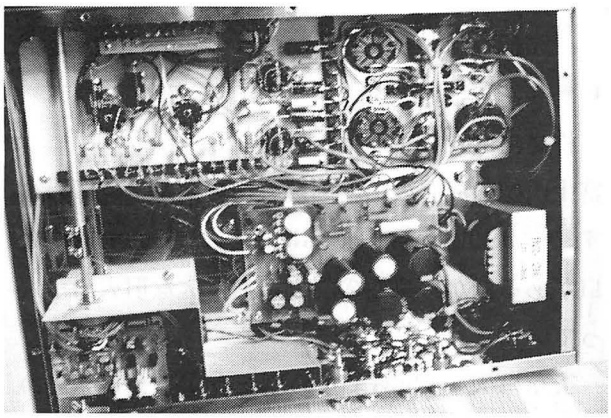
【管球式プリアンプ自作への誘い】

昨年の３月、35年前に購入したステレオアンプが故障、修理不能が管球式プリアンプ自作への誘いとなり、中学時代にスーパーヘテロダイン５球スーパーラジオなどの自作経験と、独身時代から集めたＬＰレコードを自作管球式アンプで聴きたいという思いが、自作アンプショップのハシゴとなった。昭和47年頃に購入したステレオ・コンポの中に「カセット・デンスケ」の愛称で人気があったプロ仕様ステレオポータブル・デッキ（ソニー）には思い出があります。ステレオ・マイクロフォンを購入、当時の国鉄駅構内でＳＬの録音、渓流のせせらぎ、集音マイクを自作しての早朝葛城山麓で野鳥の囀りを録音したのを思い出します。セット価格は当時40万円程度で購入した記憶がある。（因みに当時の給料は３万５千円位）

【自作に挑戦】

自作１号機は、昨年秋に自作入門編として紹介されたのがＴＵ―８８０パワーアンプキット（定格出力2.5w×２）である（部品数197個）。店長曰く「配線図と説明書をよく読んで、団子状ハンダ付けの注意のあと１日２時間、１週間で完成ですネ」の言葉で週２日間の挑戦、延べ６日間での完成となった。自作２号機は、今年２月に挑戦、五極出力管として有名なEL34を４本使用したHC-5EQ（Push pull STEREO INTEGRATED AMPLIFIER：定格出力20w×2）、真空管８本はロシア製である。本機の完成重量は15kgと重量感があり、部品は324個と手配線が多く完成には約３ヶ月間を要した。内部配線が終了した時点で再度の配線チェック、ハンダ屑と線材の切れ端などを取り除き、ハンダ付けチェックには充分時間を費やした。急ぐあまりチェックを怠ると通電後の重大なトラブルになりかねない。まず通電の確認は真空管を挿さずにＡＣ電源をＯＮ、EL34管のヒーター交流電圧（6.4～6.8ｖ）、対アース・プレート間直流電圧（360ｖ）、同様にグリット間電圧（－25～－36ｖ）を確認する。ここでチェックＯＫならばほぼ完成である。次にチューブを挿入し、左右の負荷電圧（バイアス電圧）と、ペアー管（EL34）のＤＣバランスが左右等しくなるように調整。他に回路図に記載している各パーツの電圧を測定し、これで万全の終了となった。早速、ＣＤプレイヤーとスピーカーにライン接続、メインスイッチＯＮ、チューブの熱が上昇するまで20秒ほどまって、ボリュームを少しずつ上げる。因みにＣＤは「レイ・チャールス」をセットしていた。左右のスピーカーから彼の声が流れた時には思わずガッツポーズ。その２～３分後スピーカーからブチと嫌な音がして彼の声が消滅、この時は焦りました。30分ほどかけて各部をチェックしたが判明せず、ここで慌てず「コーヒー・ブレイク」とした。再度アンプ裏面のパネルを外し、割り箸を使って配線の緩みの確認の結果、チューブ増幅管ヒーター部の配線ハンダ付け不良（所謂、団子状ハンダ）が原因であった。





【試聴感想と今後のチャレンジ】

初めて管球式アンプ自作に挑戦、解りやすい説明書で大きな間違いも無く完成することができました。回路図と実態配線図をチェックしながらの挑戦でしたが完成時の感激はいいものです。今までのアンプと管球式との音色の違いを表現することは大変難しいですが、デジタルサウンドが真空管回路を通過することで、力強く心地良い独特の響きが生み出されます。あえてワインのソムリエのように表現すれば、特に２号機は、「充分に伸びた低音域と分解能に優れた中・高音域共に透明感があり、安定した建造物のようなバランスのあのように表現すれば、特に２号機は、「充分に伸びた低音域と分解能に優れた中・高音域共に透明感があり、安定した建造物のようなバランスのある音色を聴かせてくれます？？」。管球式は、クラシックや室内楽の再生にベストであると言われていますが、ポップス、ＪＡＺＺもリッパに聴かせてくれます。試聴ソースには弦楽器（ＣＤ：チェロ、二胡など）が透明感をよく表現できベストでした。夜間にＢＧＭとして聴く時、少しボリュームを上げてもその柔らかな音色と思わず部屋の明かりを消したくなる、真空管ヒーターの灯りにノスタルジーを感じさせてくれています。次の３号機には出力管にKT88または1970年代に我が国に不時着したソ連ミグ戦闘機の心臓部に搭載されていた6C33C－Bを使用したキットに挑戦したいと思っています。

「“いちご”ジャムつくり」

県立奈良病院　　川越　善子

私の住んでいる所は、木津川市加茂町です。駅周辺は開発が進み、高層マンションやスーパーができています。でも、少し歩くと田んぼや畑、川や山のあるのどかな田舎町です。我家も家の裏に畑があり、野菜や果物や花を作っています（義母が主に作り、私は収穫するばかりです）。毎年、春の収穫で楽しみなのが“いちご”です。朝採りのフレッシュな“いちご”の味は格別です。

“いちご”のもう一つの楽しみがジャム作り。小さな“いちご”や部分的に傷んだものを使って自家製の“いちご”ジャムを作ります。簡単ですよ。

材料　いちご：　赤くよく熟した小さめのものが良い。　・・・適量

砂　糖：　三温糖（グラニュー糖が良く使われます）・・・いちごの半分量くらい

レモン果汁　・・・・・少々

準備　鍋：　ホーロー鍋

瓶：　煮沸消毒しておく（ジャム保存用）

作り方

① いちごはヘタを取って洗い、ザルにあげ水気をとる。

② 鍋にいちごを入れ、砂糖をまぶし水分が出てくるまで置いておく。

③ 水が出てきたら、弱火で焦げ付かないように時々混ぜながら煮立てる。白い泡状のアクを除く。

④ とろみがついてきたら、レモン果汁を入れ混ぜる。（冷えると更に固くなる）

⑤ 瓶に詰めて出来上がり。

味は、作る人の腕よりも材料の"いちご"に左右されます。赤く良く熟した小さめの"いちご"を使うのがポイントです。

皆さんも是非、作ってみてください。

お国自慢、熊本県編（案内）

工藤 研志

熊本県は、九州の真ん中に位置し、周りを長崎、佐賀、福岡、大分、宮崎、鹿児島県に囲まれています。県庁所在地は、熊本市です。人口は、平成20年７月現在、推計男856，181人。女966，151人。総計1822，332人です。昔は、肥後と呼ばれており、加藤清正が作った熊本城は、2007年に築城400年を迎えました。

今回、熊本県の自然、観光、食べ物について案内したいと思います。

自然

熊本は、山と海に囲まれており、山は、世界有数のカルデラ地帯である阿蘇山。海は、天草が有名です。阿蘇山は、東西約17ｋｍ、南北約25ｋｍという世界最大級のカルデラを、標高900m前後の外輪山が取り囲んでいます。カルデラ中央部には、阿蘇五岳があります。阿蘇五岳とは。

高岳（たかだけ）

標高1592m。阿蘇五岳の最高峰で、山頂部には東西約400m、南北約100mの旧火口があり、平坦な火口底には、ミヤマキリシマの群生が見られます。

根子岳（ねこだけ）

阿蘇五岳の東端に位置する山で、標高1433m。全体は美しい円錐形をしていて、ギザギザの山頂部から放射状に深い谷が刻まれています。

中岳（なかだけ）

現在も活動を続ける中央火口は阿蘇登山の中心です。巨大な火口内に、さらに第１～６の火口があります。活動しているのは最も新しい第１火口です。標高1323m。

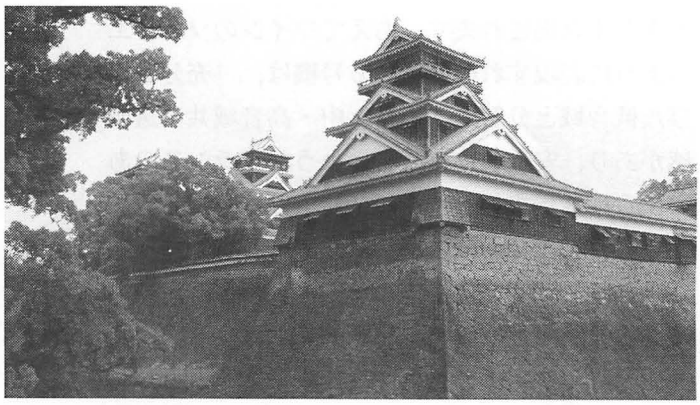
烏帽子岳（えぼしだけ）

標高1337m。とがった山頂部が烏帽子に似ていることからこの名が付きました。北斜面の旧火口は草千里ヶ浜として阿蘇を代表する名勝地になっています。

杵島岳（きじまだけ）

富士山型の成層火山。阿蘇五岳の西端に位置します。標高1321m。山頂部には直径約200mの旧火口があるほか、東西の斜面にも巨大な旧火口が残っています。

天草は大小120あまりの島を有する天草諸島から成っています。大きい島では、大矢野島、上島、下島があります。また、本土と天草の島々を結ぶ天草五橋（パールライン）があります。天門橋（１号橋）。大矢野橋（２号橋）。中の橋（３号橋）。前島橋（４号橋）。松島橋（５号橋）。全長17．4kmの道のりです。町としては、大矢野町。松島町。倉岳町。有明町。天草町。苓北町。河浦町。牛深町などが知られています。



観光

熊本市内観光は、築城400年の熊本城を中心に、路面電車に乗ってほしいです。路面は、田崎橋～熊本駅前～健軍町の２号線と、上熊本駅～健軍町の３号線の２つがあります。メイン通りとしては、上通、下通、などがあります。上通周辺は、上通アーケードを中心とした、通町筋から北に広がるエリアです。上通アーケードは熊本市現代美術館やホテルなどがあります。アーケードのはずれにはストリートカジュアルショップや雑貨店が多い上通並木坂。民家を改造した個性的なショップや

レストランが並ぶ上乃裏通りなどがあります。下通り周辺は、長さ約150m、幅15mのアーケードは、熊本一の繁華街として賑わっています。周辺には、おしゃれなショップやカフェが立ち並ぶプールスコート通りやシャワー通りがあります。

交通の中心としては、熊本交通センターがあり、バスの拠点になっております。市内を結ぶバスのほか、九州各地への高速バスも多く、熊本駅と並ぶターミナルとして機能しています。市内観光は、熊本城。水前寺公園。市電乗車が挙げられます。

阿蘇、天草方面の観光は、阿蘇山ロープウェーの空中散歩。草千里見学。南阿蘇鉄道乗車。黒川温泉の湯めぐりなどはどうでしょうか。南阿蘇鉄道は、ＪＲ豊肥本線と接続する立野駅と高森駅を結ぶローカル線です。車窓からの中岳や根子岳をはじめとする阿蘇の山々は雄大です。黒川温泉は、田の原川沿いにあり、昔ながらの湯治場が残る湯の街です。ほとんどの宿が露天風呂を持つことで有名で「入湯手形」を発行しています。

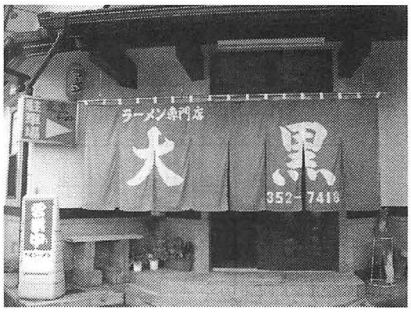
天草はキリシタンとのかかわりの深い地です。天草に初めてキリスト教が伝えられたのは永禄９年（1566）のこと。島民は、絵画、音楽、印刷技術などの南蛮文化を次々に取り入れていきました。キリスト教が禁教になると、天草四郎時貞を総大将としての「天草・島原の乱」が勃発しました。その後天草南蛮文化は、しっかりと守られ受け継がれていっています。異国情緒に浸る、殉教公園。大江天主堂。天草ロザリオ館。崎津天主堂。海上のマリア堂。チャペルの鐘展望公園などがあります。透明度抜群の天草の海で遊ぶには、イルカウオッチング。白鶴浜海水浴場などはいかがでしょうか。

食べ物については（食）

熊本県といったら、ラーメン。馬刺。からし蓮根が有名です。最後に有名なお店を紹介します。

ラーメン

大黒ラーメン。こむらさき本店。桂花ラーメン。味千ラーメン。黒亭。

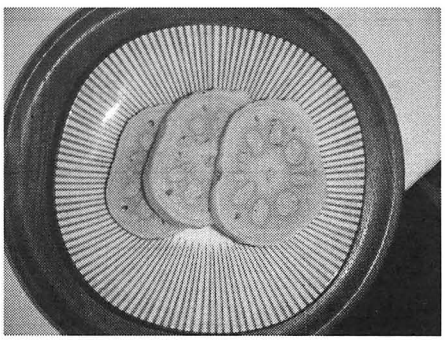


馬刺

菅乃屋上通店。

からし蓮根

森からし蓮根



以上が熊本県編（案内）でした。思いつくままに書かせていただきました。

居酒屋に行った時、隣に座った人の九州なまりを聞くと、つい声をかけてしまいます。

「九州出身ですか」「私は熊本です」と